

オリーブ褐色シルトで、径1mm前後の砂粒を多く含む。南端水口下部の②層は暗オリーブ褐色シルト。中南水口下部の②層は、オリーブ褐色シルトに径1mm前後の砂粒と不定形炭化物が少量混じる。中水口下部の②層は、オリーブ褐色シルトで、一部にぶい黄色を呈する。そして、北水口下部の②層はオリーブ褐色シルト。中南水口と中水口は②層が安定して堆積し、あるいはこれらが畦畔の一部であった可能性もある（図41-42~45）。

[SS-138]

SS-121の西側、幅50cm前後、比高差約4cmの断続的な畦畔で画されているが、調査範囲内で認めた広がりは、東西40cm前後。水田面の標高は26.05m強。東側SS-121との間に4箇所の水口を認め、南側にSS-137とも、畦畔東側が途切れ水口となると推測され、同様な状況は北側畦畔にも想定される。

[SS-135]

調査区東辺、DQ48・49区に位置し、東側は調査区外へと広がる。調査範囲内で検出した広がりは、東西1.9~2.4m、南北5.8m、水田面の標高は26.14m前後。わずかながら、掘り下げ気味か。南側は幅約50cm、比高差約1cmの微弱な高まり、西側は幅50~70cm、比高差約5~7cmの畦畔、北側は幅約70cm、比高差1cm以下の微弱な高まりでそれぞれ区画されている。

南北の畦畔は微弱な高まりを辛うじて見いだし、それぞれ西端が水口となるとしたが、埋土等の詳細は記録していない。一方、明確な畦畔を認めた西辺は、中央部と北端に水口が開く。中央部の水口は北半に攪乱があり、幅は70cm以上で、SS-122側に傾斜する。埋土はオリーブ褐色砂質土で、径1mm以下の砂粒を多く含み、砂質が強い。ただし、シルト質土もやや含み、粘性も少し作る。北端の水口は幅約60cm。やはりSS-122側に傾斜する。埋土はオリーブ褐色砂質土で、径2mm以下の砂粒を多く含み、シルト質土も少量含むが、砂質がかなり強い（図41-46・47）。

[SS-122]

DQ48・49区、DR48・49区にまたがって広がり、北辺推定約4m、南辺約5m、南北約5.7mの台形状を呈する。水田面の標高は26.14m弱。南側を幅50~80cm、比高差4~5cmの畦畔でSS-115と、東側を幅50~70cm、比高差6~8cmの畦畔でSS-135と、西側は幅40~50cm、比高差2~4cmの畦畔でSS-123と、そして北側を幅70cm弱、比高差約4cmの畦畔でSS-129とそれぞれ画

されている。

南畦畔には2箇所、東畦畔にも2箇所水口が開くが、これらについては既に詳述した。西側畦畔は南端に幅30cm弱の水口が開くが、埋土等の詳細は記録していない。また、北畦畔の西端部も開くが、詳細不明。

[SS-123]

SS-116の北側、DS48・49区を中心に見いだした。南側には東半に幅約40cm、比高差3~4cmの畦畔、西半は微弱な高まりによりSS-116と画され、東側は幅40~50cm、比高差2~4cmの畦畔でSS-122と画されている。しかし、西側は南のSS-116西畦畔の延長位置に辛うじて微弱な高まりを見いだしたに留まる。また、北側はSS-135・122北畦畔の延長に畦畔を想定したが見いだせなかった。想定される水田面の広がりは、南辺約2.2m、北辺推定3.3m、南北約5.5mの台形状。水田面の標高は26.13~14m。確認できた水口については、既に述べている。

[SS-124]

DS48・49区、DT48・49区にまたがって広がり、東辺推定約6m、西辺約5m、東西幅約7mを測る台形状を呈する。水田面の標高は26.09~26.11m。南側は幅約50cm、比高差約1cmの畦畔でSS-117と画され、東側は微弱な高まりにより辛うじてSS-123と区分され、西側には幅60cm前後、比高差1~2cmの畦畔でSS-125と画されている。北側も、等高線の走りからして、西半には畦畔が存在した可能性があるが、認識できていない。またその際には、SS-124北側・SS-129西側にもう1枚の水田面が広がることになる。

水口は西畦畔南端部で確認している。幅約80cmでSS-125側に傾斜する。埋土は径1mm前後の砂粒をまばらに含むオリーブ褐色シルト（図41-48）。

[SS-125]

DU48・49区に位置し、東西約3.5m、南北約5mを測る。水田面の標高は26.06m前後。南側のSS-118との間に幅60cm前後、比高差3~4cmの畦畔、東側SS-124との間に幅60cm前後、比高差約3cmの畦畔、西側SS-126との間に幅60~70cm、比高差2~3cmの畦畔、北側は幅90cm以上、比高差約3cmの畦畔がある。

東畦畔南端と南畦畔両端の水口については既に述べた。北畦畔と西畦畔は連続し、西畦畔の南端で水口が開く。幅50cm以上。段差をもってSS-126側に傾斜するが、埋土の詳細は記録していない。

[SS-126]

DU48・49区に位置する。南側は幅70~80cm、比高差5~6cmの畦畔、東側には幅60cm前後、比高差約2cmの畦畔、西側は幅50cm以上、比高差3~5cmの畦畔、北側を幅70cm以上、比高差約3cmの畦畔でそれぞれ区画され、平面台形状を呈する。水田面の標高は26.10m前後。

水口は東畦畔と西畦畔の南端にそれぞれ開くのみで、南畦畔と北畦畔は閉じたままである。東畦畔南端の水口については先に述べた。西畦畔南端の水口は幅約50cm。SS-127側に傾斜する。埋土は、上部の①層が一部明黄褐色を呈するオリーブ褐色シルトで、径1mm前後の砂粒を含み、小指先程のブロックが混じる。下部の②層はオリーブ褐色シルト（図41-49）。

[SS-127]

DW49区に位置し、東畦畔際は壘塁による擾乱があり、南側と西側は一連のL字状に畦畔で区画され、北側は調査区外へと水田面が広がる。結果、東西約5m、南北5m以上を測り、水田面の標高は26.05m弱。東側畦畔は幅50cm以上、比高差5~6cm、南畦畔は幅約60cm、比高差約4cmで、西側でも同じく幅約60cmで、比高差は約2cmとなる。

水口は、東畦畔南端と南畦畔東端に開き、前者は既に詳述済み。後者は西半に擾乱があり、幅は30cm以上でSS-126側へ傾斜する以外、詳細不明。

[SS-128]

DX49区を中心とし、南側を幅約70cm、比高差6cm前後の畦畔でSS-121と区画され、東側は幅約60cm、比高差約3cmの畦畔でSS-127と区画され、西側は幅約80cm、比高差約4cmの畦畔でSS-139と区画されている。なお北側へは調査区外に水田面が広がる。調査範囲内で確認した水田面は、東西約5.2m、南北約35m、水田面標高は26.03mである。

東畦畔には水口が開かない。南畦畔には3箇所水口が開き、いずれも南側からの導水が窺える。詳細は既に記述済み。一方、西側畦畔でも、壘塁擾乱を挟んだ南北でややずれがあり、クランク状の水口が存在した可能性がある。

[SS-139]

DY49・50区に位置し、東側を幅約80cm、比高差は約4cmの畦畔で区画され、西側と北側は水田面が調査区外へと広がる。擾乱に周囲を囲まれ、検出した範囲は狭い。水田面の標高は26.02m前後。水口については、

SS-138あるいはSS-128で既に述べている。

[SS-136]

調査区北東隅部のDQ49区に位置する。南側は幅約70cm、比高差1cm以下の微弱な高まりでSS-135と区画され、西側は幅約40cm、比高差約4cmの畦畔でSS-129と区画され、東と北へは調査区外へと水田面が広がる。調査範囲内で認められた水田面は東西約2.5m、南北約1.8mで、水田面の標高は26.13m前後。

南畦畔は西端が途切れ水口となるらしいが、詳細不明。西畦畔も南端が水口となる。幅約90cmで、底面はほぼ水平。埋土はオリーブ褐色砂質土で、径2mm以下の砂粒を多く含み、シルト質土も少量含むが、砂質が強い（図41-50）。

[SS-129]

最初に述べたように、南側水田並びに準じて東西にSS-129とSS-130に便宜的に分割していたが、畦畔が検出できなかったため、SS-129として一括する。

南側東端には幅70cm弱、比高差約4cmの畦畔がありSS-122と区画され、東側は幅約40cm、比高差約4cmの畦畔でSS-136と区画され、南端に水口が開く。

(2) 出土遺物

中層水田出土遺物には、中世の土師器、瓦器、陶磁器の他、それ以前の土師器、須恵器、瓦、弥生土器や、石器、鉄器がある。それらは、畦畔部分（b2層）と耕作土層（b3・4層）に大別される。また本来なら、後者は水田面単位あるいは畦畔単位で区別されるべきであるが、城北団地区割単位での取り上げとなってしまっており、一括して報告する。なお、明らかな近現代陶器3点がII-2-④層出土遺物に含まれたが、いずれも調査区西端あるいは北端の土層観察用畔からの出土で、混入品とみなしてII-2-④層出土遺物からは除外した（表6）。

① 畦畔部（b2層）出土の遺物

田畦畔部から出土した遺物のうち、固化できたのは6点（図42）。1は平底の土師器壺で、底部にわずかな立ち上がりをもち、底部に回転糸切り離しの痕跡を残す。2は小型の土師器壺底部で、回転糸切り離し痕を残す。3・4は貼付高台の土師器壺底部。ともに高台は断面方形。5・6は瓦器壺。5は横ナデにより口縁部がやや外反し、体部には指オサエ痕が残る。炭素の吸着はなく、全面灰白色を呈する。高台は矮小化し、径も小さい。13世紀以降に位置づけられよう（図

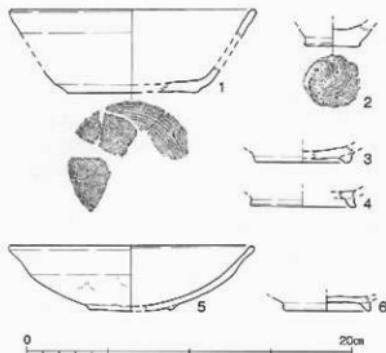


図42 II-2-④層蛙群部 (b2層) 出土遺物 (縮尺1/3)

版14-2)。一方、6は断面三角形の貼付高台で、高台径も大きく、5より古く位置づけられる。

② 耕作土・床土 (b3・4層) 出土の遺物

耕作土から出土した遺物から、図化提示できた遺物は104点(図43~45、図版14-3~図版15-2)。

1~54は土師器(図版14-3)。1~11は塊または壊の口縁部ないし体部。1・2は口縁部を横ナデし、端部を外方へ短く屈曲させる。3は、にぶい黄橙色の胎土に橙色の塗彩を施す。端部付近を横ナデし、端部を尖り気味に収める。4も灰白色の胎土に橙色の塗彩を施す。回転ナデにより器面に凹凸が見られる。5~7は体部への横ナデがやや強く、口縁部がやや肥厚し、端部を尖り気味に収める。8は体部から内溝してそのまま口縁部にいたり、端部を丸く収める。9も同様に端部が丸く収まる。10は内外面、11は外面に炭素が吸着し、一見瓦器風。10は端部を外側に小さく屈曲させ丸く収め、体部外面が横ナデにより多段状。11は体部片で、外面に横ナデが顯著。10・11とも、須恵器の範疇とすべきかもしれない。

12~31は壊底部。12~23は平底の底部で、15・20・21は底部にわずかな立ち上がりをもち、他は内溝して立ち上がり体部にいたる。16~23の底部には、回転糸切り離しの痕跡が残る。24~25は底部が外に強く突出し内面が深いタイプ。27~31は円盤状に厚い底部。28~29は小型で、26・30・31には回転糸切り離しの痕跡が残る。

32~54は貼付高台の塊底部。32は断面三角形の高台

で、灰白色の胎土に橙色の塗彩を施す。33は外に踏ん張った台形の高い高台で、接地面が凹線状に凹む。34・35の高台は丸みをもった台形状だが分厚い。36~38は断面三角形、39~41は丸みをもった台形状で薄い。42~45は断面三角形ながら、横ナデが顯著で細長い。46~51ではさらに細長くなる。そして、52~54では外底面が膨らんでいる。47・48の内面にはミガキが残り、後者はとくに平行する暗文風となる。また、50の高台内面には、回転糸切り離しの痕跡が残る。

55~67は内黒の黒色土器塊である(図版14-4)。55~60は口縁部。いずれも口縁部外面を横ナデ調整して外反するが、55は大きくS字状に外反し、56は端部をやや外方へ屈曲させる。61~67は貼付高台をもつ底部。61~63は断面三角形の高台で、64~66は端部にやや丸みをもった断面三角形の高台。67は細長い台形の高台である。いずれも内面にミガキを施したとみられるが、残りは良くない。

68~75は瓦器塊(図版14-5)。68~71は口縁部。68は口縁部横ナデが明瞭でやや外反する。体部外面にオサウ痕、内面にミガキがよく残る。75の底部と同一個体の可能性がある。69・70は外反が弱く、70はやや口径が小さい。71は内溝して口縁部にいたり、そのまま端部を丸く収める。72~75は貼付高台の底部。貼付高台断面は、72が比較的外に踏ん張った台形、73は三角形、74は低平な台形。精良な瓦質の胎土で、内面のミガキも丁寧。75は断面三角形ながら、高台径も小さく、貼り付けも丁寧でない、矮小化した高台。13世紀以降に位置づけられる。

76~81は貿易陶磁器で、81のみ青磁で他は白磁(図版14-6~8)。76は薄い玉縁状口縁部の白磁碗II類。77・78は厚い玉縁状口縁部の白磁碗IV類。79は碗体部で、外面下半が露胎である。80は削り出し窯の底部。外面下半は露胎で、削り時の工具のアタリ痕が残る。削り出しが浅く、見込みを凹ませる点で白磁IV-1 b類に類似する。81は龍泉窯系I・4類の青磁碗体部である。外面には2条の沈線、内面には2条1単位の片彫りの文様を施す。12世紀中頃~後半。この他に、DT48区で白磁体部小片1点、DV48区で白磁と龍泉窯系青磁の体部小片各1点が出土している。

82~88は須恵器。82・83は壊身の受け部。82は厚まなく、やや高い口縁部をもつ。84は平底の壊底部で、体部は直線的にのび、底部は回転ヘラ切り。内外面に火拂が認められる。85は鉢口縁部片。86は小型壺類の

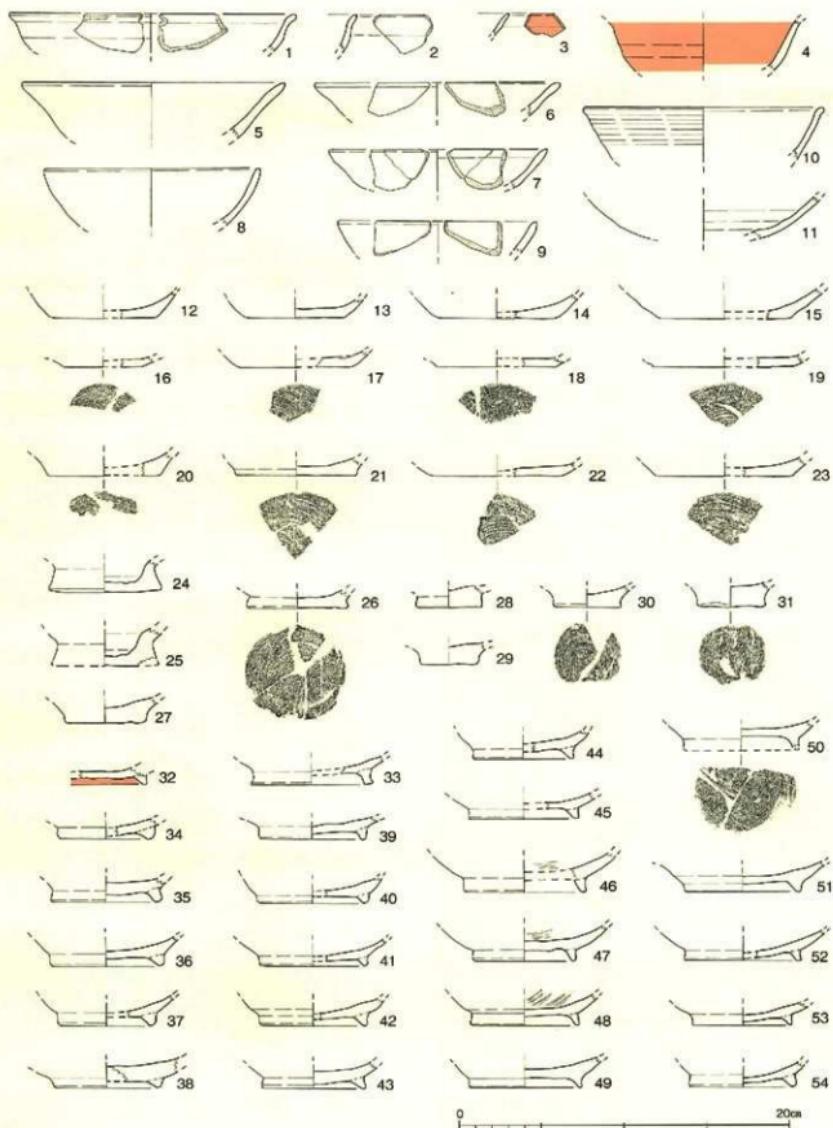


図43 II - 2 - ④層耕作土 (b3・4層) 出土遺物(1) (縮尺1/3)

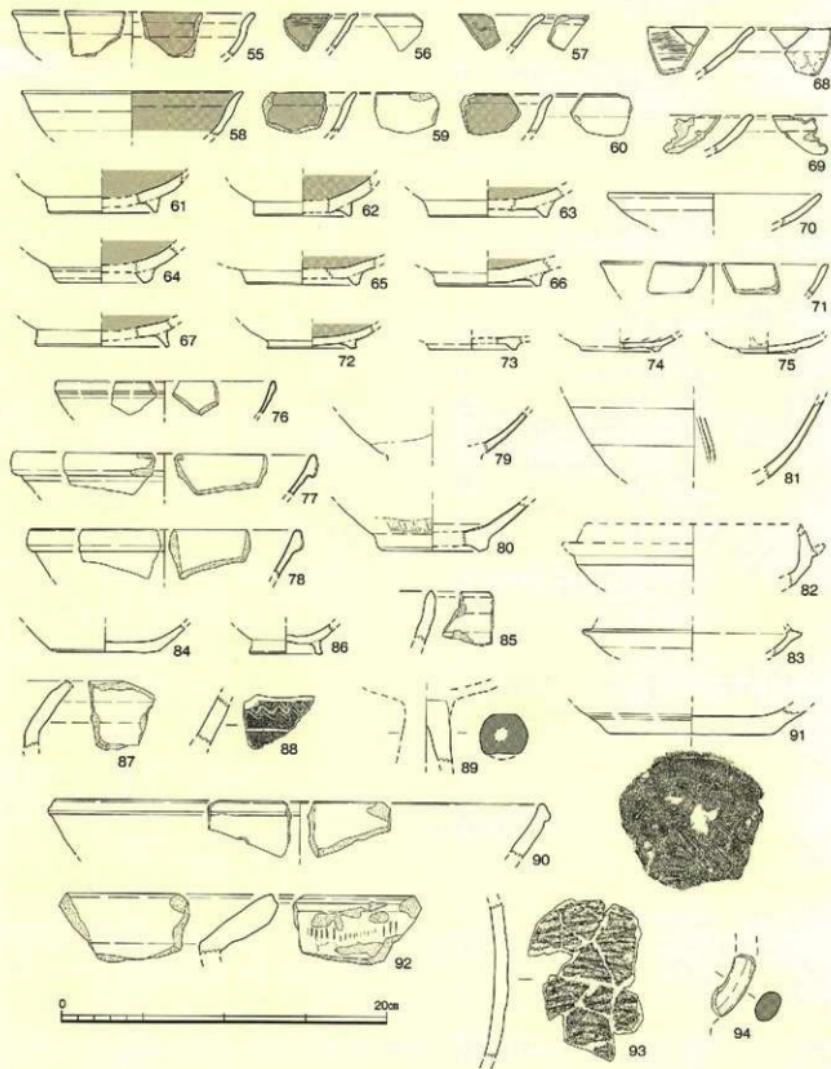


図44 II - 2 - ④層耕作土 (b3・4層) 出土遺物(2) (縮尺1/3)

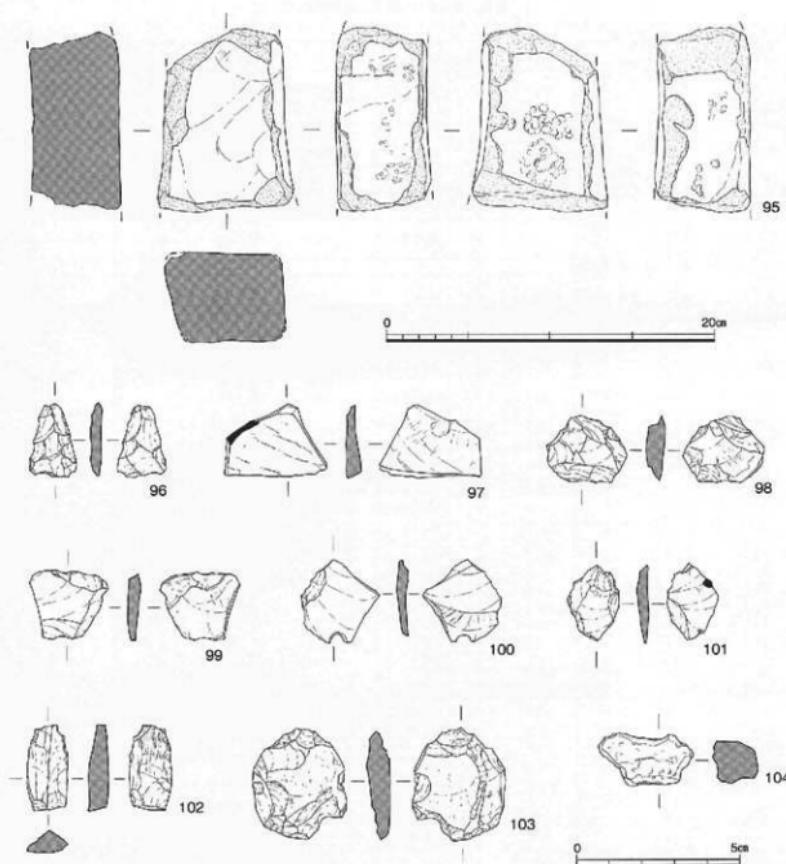


図45 II - 2 - ④層耕作土 (b3・4層) 出土遺物(3)-石器・鉄器- (縮尺1/3・2/3)

高台部。87は壺の直線的な口縁部。端部は横ナデによりやや外反し、その端部は面をなす。88は壺口縁部。外面に波状文および沈線文を施す。

89は土師器高杯の脚柱部。環部と脚柱部は別造りで、側面に粘土を補充して接合したと想定される。断面形は不明瞭ながらも多角形を呈している。

90はこね鉢口縁部。端部を丸く收め、東播系II-2

段階の口縁部と考えられる。焼成は軟質で、瓦質土器に近似する。91は底部で、焼成は軟質で著しく磨滅しているが、底面にハラ切りの痕跡が認められる。

92は土師器壺の口縁部。外面は縦方向のハケ目の後、ナデを施す。93は土師器壺肩部片。外面横方向のタタキ調整。

94は弥生土器の把手部。断面は梢円形を呈する。

表 6 II - 2 - ④層出土遺物観察表

附表 6-2-④層耕作部(62年) 地上遺物							取扱番号
遺物番号	出土位置	遺物内容	文様・調整・色目・出土などの特徴				
1 R30073	r3216 b2層	SS126北壁 (D1-DV49)	土器部 砕	全形 内外面刷毛地。外底面凹切り削し底。内外面浅黄色。外底面黄褐色。微細な石英・長石まばらに含む。	6		
	r3128 b1層	SS316	土器部 砕	全形 内外面刷毛地。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒。赤色粒わずかに含む。			
2 R30068	r3169 b2層	SS101-0066頭端 (D1-DV45)	土器部 砕	内外面刷毛地。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒。赤色粒わずかに含む。	6		
	r3192 b2層	SS11-1-0066頭端 (D1-DV47)	土器部 砕	全面刷毛。内外面淡黄色。微細な石英・長石。赤色粒わずかに含む。			
3 R30072	r3219 b2層	SS13-0066頭端 (D1-DV45)	土器部 砕	高台頭造模。内面刷毛。灰白色。微細な石英・長石。赤色粒わずかに含む。	6		
	r3219 b2層	SS126尾根 (D1-DV49)	瓦器 砕	全形 外底面千手捺。下手指凹サエ。内面刷毛。灰白色。石英・長石の砂粒とチャートの斑縞わずかに含む。			
5 R30064	r3216 b2層	SS126尾根 (D1-DV49)	瓦器 砕	全形 外底面千手捺。下手指凹サエ。内面刷毛。灰白色。石英・長石の砂粒とチャートの斑縞わずかに含む。	6		
	r3219 b2層	SS33-1066頭端 (D1-DV45)	瓦器 砕	全形 内面刷毛。外底面淡黄色。微細な石英・長石。赤色粒わずかに含む。			
6 R30076	r3122 b1層	SS122	瓦器 砕	全面刷毛。外底面淡黄色。微細な石英・長石。赤色粒わずかに含む。	6		
	r3122 b1層	SS122	瓦器 砕	全面刷毛。外底面淡黄色。微細な石英・長石。赤色粒わずかに含む。			
附表 6-45 II - 2 - ④耕作土上(63-64年) 地上遺物							
遺物番号	出土位置	遺物内容	文様・調整・色目・出土などの特徴	取扱番号			
坪原 実測 放上 層部	土器部	経溝・地溝	柱状				
1 R30185	r3207 b3-4層	D46	土器部 砕	外底面ナメ。外周四マサカ。外面部白色。内面淡黃褐色。石英・長石の砂粒。赤色粒わずかに含む。	7		
2 R30182	r3203 b3-4層	D946	土器部 砕	外底面ナメ。外周赤褐色。内面灰褐色。微細な石英・長石わずかに含む。	7		
3 R30123	r3203 b3-4層	D918	土器部(小形) 砕	外底面ナメ。外周赤褐色。内面灰褐色。微細な石英・長石。赤色粒わずかに含む。	7		
4 R30142	r3202 b3-4層	D748	土器部(小形) 砕	外底面ナメ。外周赤褐色(赤系)。内面灰褐色。微細な石系・長石わずかに含む。	7		
5 R30136	r3202 b3-4層	D747	土器部 砕	外底面ナメ。外周赤褐色。微細な石系・長石わずかに含む。	7		
6 R30109	r3202 b3-4層	D748	土器部 砕	外底面ナメ。内面灰褐色。微細な石系・長石。赤色粒わずかに含む。	7		
7 R30117	r3202 b3-4層	D747	土器部 砕	外底面ナメ。内面灰褐色。微細な石系・長石。赤色粒わずかに含む。	7		
8 R30175	r3202 b3-4層	D48	土器部 砕	全面刷毛。灰白色。石英・長石の砂粒とチャートの斑縞。	7		
9 R30188	r3202 b3-4層	D48	土器部 砕	全面刷毛。灰白色。微細な石系・長石。赤色粒わずかに含む。	7		
10 R30002	r3202 b3-4層	D647	土器部 砕	全面刷毛。灰白色。微細な石系・長石わずかに含む。	7		
11 R30002	r3202 b3-4層	D648	土器部 砕	外底面ナメ。内面灰褐色。微細な石系・長石・灰白色の砂粒とチャートの斑縞。	7		
12 R30011	r3203 b3-4層	D846	土器部 砕	外底面ナメ。内面灰褐色。微細な石系・長石・灰白色の砂粒とチャートの斑縞。	7		
13 R30051	r3207 b3-4層	D946	土器部 砕	外底面ナメ。内面灰褐色。微細な石系・長石。赤色粒わずかに含む。	7		
14 R30110	r3207 b3-4層	D846	土器部 砕	外底面ナメ。内面灰褐色。微細な石系・長石。赤色粒わずかに含む。	7		
15 R30012	r3217 b3-4層	D646	土器部 砕	外底面ナメ。内面灰褐色。微細な石系・長石。赤色粒わずかに含む。	7		
16 R30016	r3202 b3-4層	D647	土器部 砕	外底面ナメ。内面灰褐色。微細な石系・長石。赤色粒わずかに含む。	7		
17 R30181	r3203 b3-4層	D946	土器部 砕	外底面ナメ。内面灰褐色。微細な石系・長石。赤色粒わずかに含む。	7		
18 R30033	r3204 b3-4層	DX47	土器部 砕	全面刷毛。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒とチャートの斑縞。	7		
19 R30039	r3218 b3-4層	DV66	土器部 砕	全面刷毛。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒とチャートの斑縞。	7		
20 R30087	r3204 b3-4層	DW46	土器部 砕	全面刷毛。内面灰褐色ナメ。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒とチャートの斑縞。	7		
21 R30050	r3207 b3-4層	D646	土器部 砕	内面灰褐色ナメ。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒とチャートの斑縞。	7		
22 R30170	r3208 b3-4層	DV46	土器部 砕	内面灰褐色ナメ。外底面凹切り削し底。灰白色。内面灰褐色。微細な石系・赤色粒。	7		
23 R30154	r3208 b3-4層	DU47	土器部 砕	全面刷毛。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒。	7		
24 R30002	r3208 b3-4層	D947	土器部 砕	全面刷毛。内面灰褐色。灰白色。石英・長石の砂粒。	7		
25 R30036	r3216 b3-4 c1-2層	DS446	土器部 砕	半径約15cm。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒とチャートの斑縞。	7		
26 R30090	r3291 b3-4層	D46	土器部 砕	全面刷毛。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒とチャートの斑縞。	7		
27 R30244	r3253 b3-4層	DS48	土器部 砕	全面刷毛。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒とチャートの斑縞。	7		
28 R30091	r3229 b3-4層	DE46	土器部 砕	全面刷毛。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒とチャートの斑縞。	7		
29 R30060	r3272 b3-4層	DU48	土器部 砕	全面刷毛。内面灰褐色。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒。	7		
30 R30053	r3276 b3-4層	DV66	土器部 砕	内面灰褐色ナメ。外底面凹切り削し底。灰白色。内面灰褐色。石英・長石の砂粒。	7		
31 R30162	r3276 b3-4層	DV66	土器部 砕	全面刷毛。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒。	7		
32 R30033	r3223 b3-4 c1-2層	DV50III	土器部(小形) 砕	全面刷毛。西面内面灰褐色(赤影強め)。赤系灰褐色。石英・灰白色の砂粒。	7		
33 R30171	r3278 b3-4層	DV46	土器部 砕	外底面ナメ。内面灰褐色。外底面灰褐色。内面灰褐色。灰白色。石英・長石の砂粒。	7		
34 R30078	r3227 b3-4層	QD46	土器部 砕	高台造模。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒。	7		
35 R30219	r3228 b3-4 c1-2層	DY47	土器部 砕	全面刷毛。外底面凹切り削し底。灰白色。内面灰褐色。石英・長石の砂粒。	7		
36 R30111	r3224 b3-4 c1-2層	DW45III	土器部 砕	全面刷毛。灰白色。微細な石系。	7		
37 R30064	r3276 b3-4層	DV46	土器部 砕	全面刷毛。灰褐色。石英・長石の砂粒。	7		
38 R30109	r3246 b3-4層	DS46	土器部 砕	全面刷毛。外底面凹切り削し底。灰白色。石英・長石の砂粒。	7		
39 R30099	r3226 b3-4層	DR45	土器部 砕	全面刷毛。灰白色。石英・長石の砂粒。	7		
40 R30133	r3228 b3-4層	DT46	土器部 砕	全面刷毛。外底面凹切り削し底。灰白色。内面灰褐色。	7		
41 R30172	r3278 b3-4層	DV66	土器部 砕	全面刷毛。灰白色。石英・長石の砂粒。	7		
42 R30137	r3260 b3-4層	DT47	土器部 砕	全面刷毛。外底面凹切り削し底。灰白色。内面灰褐色。	7		

遺物番号	出土位置	出土状況	遺物内容	文様・調査・色調・土色などの特徴	区分番号	
33 実測 砂上	層位	遺物・施設	長持	器種	器形	
33 R30144	r2268	b3・4層	D146	土器部	陶	破片
41 R30158	r2269	b3・4層	D247	土器部	陶	破片
45 R30228	r2322	b3・4層 cl-2層	DV5001	土器部	陶	底部
46 R30227	r2321	b3・4層 cl-2層	DU4602	土器部	陶	破片
47 R30132	r2256	b3・4層	DY46	土器部	陶	破片
48 R30194	r2341	b3・4層	D546	土器部	陶	底部
49 R30131	r2259	b3・4層	D746	土器部	陶	底部
50 R30215	r2323	b3・4層	DW4501	土器部	陶	底部
51 R30066	r2277	b3・4層	DY46	土器部	陶	破片
52 R30065	r2327	b3・4層	DV46	土器部	陶	底部
53 R30068	r2250	b3・4層	D546	土器部	陶	底部
54 R30038	r2250	b3・4層	D747	土器部	陶	底部
55 R30061	r2241	b3・4層	DS46	黑色土器(内)	陶	口縁部・内部剥離部
56 R30062	r2241	b3・4層	DQ17	黑色土器(内)	陶	口縫部・内側剥離部
57 R30068	r2229	b3・4層	DQ17	黑色土器(内)	陶	口縫部・内側剥離部
58 R30130	r2258	b3・4層	DS48	黑色土器(内)	陶	口縫部・内側剥離部
59 R30127	r2254	b3・4層	DS48	黑色土器(内)	陶	口縫部
60 R30183	r2283	b3・4層	DW46	黑色土器(内)	陶	口縫部・内側剥離部
61 R30173	r2277	b3・4層	DV46	黑色土器(内)	陶	口縫部
62 R30113	r2247	b3・4層	D546	黑色土器(内)	陶	口縫部
63 R30184	r2283	b3・4層	DW46	黑色土器(内)	陶	口縫部
64 R30153	r2267	b3・4層	D146	黑色土器(内)	陶	口縫部
65 R30198	r2303	b3・4層	DY48	黑色土器(内)	陶	口縫部
66 R30139	r2260	b3・4層	D747	黑色土器(内)	陶	口縫部
67 R30214	r3327	b3・4層 cl-2層	DY4501	黑色土器(内)	陶	高台周邊遺物
68 R30173	r2279	b3・4層	DY47	瓦器	陶	口縫部
69 R30123	r2343	b3・4層	DY48	瓦器	陶	口縫部
70 R30089	r2244	b3・4層	DQ48	瓦器	陶	口縫部
71 R30445	r2266	b3・4層	D146	瓦器	陶	口縫部
72 R30140	r2250	b3・4層	D747	瓦器	陶	口縫部
73 R30092	r2236	b3・4層	SS115	瓦器	陶	金剛輪廻
74 R30146	r2265	b3・4層	D146	瓦器	陶	金剛輪廻
75 R30155	r2308	b3・4層	DU47	瓦器	陶	金剛輪廻
	r3105	b3・4層	DW46	瓦器	陶	金剛輪廻
	r3142	b3・4層	SS127	瓦器	陶	金剛輪廻
76 R30241	r2309	b3・4層	D747	白磁	磁	口縫部
77 R30157	r2257	b3・4層	D147	白磁	磁	口縫部
78 R30147	r2266	b3・4層	D146	白磁	磁	口縫部
79 R30095	r2255	b3・4層	DX47	白磁	磁	口縫部
80 R30247	r2358	b3・4層	D746	白磁	磁	口縫部
81 R30177	r2280	b3・4層	DV48	青磁	磁	体部
82 R30149	r2266	b3・4層	D146	黑漆器	漆器	内側面
83 R30128	r2255	b3・4層	D549	黑漆器	漆器	内側面
84 R30004	r2315	b3・4層 cl-2層	DR50	漆器	漆	内側面
85 R30220	r2301	b3・4層	DY47	漆器	漆	内側面
86 R30036	r2310	b3・4層 cl-2層	DR50	漆器	漆	内側面
87 R30212	r2325	b3・4層 cl-2層	DW5001	漆器	漆	内側面
88 R30215	r2328	b3・4層 cl-2層	DY4601	漆器	漆	内側面
89 R30035	r2321	b3・4層	DQ48	土器部	陶	口縫部
90 R30188	r2266	b3・4層	DW47	粗面質陶器	陶	口縫部
91 R30046	r2263	b3・4層	DW46	粗面質陶器	陶	口縫部
92 R30161	r2276	b3・4層	DU49	土器部	陶	口縫部
93 R30121	r2253	b3・4層	DS48	土器部	陶	口縫部
94 R30097	r2330	b3・4層	DY46	朱生土器	漆器	口縫部

遺物番号	実測	取上	層位	出土状況		遺物内容	文様・調整・色調・胎土などの特徴	枚数 参考 番号
				通傳・地区	種別	番種	部位	
95	R30097	r2227	b3・4層	DR46	石器	砥石	砂利質。表面濃82g。4面とも砥面として使用。刃面には敲打痕が複数に残る。一連の磨削面。	9
96	R30097	r2244	b3・4層	DR49	石器	石器	全形 サスカイト製。平基式。複数面12g。磨削面質。	9
97	R30082	r2229	b3・4層	DQ47	石器	剥片	サスカイト。複数面30g。	9
98	R30084	r2229	b3・4層	DQ47	石器	剥片	サスカイト。複数面24g。	9
99	R23119	r2250	b3・4層	DS47	石器	剥片	サスカイト。複数面15g。	9
100	R30000	r2254	b3・4層	DQ49	石器	剥片	サスカイト。複数面13g。	9
101	R23286	r2222	b3・4層	DQ48	石器	剥片	サスカイト。複数面12g。	9
102	R25019	r2207	b3・4層	DY49	石器	古面未製品?	赤色頁岩質。複数面25g。	9
103	R25019	r2227	b3・4層	DQ46	石器	剥片	赤色頁岩。複数面8g。肩・背面部の中央の淡黒面は尤も風化が進む。	9
104	R25025	r2253	b3・4層	DS49	鉄器	鍛錬	複数面70g。	16

ジョッキ形か。

95~103は石器。95は砂岩製の砥石。擦拭は明瞭でないが、4面とも平滑で砥面としての使用が窺える。側面は敲打の後、砥面として使用している。裏面には集中的な敲打の痕跡が残る。被熱のためか一部黒変しており、破面には光沢が認められる(図版15-1)。96はサスカイト製石器。平基式で、比較的大きめの剥離で全体を調整しているが、磨滅が著しい(図版15-2)。97~101はサスカイトの剥片。102は赤色頁岩製で、カット面及び剥片削出痕から残核と考えているが、縁辺部に調整剥離が認められ、石器未製品の可能性もある。103は赤色頁岩の剥片である。

104は鉄津で、7.0 gを量る。

(3) 小結

まず、出土水田遺構自体、II-2-②層(上層水田)ほどの籠籠が18次調査とはなく、一部掘りすぎた部分

もあるが、一連の水田の広がりと認められる。

その水田耕作時期であるが、底部に回転糸切りを残す土器壺が安定的に認められること、土器壺底底部の高台が細く高いものを含むこと、さらには白磁塊IV類などから、12世紀を巡ることははない。そして、瓦器が畦部・耕作土とも一定認められ、その形態はむしろ12世紀後半以降のものが多い。とりわけ、13世紀に降る可能性が高い、かなり矮小化した高台をもつ個体が、畦畔部でも耕作土においても認められる(図42-5・図44-75、図版14-5)。また、12世紀末葉から13世紀前葉に位置づけられる龍泉窯系I-4類青磁塊も、白磁塊IV類とともに耕作土から出土している(図44-81、図版14-8)。したがって、中層水田の時期は、12世紀末葉から13世紀前半まで降る可能性もある。なお、II-2-③層として掘りすぎた中にも、これ以降の遺物はみられない。

7 II-2-④層とII-2-⑤層の間の遺構と出土遺物

II-2-⑥層上面の水田遺構を検出中に、その水田面を切り込む遺構を一部検出し、その後の断面精査により、II-2-④層より下位で、II-2-⑤層内で掘り込まれた遺構であることが明らかになった。なお、調査区東部では、II-2-④層中にさらに水田面とみられる層界が一部認められ、この面が、調査区西部でII-2-④層とII-2-⑤層の間の遺構に対応する可能性もある。

(1) 遺構

検出した遺構は溝SD-150である(図46、図版5-3)。DX・DY47区において検出され、東側は塗壁とみられる擾乱で切られ、擾乱以東では検出できなかっ

た。西側は、調査区外へと延び、確認した長さは、東西約8.5m。南北幅は80~100cm、深さは12cm前後である。方向は、わずかながら東側で南に振れ、18次調査で同様の層序で出土したSD-208・SD-209とほぼ平行する。下層水田以降の耕作等により削平されてしまった、一連の水田遺構の一端を形成したものとみられる。なお、その水田遺構に一部該当する可能性のある面を、調査区東壁ではみられた。

埋土は、調査区西壁と、さらにもう2箇所で確認している。土層観察壁では、上部に、径1mmの白色砂粒を多く含み、小指先大の円礫も含む黄褐色砂質シルト(①層)が広く堆積する。西側ではその下部に、さらには径1~2mm前後の砂礫を多く含むオリーブ褐色砂質

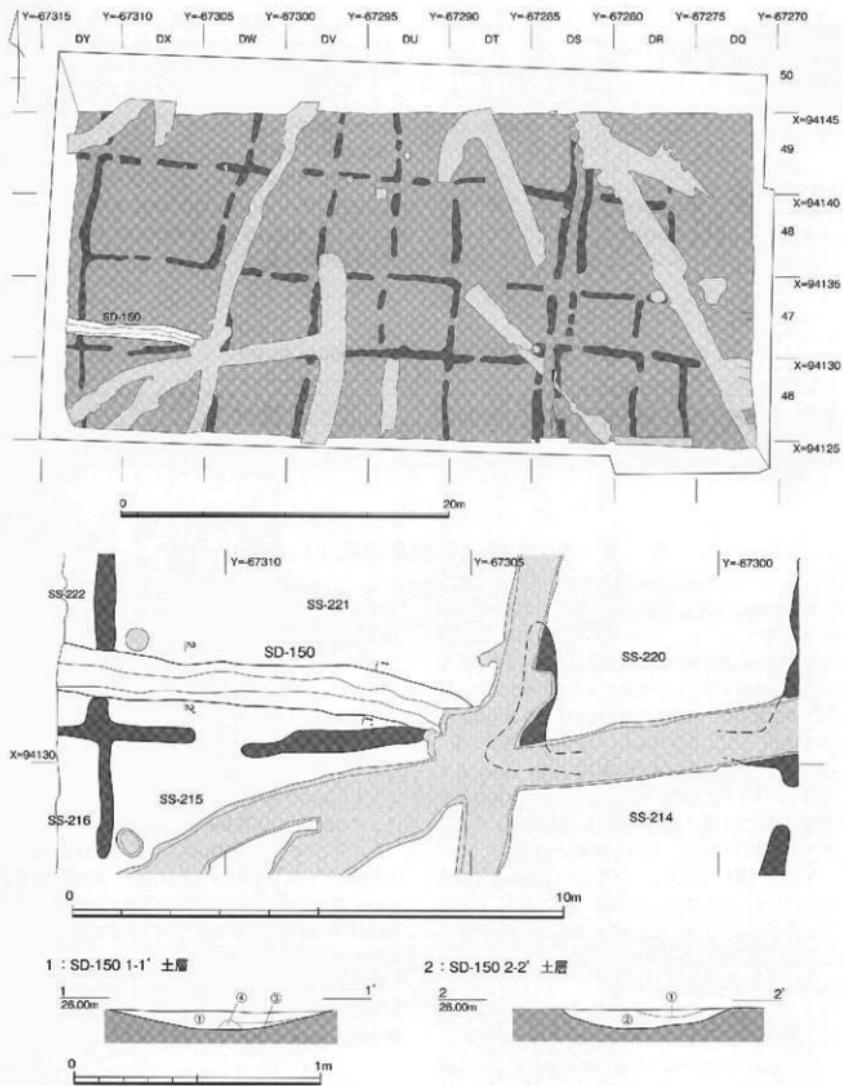


図46 II - 2 - ④層と II - 2 - ⑤層の間の遺構 (縮尺1/300、1/100、1/20)

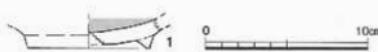


図47 II - 2 - ④層とII - 2 - ⑤層の間の遺構出土遺物
(縮尺1/3)

シルト（②層）が厚い。調査区西壁では、①層と②層を一括して、径1~3mmの砂粒・砂礫を多く含む暗灰黄色砂質土とした。東側では、最下部に目だった砂礫

を含まないオリーブ褐色砂質シルトの③層と、やや粘性強く砂礫はほとんど含まない黄褐色砂質シルトの④層が堆積している。

(2) 出土遺物

SD-150からは黒色土器、土師器、須恵器、弥生土器などの細片が出土しているが、直接SD-150の時期を示す遺物はない。図化できたのは黒色土器1点のみ(図47、表7)。内黒の黒色土器底面で、断面三角形の高台を貼り付ける。

表7 II - 2 - ④層とII - 2 - ⑤層の間の遺構出土遺物観察表

図47 II - 2 - ④層とII - 2 - ⑤層の間の遺構出土遺物		遺物内容					文様・調整・色調・胎土などの特徴	枚数 番号
検出	実測	取上	層位	遺跡・地区	種類	各様		
1	R30217 r3154 r3329	c1層 b3・4・ c1・2層	SD-150 (DX47) DY47B	黒色土器 (PC) 焼 底部	全面削成。 外側灰白色、内面褐灰色。石英・貝石の砂粒。赤色斑点に含む。			10

8 II - 2 - ⑤層 (下層水田覆土) と出土遺物

調査時にc1層としたII - 2 - ⑤層は、下層水田の覆土層である。II - 2 - ④層の下部の、径1mm前後の砂粒を多く含む黄褐色砂質シルトで、鉄分の沈着により明黄褐色を呈する。出土遺物には、中世の土師器、瓦器、陶磁器の他、それ以前の土師器、須恵器、瓦、弥生土器や、石器、鐵器がある。これらは、II - 2 - ①・③層同様、上部は城北地区剖にしたがい5m区画で遺物を取り上げ、水田畦畔検出後には水田区画単位で遺物を取り上げた。前者をII - 2 - ⑤層上部、後者をII - 2 - ⑤層下部とし、石器・鐵器については、上部と下部を一括して報告する(表8)。なお調査区北東部では、II - 2 - ⑤層下でSR-301・②層となり、同層出土遺物が取り上げ時に混じった可能性がある。

(1) II - 2 - ⑤層上部出土遺物

II - 2 - ⑤層上部出土土器からは15点を図化した(図48、図版15-3~5)、11・12以外は土師器である。

1~10は土師器の壺・塊類(図版15-3)。1は壺部を内面に丸く巻き込み、体部外面に横方向のミガキを施す壺口縁部。2は底部からそのまま内湾気味に立ち上がる平底の壺。底部には板目状圧痕が残る。3・

4は円盤状に厚い壺底部。5は小型の壺底部。6は口縁部と底部が直接接合しないが、胎土と焼成から同一個体と判断した塊。口縁端部内面には微弱ながら稜線があり、底部は三角形状の貼付高台を有する。7~10は塊底部。7は断面三角形、8は方形、9は横ナデによりやや高く細くなった三角形状の貼付高台をもつ。10は丸みを帯びて薄い三角形状の貼付高台で、ゆがみもある。形態的には瓦器とみられるが、胎土は粗く、内面橙色で、土師器とした(図版15-4)。

11は内黒の黒色土器底面。高台部分を欠失するが、貼り付け面に接合のための沈線が認められる。12は瓦器底面。オサエによる体部の凹凸が著しく、脆弱な貼付高台を有する(図版15-5)。

13~15は土師器底。13は口縁部で、直線的にのびて壺部は面をなす。14・15は削部で、傾きは任意。14は外面に不定方向のハケ目で胎土が粗い。15は外面に横方向の平行タタキ、内面に縱ハケ目を施す。

(2) II - 2 - ⑤層下部出土遺物

II - 2 - ⑤層下部出土土器からは38点を図化した(図49、図版15-6)。先記したように、このうち

SX-207・209・210上部には、SR-301-③層の遺物が紛れ込んでいる可能性がある。

1~21は土師器。1は体部外面にはオサエ痕が残り、口縁端部が外反し、器壁が薄いなど、瓦器に類似した形態・調整の塊口縁部。ただし、浅黄橙色の胎土に橙色の塗彩を内外面に施す。2・3も塊口縁部で、2は横ナデのため口縁端部付近がわずかに外反する。3は口縁端部をわずかに外方に屈曲させる。4は内外面に横方向のミガキを施す塊体部。中位に微弱ながら稜線があり、内面は薄いながらやや黒みもあり、内黒の黒色土器の可能性もある。5~8は平底の坏。5は底部付近の横ナデにより、底部からわずかに立ち上がり、反転して直線的に外傾する体部にいたる。底面は回転ヘラ切り離し。6は底部からそのまま内済気味に立ち上がる。7・8は灰白色の胎土に橙色の塗彩を施す。9~12は円盤状高台の坏底部。9は外面に薄く橙色の胎土を用いている。13・14は小皿で、底部回転糸切り離し。14は口縁部内面に、にぶい橙色の塗彩が残る。15~21は貼付高台を有する塊底部。15は断面三角形状、16~18はやや丸みを帯びた台形状、19は長く細い台形状、20・21は細長い三角形状の高台である。なお、21は灰白色の胎土を外表面に、赤橙色の胎土を内側面に用いている。

22~27は内黒の黒色土器の塊。22・23は口縁部。横

ナデにより、22は明瞭に、23はわずかに口縁端部が外反する。24~27は、いずれもやや丸みを帯びた三角形状の貼付高台をもつ底部。28・29は内外面に黒色処理を施した両黒の黒色土器。28は口縁部を横ナデにより大きく外反させる。29は底部。

30~32は瓦器。30は横ナデにより口縁部外面が凹み、端部を丸く収める塊口縁部。31は端部を尖り氣味に収める塊口縁部で、横ナデによりわずかに外反し、指オサエにより外面下半が凹む。32は塊底部で、高台端部を欠損しているが、残存部から断面形状とみられる。胎土は精良で、内面には一定方向の散発的なミガキが2条1單位で施されている。

33は土師器窓口縁部。口縁部で短く屈曲外反する。

34~37は須恵器。34は窓口縁部で、端部をやや外方に屈曲させて尖り氣味に収める。35・36は平底の坏底部。35の器壁は4mm程度と薄い。36の底面は回転ヘラ切り。37は大型の底部で、底部から緩やかに湾曲して体部へいたる。壁の底部片とみられる。

38は須恵質陶器の甕胴部片。傾き・天地は任意。外面に平行タタキで、内面は青海波文をナデ消す。

(3) II - 2 - ⑤層出土石器

II - 2 - ⑤層出土の石器からは3点を図化した(図50)。1・3が上部、2は下部出土。1は白く風化し

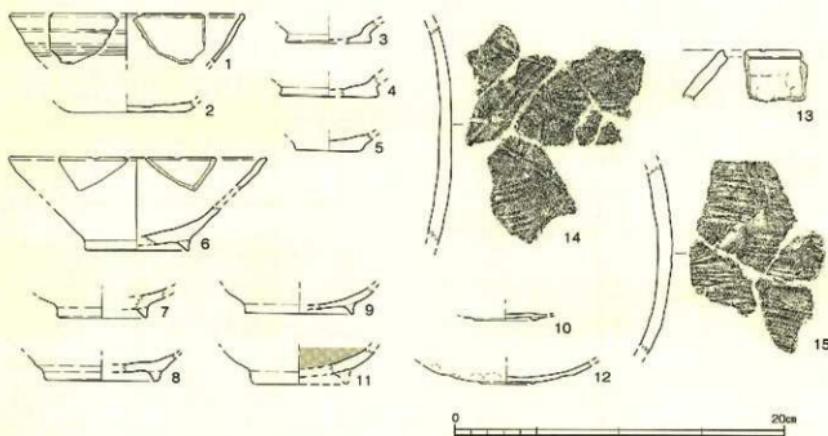


図48 II - 2 - ⑤層 (c1層) 上部出土遺物 (縮尺1/3)

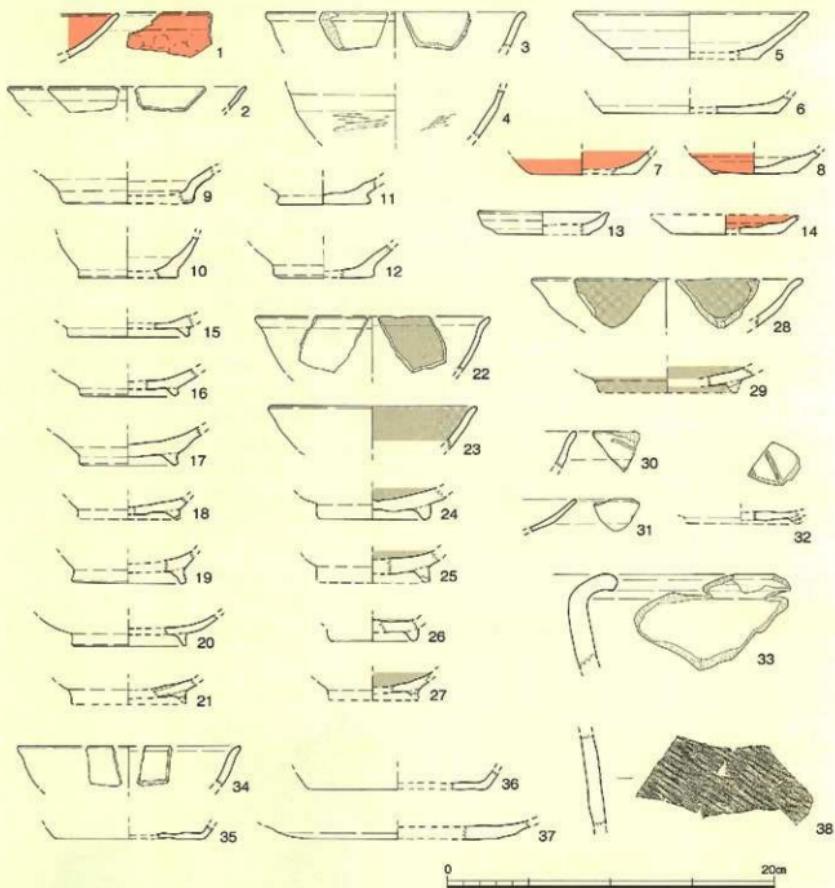


図49 II・2-⑤層(c1層)下部出土遺物(縮尺1/3)

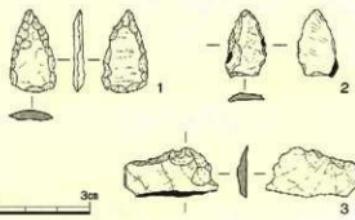


図50 II・2-⑤層(c1層)出土遺物—石器一(縮尺2/3)

た安山岩質の石器。剥離は縁辺部にとどまり素材面を大きく残しているが、磨滅のため素材面の剥離等は観察できない。平基式（図版15-7）。2は石器未製品と考えられる。サスカイト製。横長剥片を用い、腹面右側は細かい剥離により刃部を作り出しているが、左側は刃部を形成していない部分があり、背面はほとんど調整されていない。3はサスカイトの剥片。

(4) 小結

II - 2 - ⑤層からは、白磁などの貿易陶磁は出土し

ておらず、回転糸切りは土師器小皿に1点みられるのみ。土師器塊や内黒黒色土器塊の高台形状からしても、12世紀前半頃までに収まるとみられる。ところが、上部でも下部でも、比較的安定して出土する瓦器塊について、II - 2 - ④層で指摘したと同様に、むしろ新しい様相が認められる。とりわけ、上部出土の瓦器塊（図48-12）は高台が微弱で、身の開きが大きく、13世紀に降る可能性が高い。瓦器様の土師器塊（図48-10）も同様である。下層水田の埋没は、13世紀代まで降る可能性も考えられる。

表8 II - 2 - ⑤層出土遺物類表

図49 II - 2 - ⑤層 (e1層) 上部出土遺物		出土位置				遺物内容		文様・調節・色調・施土などの特徴		収取 番号
遺物番号	実測	取上	遺跡・地区	種別	容積	部位				
1	R40007	r4048	e1層	DT48	土師器	壺	口部	内外面削字ナ。外側一部底方円マキ。内外面黄白色。継縫な石英・長石・共に赤色斑わざに含む。	11	
2	R40021	r4500	e1層	DX49	土師器	壺	底部	全面削字。外表面斜削字底。純白色。石英・長石の砂粒まばらに含む。	11	
3	R40030	r4091	e1層	DX46	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。外表面削字ナ。紫色。石英・長石の砂粒多く含む。	11	
4	R40003	r4015	e1層	DR47	土師器	壺	口部	全面削字。全面削字。内面削字ナ。紫色。内側底に赤色變化。外表面灰褐色。緑縫な石英・長石・共に赤色斑わざに含む。	11	
5	R40039	r4069	e1層	DU48	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。緑縫な石英・長石・共に赤色斑わざに含む。	11	
6	R40022	r4039	e1層	DV47	土師器	壺	口部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。緑縫な石英・長石・共に赤色斑わざに含む。	11	
7	R40001	r4052	e1層	DU49	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。緑縫な石英・長石・共に赤色斑わざに含む。	11	
8	R40037	r4094	e1層	DX47	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。緑縫な石英・長石・共に赤色斑わざに含む。	11	
9	R40015	r4080	e1層	DW47	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。緑縫な石英・長石・共に赤色斑わざに含む。	11	
10	R40073	r4209	e1層	DW-DX 48-49底	土師器	壺	底部	底部の状況はよく、やがみある。全面削字。外表面灰褐色。底部の状況はよく、やがみある。全面削字。外表面灰褐色。底部の状況はよく、やがみある。	11	
11	R40010	r4060	e1層	DU48	扁平土器(内)	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。緑縫な石英・長石・共に赤色斑わざに含む。	11	
12	R40025	r4098	e1層	DX48	瓦器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。緑縫な石英・長石・共に赤色斑わざに含む。	11	
13	R40023	r4060	e1層	DR47	土師器	壺	口部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。全面削字。外表面灰褐色。底部の状況はよく、やがみある。	11	
14	R40022	r4023	15-4層	US81	土師器	壺	底部	底部の状況はよく、やがみある。全面削字。外表面灰褐色。底部の状況はよく、やがみある。	11	
		r4055	15-4層	US89						
		r4053	15-4層	DT48						
		r4045	e1層	DT48						
15	R40038	r4068	e1層	DU48	土師器	壺	底部	底部の状況はよく、やがみある。外表面灰褐色の平行タタキ。内面削字方向のハケ目。に赤色斑様色（一部底有）。石英・長石の砂粒・細縫多く含む。	11	
		r4060	15-4層	DT49						

図49 II - 2 - ⑤層 (e1層) 下部出土遺物		出土位置				遺物内容		文様・調節・色調・施土などの特徴		収取 番号
遺物番号	実測	取上	種別	遺跡・地区	種別	容積	部位			
1	R40055	r4152	c1層	SS221	土師器(手形)	壺	口部	口周削字ナ。底部外側削字ナ。底部内側削字。内外面灰褐色。内外面黄褐色。粗縫な石英・長石・共に赤色斑わざに含む。	12	
		r4154	c1層	SS222						
		r4172	c1層	SS226						
2	R40096	r4113	c1層	SS218	土師器	壺	口部	全面削字。全面削字。底部削字ナ。底部の状況はよく、やがみある。	12	
3	R40029	r4129	c1層	SS210	土師器	壺	口部	全面削字。全面削字。内面削字ナ。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
4	R40041	r4140	c1層	SS217	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面削字ナ。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
5	R40024	r4115	c1層	SS204	土師器	壺	全軸	全面削字。全面削字。外表面削字ナ。外表面削字ナ。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
6	R40033	r4130	c1層	SS210	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
7	R40027	r4126	c1層	SS229	土師器(手形)	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
8	R40038	r4139	c1層	SS207	土師器(手形)	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
9	R40025	r4116	c1層	SS205	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
10	R40066	r4182	c1層	SS229	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
11	R40003	r4131	c1層	SS312	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。外表面灰褐色。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
12	R40028	r4163	c1層	SS229	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
13	R40003	r4168	c1層	SS225	土師器	小瓶	全軸	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
14	R40059	r4147	c1層	SS229	土師器(手形)	小瓶	全軸	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
15	R40006	r4133	c1層	SS213	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	
16	R40052	r4149	c1層	SS220	土師器	壺	底部	全面削字。全面削字。内面底に赤色・長石色。底部の状況はよく、やがみある。	12	

遺物番号		出土位置		遺物内容			文様・装飾・色調・歴史などの特徴	取扱 番号	
種別	実測 距離	取手上	層位	種別	品種	部位			
17	R40050	r4148	c1層	SS220	土縛部	境	東部	外縛耐水テグ、外縛耐水。灰褐色。縫隙を石英、長石多く含む。	12
18	R40051	r4148	c1層	SS220	土縛部	境	東部	全縛耐水。灰白色。微細な石英、長石わずかに含む。	12
19	R40048	r4146	c1層	SS219	土縛部	境	東部	高石英耐水テグ、内縛耐水。灰白色。石英・長石の砂粒まばらに含む。	12
20	R4007	r3194	c1層	SS220-220B 水口 (D48-4)	土縛部	境	東部	高石英耐水テグ、内縛耐水。石英・長石の砂粒、赤色飛来石に含む。	12
21	R40064	r4154	c1層	SS221	土縛部	境	東部	全縛耐水。灰白色。赤色飛来石 (赤鉄)、内縛耐水 (赤鉄?)、細面灰白色。石英・長石の砂粒。赤色飛来石はばらに含む。	12
21	R40065	r4184	c1層	DW48	土縛部	境	東部	全縛耐水。外縛耐水 (赤鉄)、内縛耐水 (赤鉄?)、細面灰白色。石英・長石の砂粒。赤色飛来石はばらに含む。	12
22	R40030	r4138	c1層	SS215	黒色土質 (内)	境	東部	全縛耐水。内縛耐水テグアカ、外縛耐水灰、内縛耐水灰。微細な石英、長石多く含む。	12
23	R40069	r4165	c1層	SS224	黒色土質 (内)	境	東部	全縛耐水。外縛耐水灰、内縛耐水灰。微細な石英、長石多く含む。	12
24	R40055	r4155	c1層	SS221	黒色土質 (内)	境	東部	内縛耐水、外縛耐水テグアカ。外縛耐水灰、内縛耐水灰。微細な石英、長石多く含む。	12
25	R40040	r4138	c1層	SS215	黒色土質 (内)	境	東部	内縛耐水、外縛耐水テグアカ。内縛耐水ガキ。外縛耐水灰、内縛耐水灰。微細な石英、長石多く含む。	12
26	R40072	r3198	c1層	SS227-230B 水口 (D49-11)	黒色土質 (内)	境	東部	全縛耐水。外縛耐水灰、内縛耐水灰。細面灰白色。石英・長石の砂粒多く含む。	12
27	R40087	r4183	c1層	SS229	黒色土質 (内)	境	東部	全縛耐水。外縛耐水灰、内縛耐水灰。石英・長石の砂粒、赤色飛来石に含む。	12
28	R40059	r4162	c1層	SS223	黒色土質 (内)	境	東部	全縛耐水。外縛耐水テグアカ、内縛耐水灰。微細な石英、長石多く含む。	12
29	R40037	r4139	c1層	SS224	黒色土質 (内)	境	東部	全縛耐水、外縛耐水テグアカ、内縛耐水灰。微細な石英、長石多く含む。	12
30	R40070	r4189	c1層	SS221	瓦器	境	東部	全縛耐水。外縛耐水灰、内縛耐水灰。細面灰白色。石英・長石の砂粒わざかに含む。	12
31	R40061	r4160	c1層	SS224	瓦器	境	東部	全縛耐水。外縛耐水灰、内縛耐水灰。細面灰白色。微細な石英・長石ごくわずかに含む。	12
32	R40047	r4145	c1層	SS219	瓦器	境	東部	高石英耐水。図44-7(Ⅱ-2-④層)と同一箇所の可能性あり。全縛耐水、内縛耐水灰。細面灰白色。微細な石英・長石ごくわずかに含む。	12
33	R40238	r3051	c1層	DU46	土縛部	境	東部	内縛耐水テグアカ。縫隙内耐水灰、外縛耐水灰 (縫隙有)。内縛にぶい黄褐色。石英・長石の砂粒一緒に多く含む。	12
34	R40064	r4183	c1層	SS229	紙芯部	境	東部	内縛耐水テグアカ。内縛耐水灰。石英・長石の砂粒まばらに含む。	12
35	R40058	r4166	c1層	SS221	紙芯部	境	東部	内縛耐水テグアカ。内縛耐水灰。長石多く含む。	12
36	R40238	r3027	c1層	SX229	紙芯部	境	東部	全縛耐水。外縛耐水テグアカ。内縛耐水灰。細面灰白色。石英・長石の砂粒～縫隙まばらに含む。	12
37	R40258	r3062	c1層	SS223	紙芯部	境	東部	全縛耐水。外縛耐水テグアカ。内縛耐水灰。長石わずかに含む。	12
38	R40035	r3058	b3-4層	DT46	糊痕貯留部	境	東部	粘土・天井は泥炭。断面上がり平行タブキ。内縛耐水灰で糞便サザ崩し。内縛耐水灰。	12
								内縛にぶい小窓跡。微細な石英・長石まばらに含む。	

9 II - 2 - ⑥層 (下層水田) の遺構と出土遺物

II - 2 - ⑥層は、にぶい黄色から黄褐色シルトで、径1~20mm前後の円礫を少量含む。上部のII - 2 - ⑤層に比べて、砂礫・砂砾の割合は少なく、調査段階での区分は比較的行なやすかった。ただし、以下のSR-301-①層とは、調査段階では、攪拌を受けた上部10cm前後をII - 2 - ⑥層、以下の顯著な攪拌のみられない土層をSR-301-①層として掘り分けを行ったが、土層図ではSR-301-①層と一括りしてしまっている。また、東部のII - 2 - ⑥層は、1mm前後の砂粒層を斑状に含み、径5~20mm前後の砂礫を多く含み、より砂質が強い。そして、DQ48・49、DR49区を中心とした調査区北東部では、II - 2 - ⑥層が存在せず、II - 2 - ⑤層下でSR-301-②層が出土する。

(1) 遺構

II - 2 - ⑥層掘り下げながら、畦畔で区画された水田遺構を検出した。概ね方形の水田区画が整然と並ぶ。大きさは、SD-211を挟んで東西に分かれ、東側をSS-201~210、西側でSS-212~234とした。ただし、調査区東端部ではII - 2 - ⑥層自体砂質が強いこと、そして当初予想していた畦畔が最終的には認められなかったことから、水田面ではないと判断した。SD-211の東側で水田面は東西1~3列となり、水田面と予測していたSS-207・209・210は、番号と該当地区名を残して、SX-207・209・210とした。結果、検出した遺構は水田30面と溝1条、それとSX-207・209・210である (図48・49、巻頭図版2、図版6~8)。

遺物番号		出土位置		遺物内容			文様・装飾・色調・歴史などの特徴	取扱 番号
種別	実測 距離	取手上	層位	種別	品種	部位		
1	R40319	r3097	c1層	DY48	石器	万能	安山岩鈍か、風化が激しく、灰白色。現重量1kg。平底式。	12
2	R40051	r4138	c1層	SS215	石器	万能な鋸目?	ササカドリ。現重量0.6kg。	12
3	R40054	r3022	c1層	DS46	石器	鋸片	ササカドリ。現重量1.5g。	12

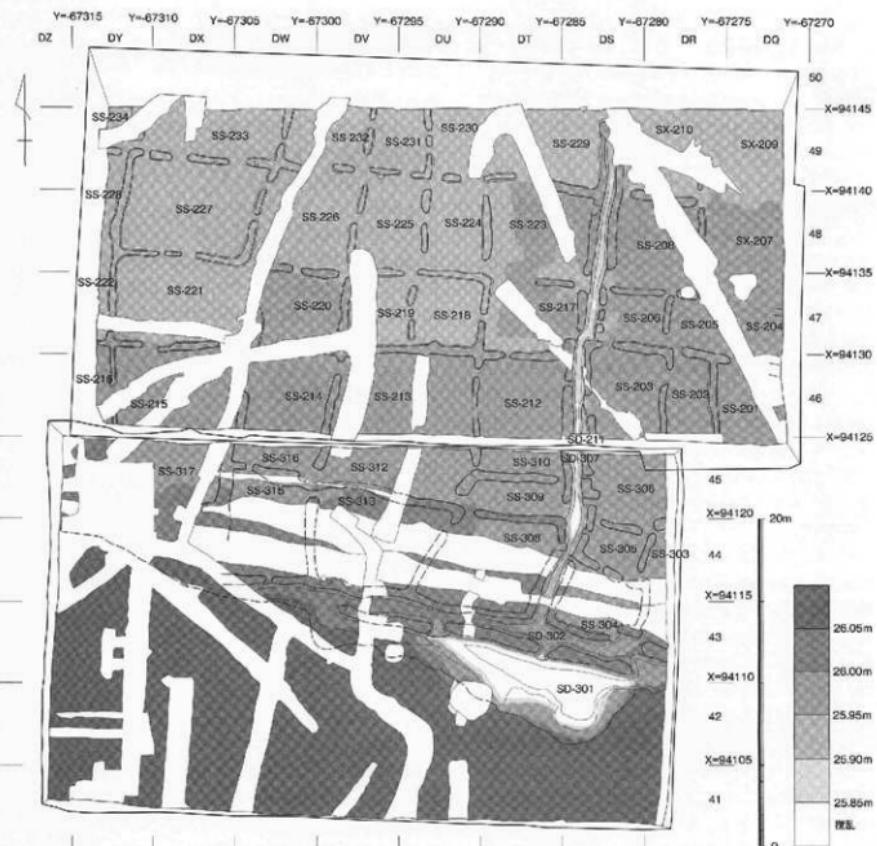


図51 25次調査・18次調査のII-2-⑥層（下層水田）出土遺構配図（縮尺1/300）

① 水田ほか

II-2-⑥層上面で認めた水田は30枚。SD-211を挟んで東西に2分されている。南東から北西方向へと傾斜するが、比高差は最大10cm程度に過ぎない。

[SS-201]

調査区南東隅部のDQ46区に位置する。検出時にはSS-201としたが、調査進行に伴い一度はSX-201とした。しかし、東壁土層において、X=94129.2m前後の位置

で畦畔とみられる盛り上がりがみられ、それが西側のSS-202・205間の東西方向畦の延長には位置することから、再度水田面として認識することとした。それでも、耕作土自体、かなり砂質が強い。

東半分は塹壕とみられる擾乱等が水田面の残存範囲は三角形状。西側はSS-202との間に幅60cm前後、比高差2cm程度の畦畔により画され、東側と南側は調査区外に広がる。北側は西隅部で一部畦畔が認めら

れ、東西4m以上・南北5m以上の大きさとなる。水田面は標高25.98m前後。ただし、南壁土層ではII-2-⑥層が高く、掘り下げすぎた可能性が高い。

SS-204との間の畦畔が東側で切れており、幅50cm以上の水口がある。ほとんど比高差はないが、SS-201からSS-204へと配水したとみられる。

[SS-202]

SS-201の西側、DR46区に位置する。南側は調査区外へと広がり、東西約25m・南北45m以上を測る。東側SS-202との間は幅60cm前後、高さ3cm程度の畦畔、西側SS-203とは幅45cm前後、高さ2cm程度の畦畔、北側SS-205と幅60cm前後、高さ3cm程度の畦畔で、それぞれ画されている。水田面は標高25.95m前後。

西側SS-203との間の畦畔には、幅約60cmの水口が開くが傾斜はほとんどない。また、北西隅部には、SS-205との間に水口が認められ、これもほとんど傾斜がない。幅約35cm。埋土は基本的にII-2-⑤層に等しく、暗灰黄色の砂質土。径1mmの砂粒を少量、砂質土をラミナ状に含み、やや粘性も伴う(図53-1)。

[SS-203]

SS-202の西、DR・DS46区に位置する。18次調査下層水田SS-306と同一の水田とみられ、東西約4m・南北10mを測ることになる。25次調査区内では、東側SS-202とは幅45cm前後、高さ2cm程度の畦畔、西側SD-211との間に幅40cm前後、高さ2cm程度の畦畔、北側SS-206との間に幅60cm前後、高さ2cm程度の畦畔が設けられている。水田面は標高25.95m前後。

東・西・北各畦畔に水口を確認している。東畦畔の水口は、先にSS-202で述べた。西側SD-211との間には、幅約120cmの水口がある。SD-211側に傾斜し、埋土は基本的にII-2-⑤層に等しく、オリーブ褐色砂質土。径1~2mmの砂粒をやや含み、ラミナ状に砂質土を多く含み、砂質が強い。SD-211への排水が考えられる(図53-2)。北側SS-206との間の畦畔西寄りにも、幅約50cmの水口が設けられる。わずかにSS-206側に傾斜し、SS-203からSS-206への配水が考えられる。埋土は基本的にII-2-⑤層に等しく、オリーブ褐色砂質土。径1~2mmの砂粒をやや含み、砂質土がラミナ状に混じり、しまりがややある(図53-3)。

[SS-204]

DQ47区に位置する。検出時にSS-204としながら、調査段階では、耕作土層の砂質が強く、畦畔による区画も認められなかったため、SX-204としていた。しか

し、東壁土層において、X=94132.6m付近で畦畔とみられる盛り上がりがみられ、それが西側のSS-205・208間の東西方向畦畔の延長にはほぼ一致することから、再度水田面とした。ただし、西側SS-205との間は整塙による擾乱が及び、南側も擾乱が大きい。そのため、この整塙以東の南北3m前後の広がりを復元できるに過ぎない。

[SS-205]

SS-204の西隣のDR47区に位置する。上述したように、SS-204との間には擾乱を挟み、畦畔等の詳細不明。SS-204と同じ水田面の可能性もある。西側SS-206との間に幅40cm前後、高さ2cm前後の畦畔があり、南側は幅60cm前後、高さ3cm程度の畦畔、北側も幅50cm前後、高さ3cm前後の畦畔で両側、東西推定約4m・南北約3mを測る。水田面の標高は25.95m前後。

西畦畔は南端が切れ、SS-206との間に水口が設けられている。SS-205側が高く、SS-205からSS-206への配水が窺える。埋土は基本的にII-2-⑤層に等しく、暗灰黄色砂質土。径1mm前後の砂粒を少量含み、砂質土がラミナ状に混じる。やや粘性がある(図53-4)。また、残存する北畦畔の両側が水口とみられる。このうち東側は狭い範囲で詳細不明。西側は隅部に位置し、SS-208との水口部である。傾斜から、SS-205からSS-208への配水と考えられる。埋土は基本的にII-2-⑤層に等しく、暗灰黄色砂質土。径1mm前後の砂粒を含み、砂質土がわずかに混じり、シルト質がやや強く、しまりがある(図53-5)。

[SS-206]

DR・DS47区に位置する、東西約3.5m・南北約3mの水田。東側は幅40cm前後、高さ2~3cmの畦畔でSS-205と画され、西側は幅35~45cm、高さ2~3cmの断続的な畦畔がSD-211との間にあり、北側は幅50cm、高さ2~3cmの畦畔により、SS-208と区画されている。水田面の標高は、25.95m前後。

東側畦畔は南端で水口となるが、これについてはSS-206で既に述べた。西側は、畦畔が3箇所で途切れている。南から南水口、中水口、北水口とする。南水口は幅約45cmで、SD-211側に傾斜し、SS-206からSD-211への排水部とみられる。中水口は幅約15cmと狭く、傾斜はあまりない。北水口は幅約25cmで、やはりあまり傾斜はみられない。埋土はいずれも、II-2-⑤層に等しく、オリーブ褐色砂質土。径1~2mmの砂粒を少し含み、砂質土がラミナ状に混じり、砂質がや

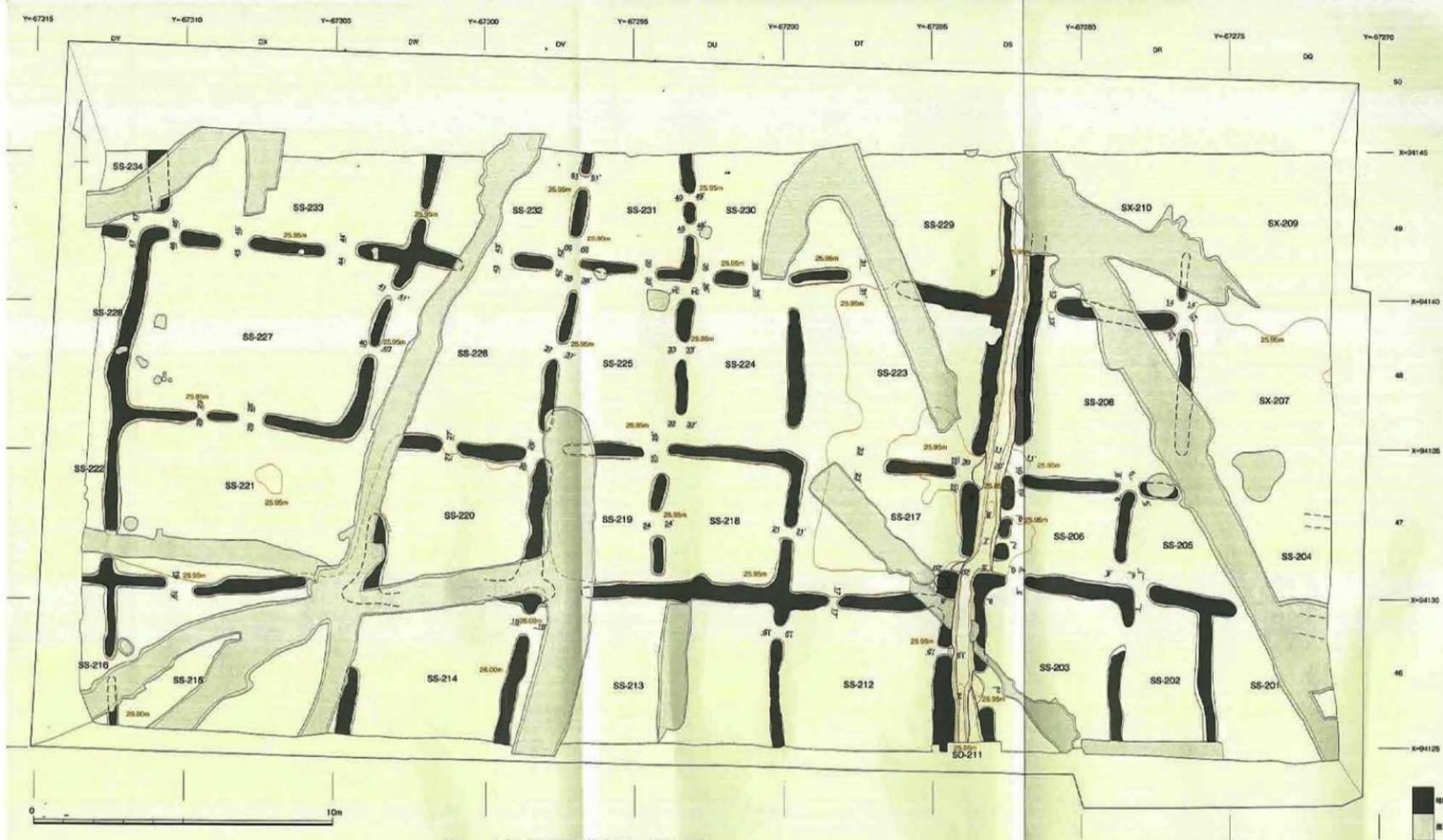


図52 II-2・⑤層(下層水田)出土遺物配置図(縮尺1/100)

や強い(図53-6~8)。

北側畦畔は、両側でSS-208との水口部となっている。ともにSS-208側に傾斜し、SS-206からSS-208への配水が見える。東水口は北東隅部に位置する。埋土はII-2-⑤層に等しく、暗灰黄色砂質土。径1~3mmの砂粒・砂礫を少し含み、砂質土がラミナ状に混じる。シルト質もやや混じる。西水口は幅20cm弱。埋土はII-2-⑤層に等しい暗灰黄色砂質土。径1mmの砂粒を少し含み、砂質土がラミナ状に少し混じるが、シルト質がやや強い(図53-9・10)。

[SX-207]

当初、SS-208の西側に水田面を想定してSS-207としていたが、耕作土自体砂質が強く保水性が低く、北側に畦畔が確認できない。南側は、SS-204との間に畦畔

の存在が復元され、西側はSS-208との間に幅約50cm、高さ3cm前後の畦畔があり、この畦畔南端には水口部が想定されるが、詳細は不明。以上からSS-208の東側部分は水田外と判断し、およそDQ・DR48区をSX-207として、呼称を残すこととした。

[SS-208]

DR・DS47区を中心位置する。東西5m弱、南北約5.5mを測る。東側は幅約50cm、高さ3cm前後の畦畔でSX-208と、西側は幅50cm前後、高さ3cm前後の畦畔でSD-211と画されている。南北も、南側は幅50cm、高さ3cmの畦畔によりSS-205・206と画され、北側幅60cm前後、高さ3cm前後の畦畔でSX-210と画されている。水田面の標高は25.95m前後。

SX-207との水口部は詳細不明。SD-211とは西側畦畔

1 : SS-202・205 水口



3 : SS-203・206 水口



5 : SS-205・206 水口



9 : SS-206・208 水口



10 : SS-206・208 西水口



11 : SS-208・SD-211 水口



13 : SS-208・SX-210 水口



2 : SS-203・SD-211 水口



4 : SS-205・206 水口



6 : SS-206・SD-211 南水口



7 : SS-206・SD-211 中水口



8 : SS-206・SD-211 北水口



12 : SS-208・SX-209 水口



14 : SX-209・210 南水口



図53 II - 2 - ⑥層(下層水田)に伴う水口部土層図(1) (縮尺1/20)

の南端が途切れ、水口部となる。幅約80cmで、底面が若干凹むが、水田面との傾斜はほとんどない。埋土はII-2-⑤層に等しく、オリーブ褐色砂質土。径1~2mmの砂粒を含み、砂質土をラミナ状に多く含み、砂質が強い。鉄・マンガン分の沈着がある(図53-11)。北東隅部は、SX-209との水口部となる。傾斜はほとんどない。埋土はII-2-⑤層に等しいが、上下に分かれ、上部の①層が中央部で深い。暗灰黄色砂質土で、径1~2mmの砂粒をやや含み、砂質土をラミナ状に多く含む。シルト質土も少し含み、粘性がややある。下部の②層は暗灰黄色砂質土。①層に比べてシルト質土の混じりが少ない(図53-12)。さらに、北畦畔の西端が約40cm途切れ、SX-210との水口部となる。傾斜はSX-210側である。埋土はII-2-⑥層に等しい暗灰黄色砂質シルト。径1~3mmの砂粒・砂礫を含み、しまりがややある(図53-13)。

[SX-209]

調査区北東隅部に水田面を想定してSS-209としていた。しかし、東畦・北壁土層でII-2-⑥層自体が認められず、当初南側を画すとしていた畦畔も確認できなかった。西側も、平面調査では幅約50cm、高さ3~5cmの畦畔が存在するとしたものの、北壁土層でのII-2-⑥層の不在から、下部のしまりのある砂質土を畦畔と誤認したとみられる。またそのため、掘り下げすぎている。以上から、SS-209とした範囲は水田外と判断し、SX-209の呼称を残すこととした。

[SS-210]

DR49区を中心に水田SS-210を当初想定していた。しかし、II-2-⑥層が広がらず、東側畦畔も誤認の可能性が高いことは上述した。水田面とした標高も、25.94m前後と低く、掘り下げすぎている。以上から、水田外と判断し、範囲の呼称としてSX-210を残すこととした。

南側は幅60cm前後、高さ4cm前後の畦畔がSS-308との間にあり、東西両側が水口として開く。詳細は既にSS-208で述べた。東側は、北側畦畔は誤認としたものの、擾乱南側で一部畦畔を認め、水口も開く。幅約50cmで、SX-210側に傾斜する。埋土はII-2-⑥層に等しく、オリーブ褐色砂質土。径1~3mmの砂粒・砂礫をやや多く含み、砂質土がラミナ状に多く混じる。シルト質土の混じりは少ない(図53-14)。そして西側は、畦畔を抉んでSD-211を控えるが、SD-211との水口は残らない。SX-210からSD-211へと通水する水口が掲

乱部に存在した可能性が高い。

[SS-212]

SD-211の西、DT46区に位置する。18次調査下層水田SS-310と同一の水田で、東西約5m・南北7mを測ることになる。25次調査区内では、東側SD-211とは幅50~70cm、高さ1cm程度の畦畔、西側SD-213との間は幅40cm前後、高さ2cm前後の畦畔、北側SS-217との間に幅60cm前後、高さ1cm程度の畦畔が設けられている。水田面は標高25.98m前後。

水口は各辺にある。東畦畔は北端付近で幅約20cmの水口を設け、SD-211側に傾斜する。埋土は暗灰黄色の砂質土で、径1mmの砂粒をやや含み、砂質土がラミナ状に混じる。しまりと粘性がややある(図54-15)。西畦畔は北端付近で途切れ、幅約45cmの水口とする。わずかながらもSS-213側に低い。埋土は暗灰黄色砂質土で、径1mm前後の砂粒を少量含み、細かい砂質土がラミナ状に混じる。上層からの鉄・マンガン分の沈着が斑状にみられ、やや粘性を伴う(図54-16)。そして、北畦畔もやや西寄りに幅20cm程の水口があり、ここでは3cm以上の段差でSS-217が低くなっている。埋土は、西畦畔水口部と同じ暗灰黄色砂質土(図54-17)。

[SS-213]

SS-212の西隣、DU・DV46区に位置する。18次調査下層水田SS-312と同一の水田で、東西約8m・南北9mを測る、やや直線的な平行四辺形である。東側SS-212とは幅40cm前後、高さ2cm前後の畦畔、西側SS-214との間は幅50cm前後、高さ3cm前後の畦畔、北側SS-218・219との間は幅60cm前後、高さ1cm程度の畦畔で区画されている。中央部に南北方向の擾乱が残り、これ以北では、同じ幅が東西2枚の水田面に分割されており、SS-213も2枚の水田面を一括している可能性が残る。水田面標高も、18次調査では擾乱を挟んで同じであったが、25次調査区では、擾乱東側が標高25.98m前後、西側が25.97m前後と、1cm程度の差がみられる。

北畦畔には水口がみられないが、東西には水口が設けられている。東畦畔の水口については、SS-212の項で既に述べた。西畦畔の水口は、畦畔北端部に位置し、幅約70cm。中央部がわずかに盛り上がるが、全体にSS-213側に傾斜している。埋土は上下に2分できる。①層はII-2-⑤層に等しく、黄褐色砂質シルトで、径1mm前後の白色砂礫を少量含む。下部の②層は黄褐色シルトで、部分的に擾乱再堆積したII-2-⑥層とみられる(図54-18)。

[SS-214]

SS-213の西側、DV・DW46区に位置する。18次調査下層水田 SS-316に対応し、東西約4.5m・南北7mの平行四辺形となる。東側 SS-213とは幅50cm前後、高さ3cm前後の畦畔、西側 SS-215との間は幅55cm前後、高さ1cm前後の畦畔で画され、埴塗とみられる擾乱で幅不明ながら、北側にも高さ3cm前後の畦畔が存在したとみられる。水田面は標高27.98m前後。

東畦畔の水口については、既に述べた。西畦畔も中央部で水口が設けられているが、埴塗による擾乱で幅・埋土の詳細不明。北畦畔の水口も不明。

[SS-215]

SS-214の西側、DX・DY46区に位置する。18次調査下層水田 SS-317に対応し、東西約7m・南北約9mを測ることになる。東側 SS-214とは幅55cm前後、高さ1cm前後の畦畔、西側 SS-216との間は幅45cm前後、高さ4cm前後の畦畔で画され、北側 SS-221とは幅50cm前後、高さ3cm前後の畦畔で、それぞれ区画されている。水田面は標高27.96~97m。

東畦畔の水口は先述したが、西側と北側にそれぞれ水口が開く。西畦畔の水口は、埴塗際で幅30cm程度が確認できるだけで、埋土等詳細は確認していない。北畦畔の水口はやや西寄りにあり、幅約80cm。西側で少し北にずれ、やや段違い状である。断面は SS-221側に傾斜する。埋土は II - 2 - ⑤層に等しい、径1mm前後的小指先大の円礫を含む黄褐色砂質シルト(①層)で、下部に擾乱再堆積した II - 2 - ⑥層にあたるにぶい黄色シルトが部分的にみられる(図54-19)。

[SS-216]

調査区南西端、DY46区で出土した。25次調査下層水田 SS-215の西側にあたるが、検出した畦畔の延長に埴塗等による擾乱が及んでいたため、18次調査では SS-317に含まれている。検出したのは、東西幅0.75m、南北9.75m程の範囲で、東側を幅45cm前後、高さ4cm前後の畦畔で、北側を幅約40cm、高さ4cm前後の畦畔で区画されている。水田面の標高は、27.96m前後。

[SS-217]

SS-212の北、DT47区に位置する。東側の SD-211との間に幅50~65cm、高さ4cm程度の畦畔、西側の SS-218とは幅50cm前後、高さ3cm程度の畦畔があり、南側も SS-212との間に、幅60cm前後、高さ4cm程度の畦畔、北側 SS-223とは幅40~50cm、高さ約5cmの畦畔で区画されている。SS-217南東隅部で SD-211がクラン

ク状に東側に流れを移動させるため、SS-217は南東隅部が凹んだ格好で、東西約5.5m、南北約4mを測る。水田面の標高は、約25.95m。なお、南畦畔から西畦畔際がし字状にわざかながら低くなっている、通水状況を反映したとみられる。

水口は各辺に認められる。南畦畔の水口については、既に SS-212で述べた。東畦畔は、南端付近に幅約50cmの水口が開き、SD-211側に傾斜して、SS-217から SD-211への排水が窓える。この水口の埋土は暗灰黄色砂質土で、径1~2mmの砂粒をやや含み、砂質土がラミナ状に少量混じる。ややシルト質が強い(図54-20)。西畦畔は中央部が約35cm開き、傾斜はわずかながら SS-218側が低い。埋土は暗灰黄色砂質土で、径1mmの砂粒を少量含み、砂質土がラミナ状に混じるが、粘性が高い(図54-21)。

北畦畔は、北東隅部が途切れ、SD-211と SS-217へと連なる。西半は畦畔を検出できず、SS-223との間が大きく開いた状況である。ともに、SS-223との関係について土層観察を行った。北東隅部は、ほとんど傾斜がなく、むしろ畦畔の高まりの潜り込みにより、途中が馬の背状に高まる。SS-217・223間の配水より、ともに SD-211との通水を意図した水口と理解できる。埋土は、オリーブ褐色砂質土で、径1~5mmの砂粒・砂礫を含み、砂質土がラミナ状に少量混じり、砂質が強い。また鉄・マンガン分の沈着が見られる(図54-22)。西側は、約2.5mに渡って畦畔がない。ただし、SS-223側への傾斜がみられ、SS-217から SS-223への配水が窓える。この部分の埋土は暗灰黄色砂質土で、径1~2mmの砂粒を少し含み、砂質土がラミナ状に少し混じり、砂質が強く、しまりがある(図54-23)。

[SS-218]

SS-218は DU47区に位置する。南側は幅60cm前後、高さ3cm程度の畦畔があり、北側は SS-224との間に、幅50cm弱、高さ4cm前後の畦畔で画され、ともに水口が開かない。東側は中央部に水口があるものの、以外は南北畦畔からし字状に連続して、幅50cm前後、高さ3cm程度の畦畔で明確に区画されている。これらに対し残る西側は、南北畦畔から離れ、しかも2単位に分かれる。ともに幅50cm弱、高さ約4cmである。結果、やや歪ながら約8m四方の平面形となる。水田面標高は約25.94m。

東西と南北の畦畔の差は、これ以南が西側の水田面まで1面としていたのに対し、SS-218・219以北で2

面に東西に分割したために生じたと考えられる。

東畦畔水口については先述した。西畦畔は南北3箇所に水口が開く。南側は幅約25cm、中央部は75cm、北部は約50cmである。中央部水口ではSS-219側に傾斜し、SS-218からSS-219への配水が窓れる。埋土は暗灰黄色砂質シルトで、径1~2mmの砂粒をやや多く含み、砂質土がラミナ状にやや多く混じる。ただし粘性も伴う(図54-24)。

[SS-219]

DU・DV47区に位置する。南側は幅60cm前後、高さ1cm程度の畦畔でSS-213と区画され、東側は先述したように、断続的ながら幅50cm弱、高さ約4cmの畦畔でSS-218と区画される。西側は幅約60cm、高さ4cm前後の畦畔があり、北側も幅約50cm、高さ4~5cmの畦畔で区画され、水田面は東西約3.5m、南北約4m、水田面標高25.94mを測る。

東畦畔の水口については既に述べた。南畦畔については、西端が擾乱で不明であるが、ここに水口が存在した可能性は高い。北畦畔は東端が明確に水口となるが、西端の詳細は、擾乱で不明なところが多い。ただし、対する畦畔の隅部が途切れ、SS-219・220・225・226が水口で連なっていた状況が想定できる。北畦畔東水口部は推定幅約70cm。わずかながら、SS-225側に傾斜する。埋土は、オリーブ褐色砂質シルトで、径1~2mmの砂粒を少量含み、砂質土がラミナ状に少し混じるが、シルト質がやや強い(図54-25)。

[SS-220]

SS-219の西隣、DV・DW47区に位置する。南側は南東隅の畦畔が一部残るのみで詳細不明。X=94130のライン付近に存在したと推測される。東側は幅約60cm、高さ3cm前後の畦畔でSS-219と区画される。西側は北半が擾乱で不明ながら、南半に幅50cm以上、高さ約

15 : SD-211・SS-212 水口



16 : SS-212・213 水口



17 : SS-212・217 水口



18 : SS-213・214 水口



19 : SS-215・221 水口



20 : SD-211・SS-217 水口



21 : SS-217・218 水口



22 : SS-217・223 東水口



23 : SS-217・223 西水口



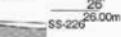
24 : SS-218・219 水口



25 : SS-219・225 東水口



26 : SS-220・226 東水口



27 : SS-220・226 西水口



28 : SS-221・227 東水口



29 : SS-221・227 西水口



図54 II-2-⑥層(下層水田)に伴う水口部土層(2) (縮尺1/20)

4 cmの畦畔が存在する。そして、北側は幅50~60cm、高さ約3 cmの畦畔がSS-226との間にある。水田面は、東西約45m、南北約4.5mを測り、標高25.95mである。

SS-220が東西の SS-219・221に比べて水田面が高いことから、南畦畔には SS-214からの配水用の水口が存在したはずである。また、西畦畔は北半が擾乱で不明ながら、その残存部分が水口の一端であるとみられる。北畦畔には、東端と中央部の2箇所の水口が認められる。前者は幅約50cm。SS-225層への明瞭な傾斜が認められる。埋土は II - 2 - ⑤層に等しく、黄褐色砂質シルトで、径1 mm前後の砂粒を少量含み、斑状に褐色色を呈する（図54-26）。後者は幅約35cm。やはりSS-226層へ傾斜する。埋土は II - 2 - ⑤層に等しい黄褐色砂質シルトで、径1 mmの砂粒を少量含む（①層）。その下部 SS-220側に、にぶい褐色シルトの②層が部分的に認められる（図54-27）。

[SS-221]

DX・DY47区を中心に広がる。南部にSD-150の擾乱が残り、東側も擾乱で畦畔の大半が不明。南側はSS-215との間に、幅50cm前後、高さ5 cm前後の畦畔があり、東側でも南北には幅50cm以上、高さ約5 cmの畦畔が残る。そして、西側は幅50cm前後、高さ約4 cmの、北側は幅約55cm、高さ2 cm前後の畦畔で画され、水田面の広がりは、東西約8 m、南北約5 mとなる。水田面標高は25.95m弱。

南側畦畔のやや西寄りに水口が開くが、これは既にSS-215で述べた。東側は北塗が開き、SS-221からSS-226への配水が見える。西側は水口が認められない。そして、北辺は2箇所の水口が確認できた。東側は幅約75cm。この西側約1 mの畦畔を挟んで、西側の水口となる。幅約30cm。ともに、傾斜はほとんどない。埋土も、ともに①層と②層に分かれる。①層はオリーブ褐色砂質シルトで、径1 mm前後の砂粒を含む。②層は、SS-221側に堆積するとともに、一部 SS-227層の下部にもみられる。オリーブ褐色シルトで、径1 mm前後の砂粒を含む（図54-28・29）。

[SS-222]

SS-222は調査区西端部で検出した。東側のSS-221とは幅50cm前後、高さ約5 cmの畦畔で明確に区画されるが、その西側で水田面が確認できたのは、東西幅50cm前後。その幅でも、南側は幅約40cm、高さ4 cm前後の畦畔が認められたのにに対し、北側は確認できなかつた。しかし、水口部分に相当する可能性が高いと判断

して、SS-221・227間畦畔の西側延長部分で、南北に水田面を分割することとした。水田面の標高は25.94mを測る。

[SS-223]

SS-223はSS-217~222の並びの北側列、SD-211に接する最東部の水田。DS・DT48区に位置する。南側東半は幅40~50cm、高さ約5 cmの畦畔でSS-217と区画され、東側 SD-211との間に幅50~60cm、高さ2~3 cmの畦畔がある。また、西側は幅60cm前後、高さ約3 cmの畦畔でSS-224と、北側は幅50cm前後、高さ2~3 cmの畦畔でSS-229と区画されている。結果、水田面は東西5.5~6.0m、南北約5.5mを測り、標高は25.95m前後。

SS-217との水口部は、既に述べた。SD-211とは南東端部で、SS-217とも共有する幅約90cmの水口がある。SD-211側に傾斜があり、SS-217・223からSD-211への排水が主に窓える。埋土はオリーブ褐色砂質土で、径1~2 mmの砂粒を含み、砂質土がラミナ状に混じり、砂質が強い。また、鉄・マンガン分の沈着がある（図55-30）。西畦畔は南北がそれぞれ途切れ水口となる。南は幅約70cm、北は幅約80cmで、いずれも傾斜は、SS-224側である。北側畦畔は、塗壌による擾乱が残り全容を残さないが、中央部が途切れ、幅80cm以上の水口となる。現状でSS-229側に傾斜し、SS-223から229への配水となる。埋土は、オリーブ褐色砂質土で、径1~3 mmの砂粒・砂礫を多く含み、砂質土がラミナ状に混じり、砂質が強い。鉄・マンガン分の沈着もみられる（図55-31）。

[SS-224]

SS-223の西隣、DU48区に位置する。南側は幅40~50cm、高さ約5 cmの畦畔でSS-218と区画され、東側は幅60cm前後、高さ約3 cmの畦畔でSS-223と区画される。また、西側 SS-225との間に、幅40cm前後、高さ約2 cmの畦畔があり、北側 SS-230との間に幅50cm前後、高さ約4 cmの畦畔がある。水田面は、東西3.5m弱、南北約5.5m、標高28.94m前後を測る。

南側 SS-218との間の畦畔には水口が開かない。東側畦畔水口は先に述べた。西側は、畦畔が2単位となり、水口が3箇所に開いた格好である。南側水口は幅100cm弱、中央部水口と北水口は幅約50cm。いずれもSS-225側に低いが、北側ほどその差は小さい。埋土は、南と中水口部が、オリーブ褐色から暗灰黄色の砂質シルトで、径1~2 mmの砂粒を多く含み、砂質土がラミナ状に少し混じり、ややシルト質も強い。また、南側

では、鉄・マンガン分の沈着が斑状に認められる（図55-32・33）。北水口部埋土は、南および中水口よりややシルト質の増した、径1mm前後の砂粒を含むオリーブ褐色砂質シルト（①層）が上部にあり、SS-224側下部に、黄褐色砂質シルト（②層）がある（図55-34）。北側畦畔も部分的で、東西両側に水口が開く。特に東側は幅約130cmと広く、西側は幅約60cm。いずれもSS-230側に傾斜し、SS-224から230への配水である。埋土は東西いずれも、SS-230側上部に、1mm前後の砂粒を含んだ暗灰黄色砂質シルト（①層）があり、SS-224側下部には、1mm前後の砂粒を少量含んだ黄褐色砂質シルト（②層）が堆積する。径1mm前後の砂粒を少量含む（図55-35・36）。

[SS-225]

SS-224の西隣、DU・DV48区に位置する。南側は幅約50cm、高さ約5cmの畦畔でSS-219と、東側は幅40cm前後、高さ約2cmの畦畔でSS-224と、西側は幅40~50cm、高さ約2cmの畦畔でSS-226と、北側は幅40cm弱、高さ約2cmの畦畔でSS-231と、それぞれ画されている。水田面の広さは、東西3.5~4.0m、南北約5.5m、標高28.94m弱である。

南畦畔は東西両側が途切れ、東畦畔は2単位の畦畔で水口は3箇所に開く。いずれも、既にSS-219あるいはSS-224で述べた。西畦畔も、やはり南北2単位に別れ、水口は3箇所に開く。南水口は、SS-219・220・225・226が共有し、南北幅約80cm。わずかながらSS-226から225に傾斜するようである。これは、南側SS-220がその東側SS-219より水田面が高いことを引き継いでいることによる。中央部水口は幅約50cm、北水口は幅約80cm。やはりわずかながらSS-225側に低い。埋土はいずれも、SS-225側上部に、径1mm前後の砂粒を少量含む黄褐色砂質シルト（①層）があり、下部SS-226側に、径1mm前後の砂粒を含み、上部よりやや粘性の弱いオリーブ褐色砂質シルト（②層）がある（図55-37・38）。北畦畔は中央部で水口が開くとともに、北西隅部が途切れる。中央部水口は幅約55cm。埋土は上部が褐色砂質シルトで、径1mm前後の砂粒を含む。下部は、上部より粘性のあるオリーブ褐色砂質シルト（②層）である（図55-39）。

[SS-226]

DV・DW48区に位置し、北側49区にも広がる。南側は幅50~60cm、高さ約3cmの畦畔がSS-220との間に、東側は幅40~50cm、高さ約2cmの畦畔がSS-225

との間に、西側は幅50~70cm、高さ3~4cmの畦畔がSS-227との間に、北側は幅約50cm、高さ約3cmの畦畔がSS-232との間にそれぞれ存在する。これらにより、水田面は東西約5.5m、南北約5.5mで、標高28.93~94mである。

水口は各辺にあり、東畦畔と南畦畔はともに3箇所が開くが、詳細は既に述べた。西畦畔は、中央部とやや北寄りの2箇所に水口が開く。ともに幅約25cmで、南側はSS-226から227側へ、北側はSS-227から226側へ傾く。埋土はいずれも、上部に径1mm前後の砂粒を含むオリーブ褐色砂質シルト（①層）があり、SS-227側下部に、やや粘性のあるオリーブ褐色砂質シルト（②層）が堆積する（図55-40・41）。北畦畔は、北東隅部と中央部が水口である。前者は上部埋土が径1mm前後の白色砂粒を多く含む暗灰黄色砂質シルト（①層）で、下部は暗灰黄色砂質シルト（②層）である（図55-42）。後者は幅約80cmで、わずかながらSS-232側に傾斜する。埋土は、上部が暗灰黄色砂質シルトで、径1mm前後の砂粒を含む。下部はオリーブ褐色の砂質シルト（②層）である（図55-43）。

[SS-227]

SS-227は、DX48を中心としてDW48・49区、DY48・49区に広がる。南側は幅約55cm、高さ約2cmの畦畔でSS-221と、東側は幅50~70cm、高さ3~4cmの畦畔でSS-226と、西側は幅60cm前後、高さ約4cmの畦畔でSS-228と、そして北側を幅50cm前後、高さ約2cmの畦畔でSS-233とそれぞれ区画されている。水田面の広がりは、東西約7.5m、南北約5.5mと広く、水田面標高28.92~93mである。

水口は、東畦畔と南畦畔にそれぞれ2箇所あるが、これらは既に述べた。西畦畔は閉じた状態である。そして、北畦畔は、3箇所に水口が開く。東側水口は、幅約100cm、中央部畦畔は幅約80cm、西側水口は幅約25cmで、いずれもSS-233側に傾斜し、SS-227から233への配水が窺える。埋土は、いずれも上部に径1mm前後の砂粒を含む暗灰黄色砂質シルトがあり、西側ほど砂質が強くなる（①層）。対して下部は、東水口では、SS-227側に暗灰黄色砂質シルト（②層）が堆積し、中央部水口では、①層より粘性のあるオリーブ褐色砂質シルト（②層）が部分的にあり、西側水口では、SS-227側に、1mm前後の砂粒を含んだオリーブ褐色砂質シルト（②層）がみられる（図55-44~46）。

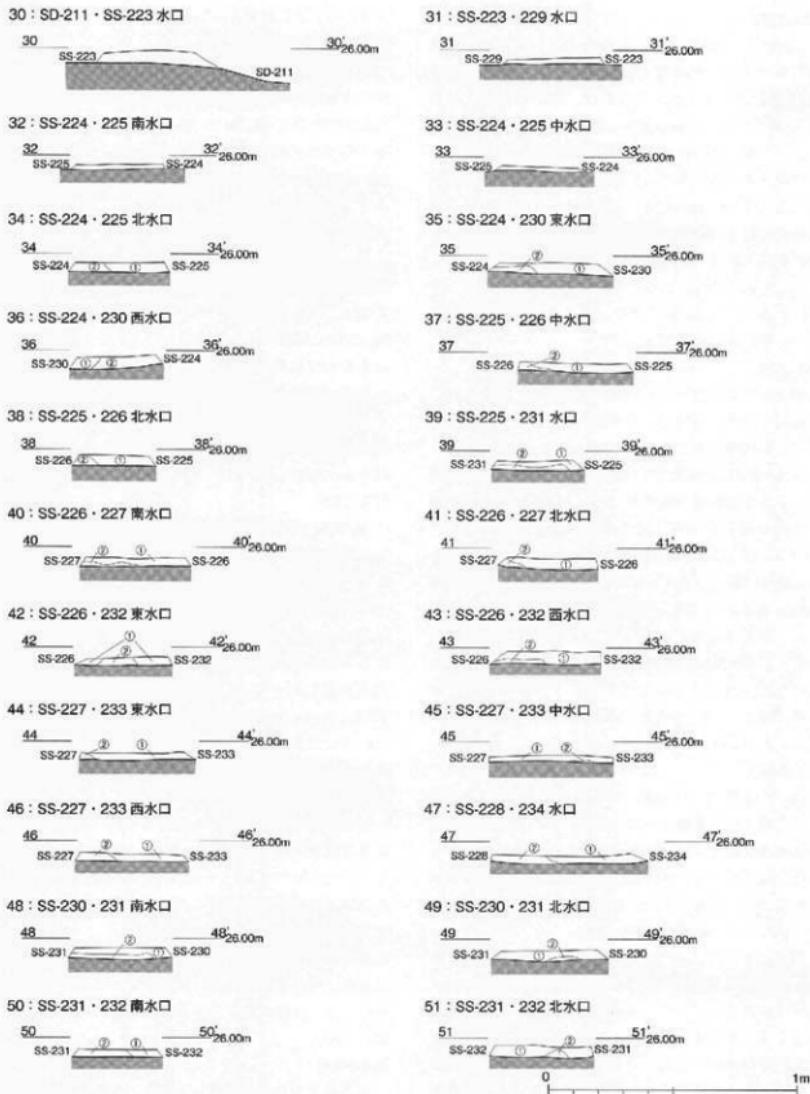


図55 II - 2 - ⑥層（下層水田）に伴う水口部土層図(3)（縮尺1/20）

[SS-228]

SS-228は、調査区西端、DY48・49区に所在する。検出できたのは、東西幅1m以下ながら、南北は約5.5mと推定できる。水田面標高は、28.93m前後。東側のSS-227とは、幅60cm前後、高さ約3~4cmの畦畔で区画され、水口は開かない。南側は畦畔が認められないが、水口部にあたる可能性の高いことを既に述べた。北側は、幅50cm前後、高さ約2cmの畦畔がSS-234との間にあり、東端では水口部となる。中央部が凹み、狭い範囲で配水方向は不明。埋土は、SS-234側上部に径1mm前後の砂粒を含むオリーブ褐色砂質シルト(①層)があり、SS-228側下部に、オリーブ褐色砂質シルト(②層)がある(図55~47)。

[SS-229]

SS-229はSS-223~228の並びの北側列、調査区内では検出した最北部列の、最東部の水田。中央部に整壕による擾乱が大きく残る。南側は幅50cm前後、高さ2~3cmの畦畔がSS-223との間にあり、東側は幅40cm前後、高さ3cm前後の畦畔がSD-211との間にある。西側に畦畔は残らないが、南側の水田並びから推して、Y=67290付近に本来は畦畔が存在したとして、擾乱以東をSS-229、以西をSS-230とした。水田面は東西約6.5m、南北4.0m以上、標高は28.94m前後となる。ただし、調査区北側ではDSI区のII-2-⑥層・SR-301-①層が薄く、SR-301-②層が露出し、北東部を中心に水田外の範囲が含まれる可能性がある。それでも、DT区以外ではII-2-⑥・SR-301-①層が安定することから、水田としている。

[SS-230]

SS-230はSS-229の西隣、擾乱以西にあたり、DU49区に位置する。北側はやはり調査区外へと延びる。南側は幅50cm前後、高さ約4cmの畦畔でSS-224と区画され、西側は幅40~50cm、高さ約3cmの畦畔でSS-231と区画されている。確認できた水田面は、東西幅約3m、南北4m以上で、標高は28.93~94m。

南側の水口については既に述べた。西畦畔では、確認した範囲で2箇所に水口が開く。南側は幅約30cm、北側は幅約25cm、ともに中央部が凹むが、SS-231側に傾斜する。埋土は、ともに上部に、径1mm前後の砂粒を含む黄褐色砂質シルト(①層)がある。南側では下部の広く、上部よりやや粘性のあるオリーブ褐色砂質シルト(②層)が堆積する(図55~48)。対して、北側は、下部に上部よりやや粘性のある黄褐色砂質シ

ルトが部分的に堆積する(図55~49)。

[SS-231]

SS-231はSS-230の西隣、DU・DV49区に位置し、北側は調査区外へと延びる。南側は幅40cm弱、高さ約3cm前後の畦畔がSS-225との間に、東側は幅40~50cm、高さ約3cmの畦畔がSS-230との間に、そして西側は幅50cm前後、高さ約3cm前後の畦畔がSS-232との間にある。これらで区画された水田面は、東西3m前後、南北3.5m以上で、標高は28.93mを測る。

南と東畦畔の水口については既に述べた。西側は南端と中央部の2箇所に水口がみられる。南端は幅約60cm、中央部は幅約35cm、いずれも、わずかながらSS-232側に傾斜する。埋土は、いずれも上部に、径1mm前後の砂粒を含むオリーブ褐色砂質シルト(①層)がある。南端のSS-231側下部には暗灰黄色砂質シルト(②層)が、中央部の下部には、上部よりやや粘性の強いオリーブ褐色砂質シルト(③層)が部分的に堆積する(図55~50・51)。

[SS-232]

SS-232はSS-231の西隣、DV・DW49区に位置し、北側は調査区外へのび、中央部に戦前の演習用整壕とみられる擾乱が残る。南側は幅約50cm、高さ3~4cmの畦畔によりSS-226と、東側は幅50cm前後、高さ約3cm前後の畦畔でSS-231と、そして西側は幅50cm前後、高さ3cm前後の畦畔でSS-233と区画されている。その水田面の広がりは、東西約4.5m、南北3.5m以上、標高は28.93m前後である。南と東畦畔の水口については既に述べた。西畦畔では、中央部に1箇所水口がある。幅約20cm。

[SS-233]

SS-233は、SS-232の西側、DW・DX49区に位置し、北側は調査区外へのびる。南側は幅50cm前後、高さ2~3cmの畦畔でSS-227と、東側は幅50cm前後、高さ3cm前後の畦畔でSS-232と、そして西側は幅80cm前後、高さ約3cmの畦畔でSS-234と区画されている。その広がりは、東西約8m、南北5.5m以上で、標高28.93m前後。南と東畦畔の水口については既に述べた。西畦畔にも、南端に水口がある。幅約40cm。擾乱際で詳細は不明。

[SS-234]

調査区北西隅、DY49区の水田である。整壕と見られる擾乱が大きく及び、検出した範囲は狭い。南側SS-228との間に幅50cm前後、高さ約3cmの畦畔があ

り、東側SS-233との間にも、幅80cm前後、高さ約3cmの畦畔を確認しているが、西と北はいずれも調査区内に及び、確認できた水田面の広がりは、東西約1.5m、南北2.5m程度に過ぎず、さらに大きく擾乱が残っている。水田面の標高は28.92~93m。

② 溝

最初に述べたように、調査区内の水田を東西に分かつように、溝1条が南北に走る。SD-211である(図版8-2)。

[SD-211]

SD-211は下層水田に伴う水路で、DS46~49区に及び、18次調査のSD-307の北延長部分にある。両側の水田面とは畦畔で区画され、調査区南端では二段状にやや幅を広げる一方、北部では幅を小さくし、50~100cmと変化があるものの、平均約70cm幅である。深さは両側の水田面から10cm前後で推移しているが、最深部はSS-206・217・208・223の交点付近で、北側では浅くなる。また、SD-211はまっすぐではなく、DS47区のSS-203・212・206・217の交点部分でクラシク状になり、畦畔一帯が東側へ移動した格好である。これらから、SD-211は南側から導水してSS-206・217・208・223に配水するとともに、北側からの配水機能も一部有していたと考えられる。なおその際、SD-211最深部の南北に両側からの流れを制御するための堰等が想定されるが、見いだせていない。

SD-211の埋土最上部の①層は、基本的にII-2-⑤層であり、オリーブ褐色砂質土。径1~3mmの砂粒・砂礫を含み、砂質土がラミナ状に混じり、砂質が強い。また、上部からの鉄・マンガン分の沈着が認められる。その下部には、まず下流部の北部では②層の暗灰

黄色砂質土がある。1~3mmの砂粒・砂礫を多く含み、砂質土がラミナ状に多く混じり、砂質の強い土層である。そして、全城の最下部層として、暗灰黄色砂質土の③層が堆積する。2mm前後の砂粒・砂礫をやや含み、砂質土・シルト質土がラミナ状に混じり、北部では砂質が強い(図56)。

SD-211から出土した遺物は、c1層として取り上げてしまつたが、その中には水田廃絶時以前の溝堀土内包含遺物も含んでいる。ところが、出土遺物は土師器・須恵器の細片ばかりで、SD-211の機能した時期を特定できるようなものはなかった。

(2) 出土遺物

出土遺物の取り上げは、畦畔部分(c2層)と耕作土層(c3・4層)に大別される。また本来なら、後者は水田面単位あるいは畦畔単位で区別されるべきであるが、城北団地区割単位での取り上げとしており、一括して報告する(表9)。

① 畦畔部(c2層) 出土の遺物

畦畔部出土遺物は多くない。その中から図化できたのは3点(図57)。1は土師器塊底部で、しっかりした断面三角形の貼付高台を有する。SS-219・225間の畦畔部出土である。2は内黒の黒色土器の塊体部下半。やや幅広のしっかりした高台を貼り付け、内外面にミガキ調整が残る。SS-220・SS-221間の畦畔部出土と、DW45区の調査区南側のII-2-⑥層耕作土出土が接合した。3は須恵器坏身。小型で受部も小さい。SS-225・231間の畦畔部(DV49-1区)出土である。

なお、図化できなかつたが、SS-217・218の間畦畔部から、瓦器口縁小片が出土している。

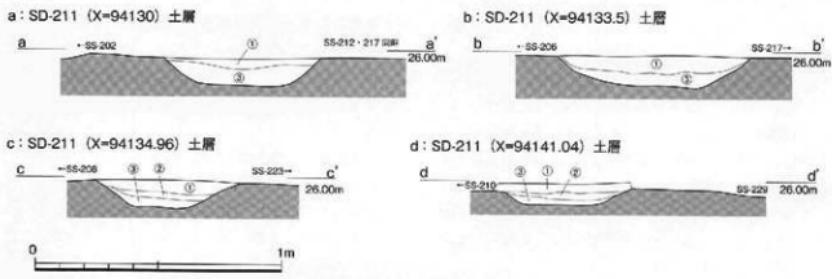


図56 II - 2 - ⑥層(下層水田)に伴う溝土層図(縮尺1/20)

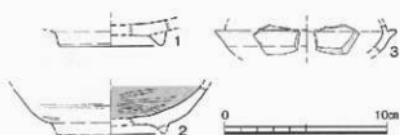


図57 II-2-⑥層畦畔部(c2層)出土遺物(縮尺1/3)

② 耕作土(c3・4層)出土の遺物

調査時には、c3・4層として取り上げたII-2-⑥層出土遺物には、中世の土師器、黒色土器、土師質土器、陶器の他、それ以前の土師器、須恵器、瓦、綠釉陶器、弥生土器や、石器、鐵器がある。他、近現代の陶磁器、瓦が西壁から出土しているが、搅乱を残したまま、最終段階で掘り下げたため、紛れ込んだと判断した。同様に、北壁部出土の、龍泉窯系青磁片、底部に回転糸切り痕をもつ土師器小皿、瓦質土器鍋も混入と判断した。一方、調査区北東部で水田外と判断した範囲にありながら、下層水田耕作土として取り上げた遺物には、本来SR-301-②層に含まれる遺物が紛れている可能性がある。DQ47~50区・DR49区・DS49区のC3・4・(d)層として取り上げたもので、図示した遺物のうち、5・17・20・24・26・29・30・35・37・43・45・46が該当する。これらも含めて、61点を提示する(図58~61、図版16)。

1~20は土師器(図版16-1)。口縁部は1と2のみ。1は端部を外反させる塊口縁部。2は小型の坏口縁部。3~7は坏底部。3~5は平底で、3は底部から大きく開く。6・7は円盤状高台の底部で、いずれも外底面に回転ヘラ切りの痕跡を残す。6は一度まっすぐ立ち上がってから外反し、7は厚い底部から体部が立ち上がる。8~16は貼付高台を有する塊底部。高台の断面形状は、8・9がしっかりした三角形、10が台形で外縁部が横ナデでやや突出気味。11は丸みをもった台形で、12はやや細長く高くなった台形。13~15は端部が丸く、細長くなつた三角形。16は細長くなつた高台が、外に向かって広がり、見込みも深さをやや増す。17・18は皿でいずれも赤彩。17は灰白色の胎土に橙色の塗彩を、18は、にぶい黄橙色の胎土に明赤褐色の塗彩を施す。19・20は小皿。20は浅黄褐色の胎土ににぶい橙色の塗彩を施す。

21・22は内黒の黑色土器塊。いずれも、幅広のしつ

かりした断面三角形の高台を貼り付ける。21の内外面にはミガキがよく残り、剥落した高台接合部に、接合用のスル線が認められる(図版16-2)。

23は、胎土はやや粗いが、内面にわずかに炭素の吸着が認められ、形態的に瓦器と判断した。高台断面は丸みをもつた低平な三角形。DX49区II-2-⑥層出土と、II-2-③層下部出土が接合したものである(図版16-1)。この他にも、隣のDW49区から瓦器小片が出土するとともに、DW・DX49区では下層のSR-301-①層でも瓦器片が出土し、上部からの搅乱を掘り残していた可能性がある。

24は綠釉陶器碗底部。綠釉は残っていない。胎土は黄色みがかった灰白色で焼き上がりは硬質だが、一部浅黄橙色を呈する軟質部がある。底部は削り出しによる蛇ノ目高台。外面は回転ヘラ削りの痕跡が残り、内面は丁寧にミガキ仕上げされている(図版16-3)。

25~37は須恵器。25は坏身の口縁部で、端部内面に明瞭な段をもつ。口径は小さい。26~29は坏口縁部。26・27は直線的な体部から、口縁端部が横ナデによりわずかに外反する。28は深みのある体部をもち、口縁端部の外反もやや大きい。29は口縁端部をやや内湾させて尖り気味に取める。30・31は高台付坏の底部。30の高台は断面方形で、接地面が凹み、内側に踏ん張る。31はやや焼成が良くない。32は小型で細身の高坏脚部。坏部に歪みがある。33は台付塊の脚台部。34は鉢の口縁部。やや内傾し、端部は面をなす。35は広口壺口縁部。端部付近で短く水平に屈曲し、上方へつまみ上げる。36は壺の肩部片である。外面にカキ目を施し、内面は回転ナデ調整。37は内外面回転ナデ調整の壺頭部。

38・39は須恵質土器。38はこね鉢口縁部。端部をやや拡張させている。39は壺の胴部片。外面に格子目状タキ調整を施し、内面にハケ目調整と不定方向のナデ調整を施す。出土が調査区西壁であり、混入の可能性も残る。

40・41は土師質土器鍋。40は口縁部で、端部は面をなす。41は胴部から頸部にかけての屈曲部。内外面ナデ仕上げ。

42は丸瓦で、内外面に炭素を吸着させている。

43は、古墳時代前期の二重口縁壺の二次口縁部。一次口縁部の外側に竹管文を施す(図版16-4)。

44~49は弥生土器。44・45は、拡張した口縁端部に数条の凹線文を施す壺口縁部。中期後葉。46は後期の壺口縁部。赤みのある焼き上がりで、胎土に雲母細粒

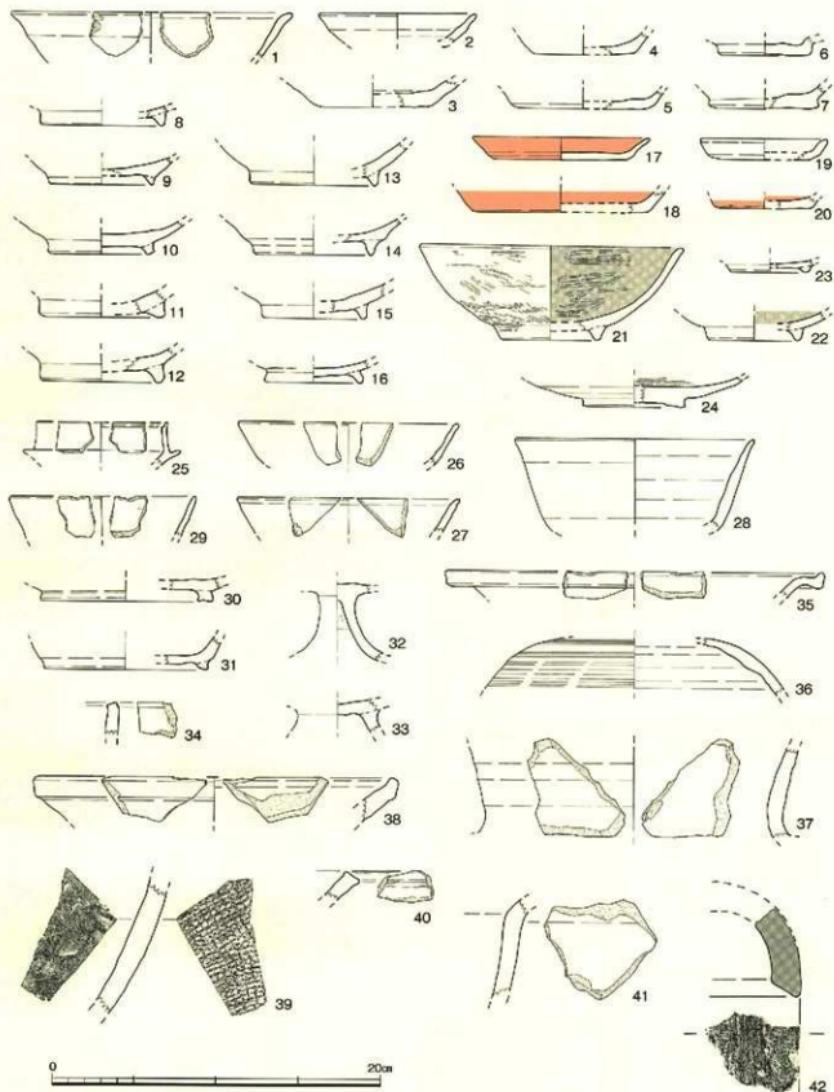


図58 II - 2 - ⑥層耕作土 (c3・4層) 出土遺物(1) (縮尺1/3)

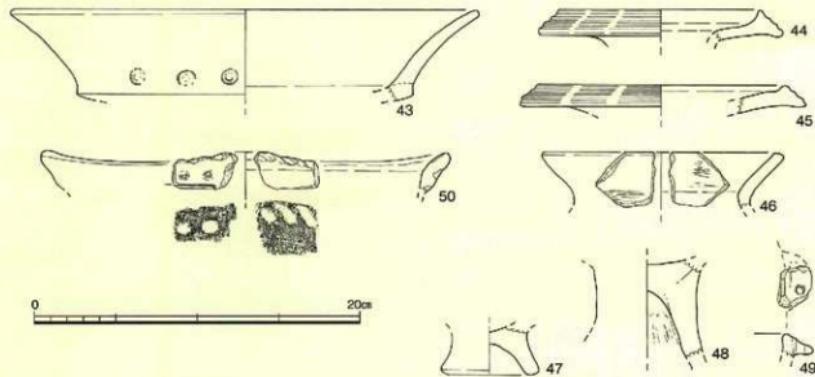


图59 II-2-⑥层耕作土(c3·4层)出土遗物(2) (缩尺1/3)

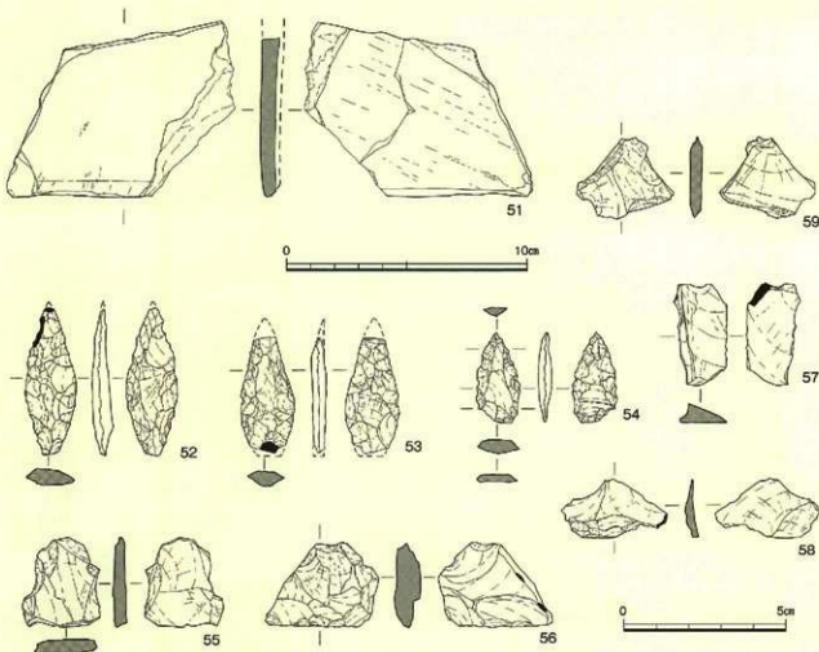


图60 II-2-⑥层耕作土(c3·4层)出土遗物(3) —石器— (缩尺1/2·2/3)

を多く含み、搬入土器とみられる。47は壺の脚部。48は器厚が厚く、大型の高脚部。円盤充填を行っている。49は鉢の口縁部か。縁部外面に2つの小円孔を有する半円形の耳部を貼り付け、蓋との紐掛かりとしている。

50は繩文土器。深鉢の波状口縁部と考えられる。外面は円形刺突文の下方に断続的な沈線、口縁端部内面には斜め方向の刻み目文を施す。いずれの文様もほぼ同じ幅で、同一工具によるとみられる。繩文後期。

51～58は石器。51は片岩製。磨滅と剥落が著しいが、刃部の形成が認められる。石扁丁、あるいは大きさから大形石扁丁の可能性がある（図版16～5）。52～54は打裂石鐵（図版16～8）。52がサスカイト製で凸基式。横長剥片を素材とし、背面左側は先端から基部へ規則的に剥離している。重量40.4gと大型である。53・54は赤色頁岩製。53は概長剥片、54は横長剥片を素材としている。いずれも凸基式で、基部から先端へ向けた剥離により、基部を薄く作り出す。55～58はサスカイト剥片である。55は形状から石錐未製品の可能性もある。59は赤色頁岩の剥片。

60は鉄器。断面は扁平な方形で、環状または鉤状と

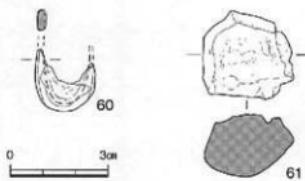


図61 II - 2 - ⑥層耕作土 (c3・4層) 出土遺物(4)
—鉄器— (縮尺2/3)

推定される。外側に一部赤色を呈する箇所がある。61は鉄滓。21.1gと見た目より軽い。

(3) 小結

II - 2 - ⑥層からは、回転糸切り痕を残す土師器底部や貿易陶器は出土していないものの、12世紀後半の瓦器が少数出土しており、若干新しい須恵陶器もある。これらを紹介すると、高台端部を丸く取めた土師器塊が最新相を示し、下層水田の耕作時期は、11世紀後半まで遡ることになる。

表9 II - 2 - ⑥層出土遺物観察表

II - 2 - ⑥層耕作土 (c3層) 出土遺物								
件名	測定番号	取上	等位	地質	遺物内容	文様・調整・色調・粒度などの特徴	取筋 番号	
1	R40074	r4236	c2等	SS29-25時脚 (DW47)	土師器	輪	赤鉄 全面磨削。外側に赤い斑色。内面に赤い斑色。石尖・長石の砂粒、鐵礫など多く含む。	13
2	R40138	r4240	c2等	SS29-22時脚 (DW47)	黑色土器 (PC)	輪	外側磨テテ後段タガキ。外側ミタガキ。外側に赤い斑色。内面磨色。石尖・長石の砂粒まばらに含む。	13
3	R40076	r4232	c2等	SS25-25時脚 (DW49)	土師器	輪	内面全面磨テ。灰色。鐵礫など含む。	13
II - 2 - ⑥層耕作土 (c4層) 出土遺物								
件名	測定番号	取上	等位	地質	遺物内容	文様・調整・色調・粒度などの特徴	取筋 番号	
1	R40086	r4267	c2・4等	DU47	土師器	輪	口縁部外側全面磨テ。内面に赤い斑色。外側に赤い斑色。石尖・長石の砂粒まばらに含む。	14
2	R40139	r4301	c3・4等	DW46	土師器	輪	口縁部全面磨削。外側全面磨テアホ。内面磨色。鐵礫など含む。	14
3	R40113	r4003	c3・4等	DW48	土師器	輪	全面磨削。外側全面磨。内・外縁部全面磨。石尖・長石の砂粒多く含む。	14
4	R40059	r4261	c3等	DW48	土師器	輪	全面磨削。外側全面磨。内・外縁部全面磨。石尖・長石の砂粒多く含む。	14
5	R40125	r4530	c3・4等 (d) 横	DQ19	土師器	輪	外側全面磨削。外表面全面磨。内面全面磨。赤鉄色。鐵礫など含む。	14
6	R40059	r4290	c3・4等	DU49	土師器	輪	全面磨削。外表面全面磨。内面全面磨。赤鉄色。鐵礫など含む。	14
7	R40021	r4279	c3・4等	DT47	土師器	輪	外側全面磨削。内・外縁部全面磨。外縁部全面磨。外側全面磨。内面に赤い斑色。	14
8	R40126	r4312	c3・4等	DY48	土師器	輪	全面磨削。外側全面磨。内・外縁部全面磨。赤鉄色。鐵礫など含む。	14
9	R40107	r4300	c3・4等	DW45時	土師器	輪	外側全面磨削。内・外縁部全面磨。外側全面磨。内面に赤い斑色。	14
10	R40106	r4257	c3・4等	DV49	土師器	輪	全面磨削。内・外縁部全面磨。赤鉄色。鐵礫など含む。	14
11	R40006	r4282	c3・4等	DT48	土師器	輪	内・外縁部全面磨。赤鉄色。鐵礫など含む。	14
12	R40007	r4288	c3・4等	DU48	土師器	輪	外側全面磨。内・外縁部全面磨。赤鉄色。鐵礫など含む。	14
13	R40025	r4320	c3・4等	DY47	土師器	輪	全面磨削。外側全面磨。内・外縁部全面磨。赤鉄色。鐵礫など含む。	14
14	R40116	r4306	c3・4等	DW30時脚	土師器	輪	全面磨削。外側全面磨。内・外縁部全面磨。赤鉄色。鐵礫など含む。	14
15	R40118	r4310	c3・4等	DX47	土師器	輪	全面磨削。赤鉄色。赤鉄色。鐵礫など含む。	14

遺物番号	出土状況	調査内容	文様・装飾・色調・出土などの特徴	取扱 番号
16 R40130 r4322 c3・4層	DW47 土器部	縦	底部 全面施釉。底面施釉部分。灰白色。石英・長石の砂粒・細織。褐色斑まばらに含む。	14
17 R40134 r4328 c3・4層	DS47 土器部(赤茶)	直	全形 内外面施釉。底板:ナメから内側青褐色(赤茶段存)、表面灰白色。微細な石英・長石わずかに含む。	14
18 R40092 r4280 c3・4層	DT47 土器部(赤茶)	直	底部 全形 内外面施釉ナメ。内外明瞭青色(赤茶段存)。表面に灰白色。石英・長石の砂粒多く含む。	14
19 R40127 r4325 c3・4層	DY48等 土器部	小皿	全形 内外面施釉。ナメ・面糊糊。外底面を切り取るの可能性あり。灰白色。微細な石英・長石わずかに含む。	14
20 R40144 r4333 c3・4層	DS49 土器部(赤茶)	小皿	底部 内外面施釉。内面内に灰白色(赤茶段存)、表面灰黄色。石英・長石の砂粒・くわづかに含む。	14
21 R40081 r4282 c3層	DU48 黑色土器(内)	縦	全形 内外面施釉。内面内に灰白色(赤茶段存)。内底直方角・内底辺は不定方向。外面に灰白色。内底黒色。砂粒なし。長石まばらに含む。	14
22 R40106 r4297 c3・4層	DV49 黑色土器(内)	縦	内面施釉。外面灰黄色。内底灰白色。微細な石英・長石・赤茶段まばらに含む。外底の板 灰色	14
23 R40123 r4315 c3・4層	DX49	瓦器	端 鉢底 全面施釉。外側灰黄色。内側一部灰色。石英・長石の砂粒多く含む。	14
24 R40004 r4305 b1層	SS106			
25 R40149 r4332 c3・4層	DS49 縦種荷鉢	縦	底板:灰白色。外側施釉(カズレ)。内面にミガリ仕上。内外面やや黄色がかった灰白色。	14
26 R40097 r4361 c3層	DS48 瓶蓋	扁平	底板:灰白色(内側)。外底面施釉ナメ。灰白色。細織な石英・長石まばらに含む。	14
27 R40140 r4232 c3・4層	DS49 瓶蓋	環	内面施釉。内底面にナメ。灰白色。微細な石英・長石わずかに含む。	14
27 R40127 r4329 c3・4層	DS48 瓶蓋	环	内面施釉。内底面にナメ。灰白色。微細な石英・長石まばらに含む。	14
28 R40078 r4261 c3・4層	DS48 瓶蓋	环	上半部 内外面施釉ナメ。外面灰白色。内底灰白色。微細な石英・長石多く含む。	14
29 R40123 r4328 c3・4層	DQ47 瓶蓋	环	内面施釉。外底面施釉ナメ。灰白色。微細な石英・長石まばらに含む。	14
30 R40142 r4333 c3・4層	DS49 瓶蓋	环	内面施釉。外底面施釉ナメ。外面灰白色。内底灰白色。石英・長石の砂粒多く含む。	14
31 R40080 r4261 c3層	DS48 瓶蓋	环	底板:全焼。他焼成度灰白色。内底灰白色。微細な石英・長石わずかに含む。	14
32 R40102 r4294 c3・4層	DV47 瓶蓋	环	内面施釉。内底面施釉ナメ。内面内上面板灰白色。外底面灰白色。新野赤灰白。石英・長石の砂粒全く含む。	14
33 R40120 r4312 c3・4層	DX48 瓶蓋	台付鉢	輪台付:内面施釉ナメ。灰白色。微細な石英・長石まばらに含む。	14
34 R40087 r4270 c3・4層	DS45等 瓶蓋	井	井口部:内面施釉ナメ。外底面灰白色。新野赤灰白。微細な石英・長石わずかに含む。	14
35 R40128 r4331 c3・4層	DR49 瓶蓋	松口壺	外底面施釉ナメ。外底灰白色。内底オリーブ色(自然釉)。石英・長石の砂粒まばらに含む。	14
36 R40145 r4334 c3・4層	DT50 瓶蓋	底	新野赤灰白。内底面青白色。外底灰白色(自然釉)。内底灰白色。石英・長石の砂粒・氧化物まばらに含む。	14
37 R40143 r4333 c3・4層	DS49 瓶蓋	蓋	内面施釉。外底面施釉ナメ。外底内上サリーフ墨色(自然釉)。内底灰白色。内底灰白色。石英・長石の砂粒全く含む。	14
38 R40086 r4268 c3・4層	DR45 縦扇貝質四つ	こね	内面施釉。次元日、脚部一部灰白色。石英・長石の砂粒・黄褐色多く含む。	14
39 R40131 r4227 c3・4層	DY50等 扇貝質四つ	蓋	外底子房ナメタテ。内面不記ナメナゲ、一部ハケ目。外底灰白、内底灰白色。石英・長石の砂粒・氧化物まばらに含む。十数個常家産。	14
40 R40000 r4280 c3・4層	DU48 土器部土器	縦	内面施釉。外底面施釉ナメ。内底灰白色。新野赤灰白。微細な石英・長石の砂粒多く含む。	14
41 R40161 r4253 c3・4層	DV45 土器部質土器	縦	内面不透明ナメ。外底面施釉ナメ。内底灰白色。新野赤灰白。内底灰白色。石英・長石の砂粒多く含む。	14
42 R40132 r4227 c3・4層	DY50等 瓦	瓦	内面施釉。外底面施釉ナメ。新野赤灰白。新野灰白色。内底灰白色。石英・長石の砂粒多く含む。	14
43 R40136 r4331 c3・4層	DR49 土器部	甕	内面施釉。外底面施釉ナメ。新野赤灰白。内底灰白色。新野灰白色。石英・長石の砂粒多く含む。	14
44 R40066 r4270 c3・4層	DG49等 共生土器	甕	内面施釉。外底面施釉ナメ。新野赤灰白。内底灰白色。石英・長石の砂粒多く含み・赤色斑状をこくわざかに含む。	14
45 R40139 r4332 c3・4層	DS49 共生土器	甕	内面施釉。内底面青白色。外底面施釉。内底灰白色。石英・長石の砂粒・細織非常に多く含む。	14
46 R40148 r4334 c3・4層	DT50 共生土器	甕	内面内ハマリ目ナメ。外底内灰白色。一部赤系褐色、内底灰白色。石英・洪石の砂粒多く、微細な石英・長石の砂粒まばらに含む。	14
47 R40129 r4237 c3・4層	DY50等 共生土器	甕	内面施釉。新野赤灰白。石英・長石の砂粒・細織非常に多く含む。	14
48 R40126 r4224 c3・4層	DS49 共生土器	甕	内面施釉。新野赤灰白。石英・長石の砂粒・細織非常に多く含む。	14
49 R40119 r4310 c3・4層	DX47 共生土器	甕	内面施釉。新野赤灰白。内底灰白色。石英・長石の砂粒・細織多く含む。	14
50 R40082 r4280 c3・4層	DR45 織文土器	深鉢	内面施釉。内底面青白色。新野赤灰白。内底灰白色。石英・洪石の砂粒・細織非常に多く含む。	14
51 R40089 r4270 c3・4層	DS45等 石器	石器?	全形 斧削? 破壊重量70kg一方の刃に10kg。	14
52 R40236 r4286 c3・4層	DU46 石器	石器	サスカイナメ。重量差40kg。外長柄片刃を使用。全面削成。	14
53 R40122 r4314 c3・4層	DX49 石器	石器	全形 亂打目剥離。新野・石英・長石の砂粒・細織非常に多く含む。	14
54 R40330 r4278 c3・4層	DT46 石器	石器	全形 亂打目剥離。新野・石英・長石の砂粒・細織非常に多く含む。	14
55 R40111 r4302 c3・4層	DW47 石器	剥片	サスカイナメ。重量差41kg。石器剥離部の凹面性も。	14
56 R40068 r4268 c3・4層	DU44 石器	剥片	サスカイナメ。重量差7kg。	14
57 R40114 r4305 c3・4層	DW49 石器	剥片	サスカイナメ。重量差34kg。	14
58 R40124 r4315 c3・4層	DX49 石器	剥片	サスカイナメ。重量差1kg。	14
59 R40112 r4302 c3・4層	DW47 石器	剥片	色黄剥離。重量差25kg。	14
60 R40003 r4295 c3・4層	DV48 鉄器	小刀	頭部量32mm。頭部扁平な方針。	14
61 R40104 r4296 c3・4層	DV48 鉄器	鉄矛	頭部量21.4mm。	14

10 II層下の遺構と出土遺物

古代から中世に遡る水田関連土層であるII-2層の下は、調査区全面において、流路内堆積となつた。調査段階では、d層およびe層とした堆積土層名のみで把握していたが、1条の自然流路内の堆積であ

り、この自然流路をSR-301として報告する。なお、工事掘削深度である現地表下300cmまで掘り下げたが、SR-301の最深部を完掘してはいない(図59・60、図版9~12)。

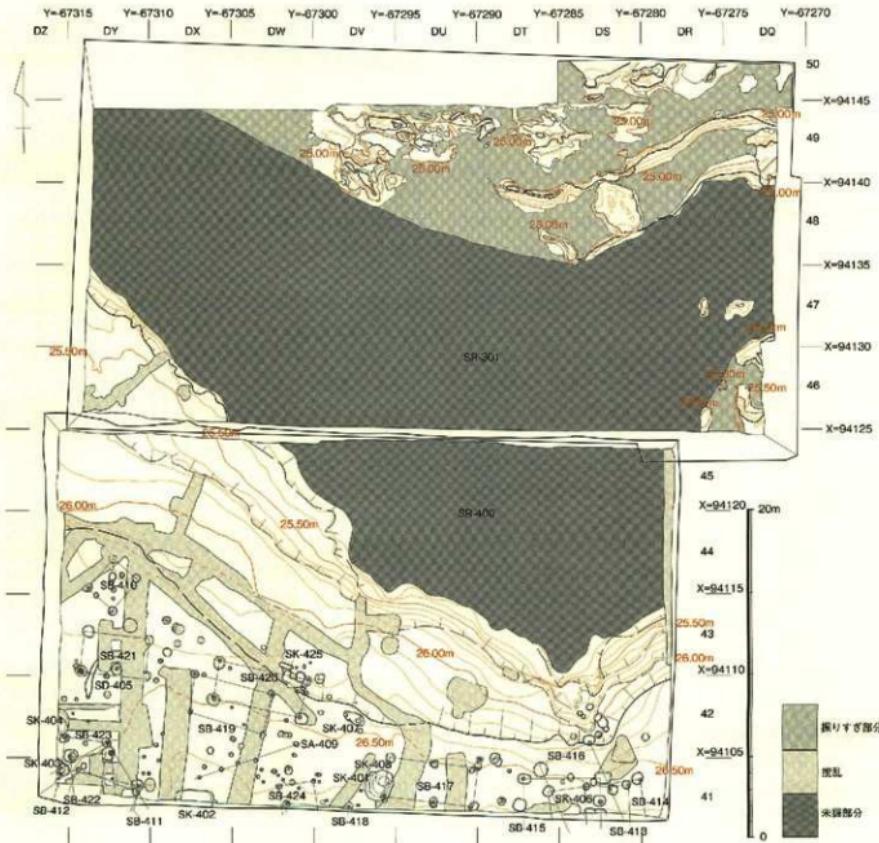


図62 文京遺跡25次調査・18次調査の自然流路と微高地上出土遺構配置図 (縮尺1/300)

(1) 遺構

出土遺構である自然流路SR-301は、掘り下げ範囲内で検出した岸斜面により、流路の方向と幅がおよそ復元可能である。南岸面は、調査区の東西でそれぞれ出土した。東側では調査区南東隅部でやや砂質の強いIV層が現れる。ちょうど隅部で標高約25.80mの最高所を測り、東壁でX=94135付近、南壁でY=-67275付近で、掘り下げ深度25.00mまで確認できた。南壁では同じ深さで一部IV層が現れており、付近では底面まであまり深さがないと予想される。西側でも、調査区南西隅部で、後述するSR-301-④層(e3層)の下で、城北団地基本層序V層の砂礫層が出土している。上面に擾乱がなお残るが、最高所は標高25.60m弱。南壁でY=-67305、西壁でX=64135の範囲である。一方、北岸面も調査区北部の標高25.30m以下で確認できる。断続的にIV層が検出されているのである。IV層自体砂質がやや強く、上部流路による凹凸が激しいとともに、IV層下の堆積も流路内堆積に近似する場合があり、掘りすぎた部分も少なくない。それでも、東壁でX=94140から、X=94135・Y=-67285、そして北壁でY=-67300を結んだ範囲において、北岸を断続的に追うことができる。

SR-301は、南側の18次調査A区出土のSR-400にある。18次調査SR-400は、南東から北西への流路の南岸を検出したが、25次調査SR-301と併せると、北東から南西方向に流入し、DS・DT区辺りで屈曲して南東から北西に転じることがよくわかる。この屈曲部の最南部は、X=94105辺りまで及んでいるが、流路のこの部分を利用して、下層水田造営時の基幹水路にあたるSD-301が、堰を設置して水溜状の機能を発揮したとみられる。なお、18次調査A区北東部でみられたSR-400-③層の砂礫層による中洲状の高まりは、25次調査ではSR-301-③層の上面にある。

以上から、25次調査SR-301(18次調査SR-400)は、流路の中心(最深部)を、25次調査東壁のX=94135付近から南壁のY=-67285、そこで屈曲して25次調査北西隅部に到ると復元でき、幅は40m以上に達することになる。

既に触れているが、SR-301の埋土は、①～④層に大別できる。すなわち、①層は調査段階にd層として遺物取り上げを行った土層で、下層水田の耕作土と一連のシルト。搅拌された痕跡がなく、流路がほぼ埋没した段階で窪地状の所に溜まっていた堆積で、最上部は

下層水田の床土部にあたる。北東部を除いた調査区全面に広がり、10～40cmの厚さを有し、流路の中央部ほど厚い。にぶい黄色から黄褐色シルトで、砂粒・砂礫の割合は少なく、径1～20mm前後の円礫を少量含む。ただし、東部では径1mm前後の砂粒層を疊状に含み、径5～20mm前後の砂礫を多く含む、より砂質の強い層となる。18次調査SR-400-①層にあたる。

SR-301-①層の下は、漏水性のない砂・砂礫・塊石層となり、調査時点ではe層として大別した。最上部には、塊石を含まず粒度の細かい砂・砂礫層があり、調査段階ではe1層とした、SR-301-②層である。18次調査SR-400-②層にあたる。SR-301-②層は、SR-301-①層同様、流路中央部で厚くなる傾向があり、とりわけ調査区西部で厚い。逆に、SR-301の岸面が出土するような高位では、SR-301-②層を欠き、SR-301-①層の直下でSR-301-③層となる地点もある。SR-301-③層が形成した中洲状の高まり間を埋める堆積である。SR-301-③層は、調査段階でe2層とした、砂・砂礫に人頭大前後の塊石を多く含む砂礫層である。18次調査SR-400-③層にあたる。遺物を大量に含み、100cmに達する層厚の地点もあり、流路中央部では、現地表下300cmの標高25.00m以下に、なお未掘部分を残している。SR-301-④層は、調査区南西隅部で出土した、城北団地基本層序V層からなるSR-301南岸面の上位に堆積する土層で、人頭大前後の塊石間に、再堆積した城北団地基本層序のⅢ・Ⅳ層のブロックが混在する。調査段階ではe3層としている。

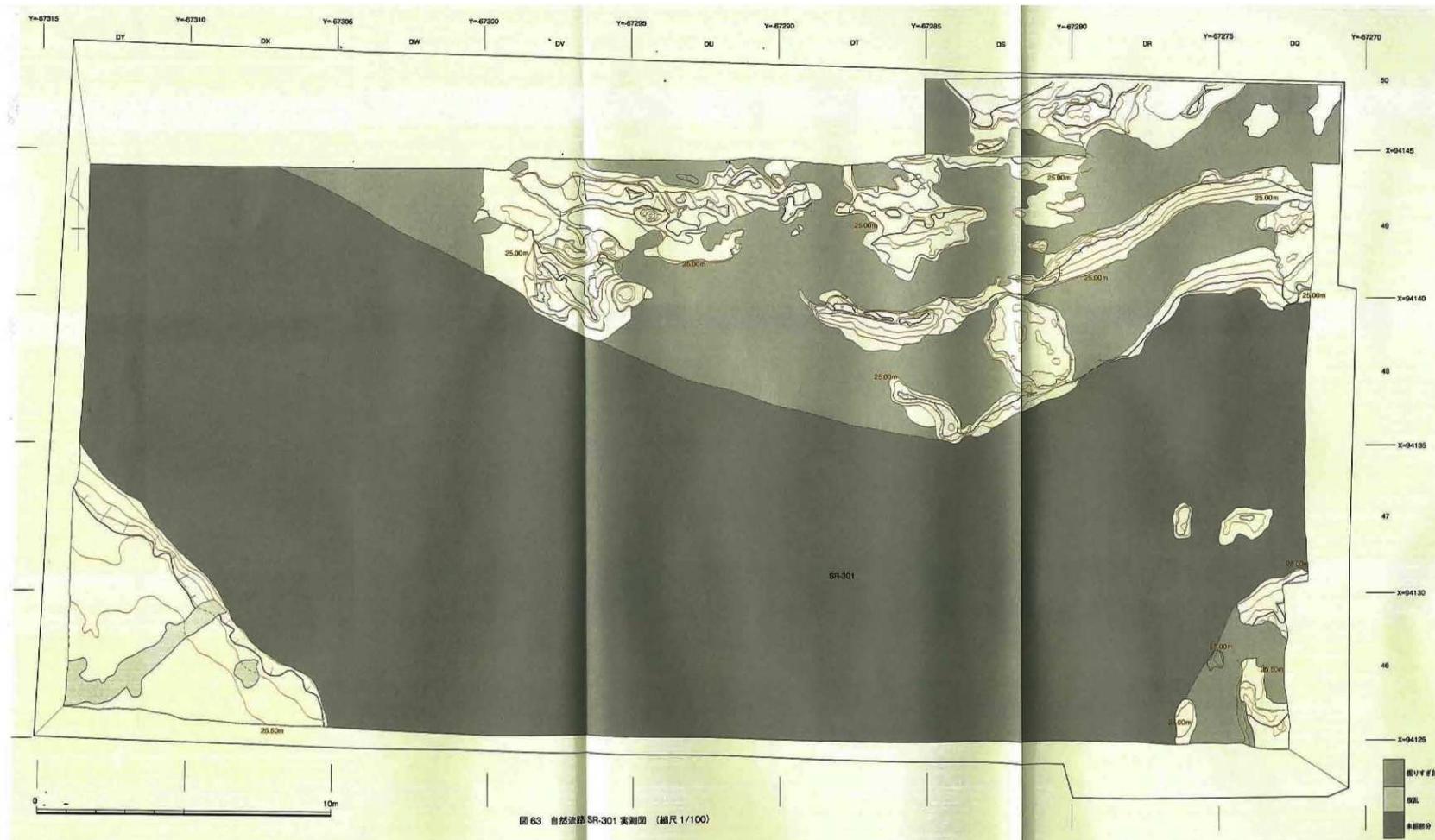
(2) 出土遺物

出土遺物は、上記した土層と、DX50等の5m四方を単位とした城北団地区割に基づき、取り上げを行った。25次調査出土遺物の8割以上がSR-301出土であり、しかもSR-301-③層出土遺物が、大半を占める。以下出土層毎に報告する。

① SR-301-①層(d層)の出土遺物

SR-301-①層(取り上げ時にはd層)出土遺物には、古代以降の土師器・供膳具(赤彩含む)、黒色土器、古墳時代から古代の須恵器、灰釉陶器、奈良二彩、瓦、古墳時代の土師器、弥生土器、石器を含む。黒色土器が一定量出土し、回転糸切り痕を残す底部が見られない点から、11世紀代までの堆積と考えられる。

それ以降の遺物も、d層取り上げ遺物の中には、数点が存在する。まず、DW49区とDX49区で各1点瓦



器の小片が出土しているが、ともに擾乱が下層水田面以下に及び、北側に土層観察用畦を控えることから、混入と判断した。また、須恵質陶器のすり鉢1点がDX50区畦から、近現代陶磁器の小片2点がDY47区畦とDY49区畦から各1点出土している。いずれも調査区端の畦部分から出土で、上層部分の掘り残しからの出土の可能性が高いと判断し、報告からは除いた。

結果、SR-301-①層出土遺物として、150点を提示する(図64~72、図版17、表10)。ただしその中に

は、本来SR301-②層に含まれていた可能性のある、DQ49・50区、DR49・50区のd層出土として取り上げた遺物(58・64・71・114・119・136)を含む。

[古代の土師器・黒色土器]

1~40は古代の土師器供膳具(図版17-1)。口縁部は少ない。1は壺口縁部。回転ナデ調整により、外面にいくつかの浅い段が残る。灰白色の胎土に橙色の塗彩を外面に施す。2は全形復元可能な壺。底面は回転ヘラ切りか。3はかすかに端部が外反し、端部内

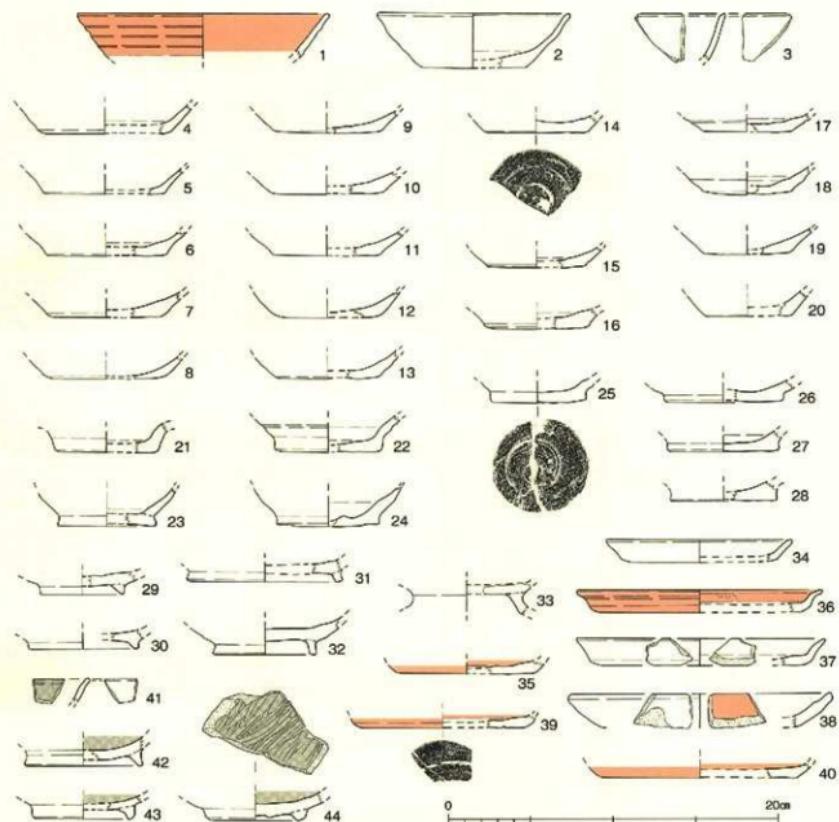


図64 SR-301-①層出土遺物(I) -古代土師器- (縮尺1/3)

面に段をもつ。塊口縁部とみられる。

4~28は坏底部。1~20は、基本的に平らな底部から内湾してそのまま体部に立ち上がる。また底部は回転ヘラ切り。8は外面側に浅黄橙色の胎土を用い、内面側に橙色の胎土を使い分けている。21~28の底部は円盤高台状。21・22は見込みが深い。また、25の底面には回転ヘラ切り痕が明瞭に残る。

29~32は貼付高台をもつ塊底部。高台は、29が断面三角形、30は端部がやや丸い三角形、31・32は台形で外端部が横ナデによりやや突出する。33は平らな底部

に、外に大きく開く高台がつき、足高高台の塊底部とみられる。

34~40は皿。34・35は底径9cm前後で、他は12cm前後。34は口縁端部がわずかに外反する。35は浅黄橙色の胎土に橙色の塗彩を施す。36は口縁部を一度外方に屈曲させた後、端部をわずかにこまみ上げる。内面下半はミガキ仕上げ。浅黄橙色の胎土に内外面橙色の塗彩を施す。37は底部から直線的に外反し、口縁部は尖り気味に收める。38は、にぶい橙色の胎土に橙色の塗彩を施す。39は浅黄橙色の胎土に橙色の塗彩を施す。

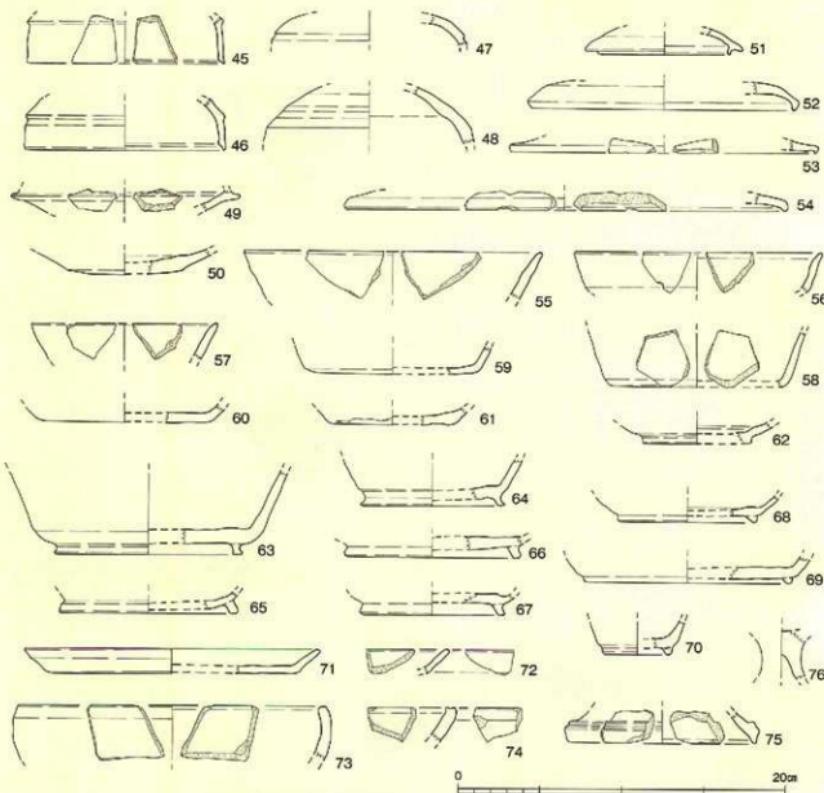


図65 SR-301-①層出土遺物(2) -須恵器①-

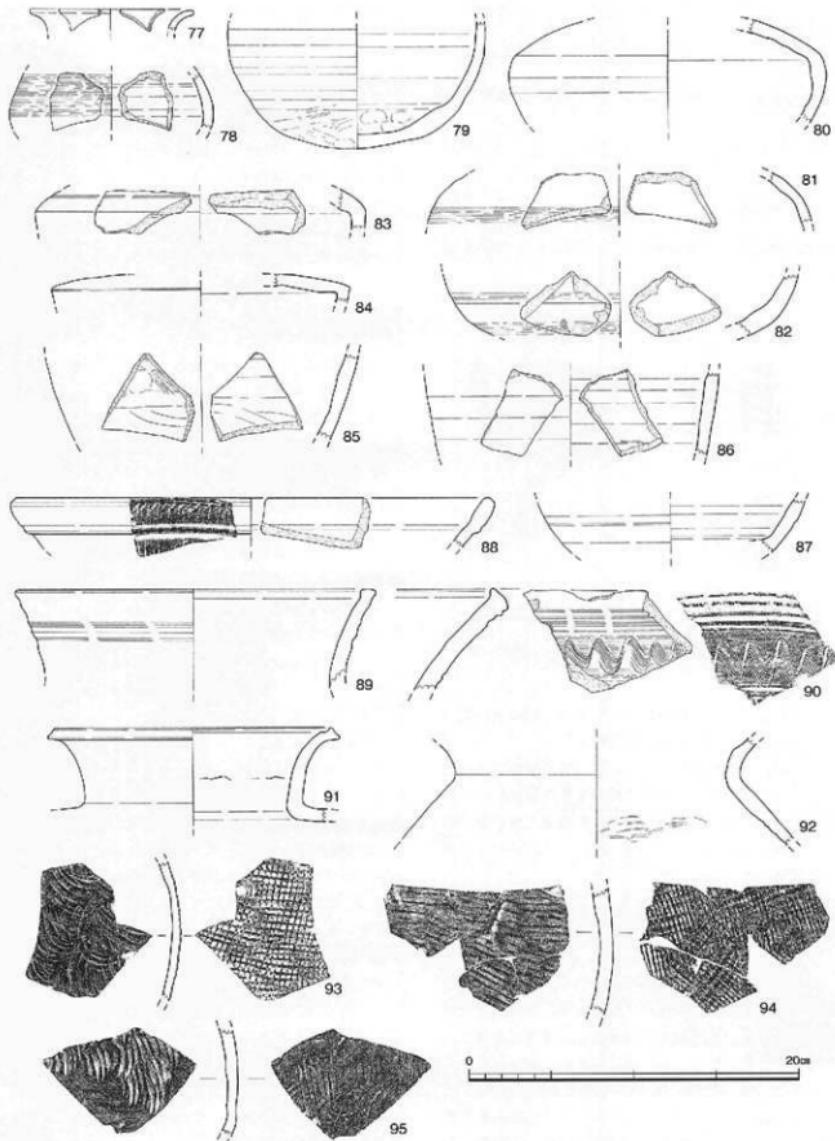


図66 SR-301-①層出土遺物(3) -須恵器②-



図67 SR-301-①層出土遺物(4)-灰釉陶器一-(縮尺1/3)



図68 SR-301-①層出土遺物(5)-奈良二彩-(縮尺1/3)

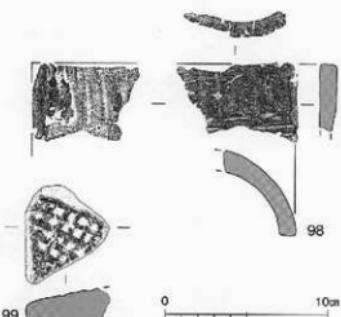


図69 SR-301-①層出土遺物(6)-瓦-(縮尺1/3)

底部に回転ヘラ切りの痕跡がよく残る。40は灰白色の胎土に、にぶい橙色の塗彩を施す。

41~44は内黒の黒色土器。41は口縁内端部に浅い凹線をもつ小片。42~44は貼付高台をもつ壇底。高台断面形状は、42・43が継長く丸みのある三角形で、44は丸みのある台形。44の内面には、一定方向のミガキが密に施されている(図版17-1)。

[須恵器]

45~95は須恵器(図版17-2)。古墳時代から古代に及ぶが、一括して解説する。

45~48は古墳時代後期の壺蓋。45・46は天井部と口縁部の境及び口縁端部内面に段をもつ。45は口縁部が直立し、46は口縁部がやや内傾する。47は天井部と口縁部の境に凹線がめぐる。48は天井部に丸みがあり、天井部と口縁部の境はあまり明瞭でない段がつく。49・50は古墳時代後期の壺身。49の受け部はあまり突出しない。50は底部が厚く、回転ヘラ切り未調整の底

部とみられる。

51~54は蓋。54は内面に口縁端部より突出するかえりをもち、他はいずれもかえりをもたず、端部を下方に屈曲させる。52は比較的深みがある体部で、54は径が大きく、口縁部と天井部の境が鋭くない。

55~70は壺。55~57は口縁部で、55・57は直線的な口縁部で、56は回転ナデによりわずかに外反する。58~60は貼付高台のない壺下半部で、底部から体部に急角度で立ち上がり、直線的にのびる。61は底部から体部が緩やかに外傾してのび、62は円盤高台状に一度立ち上がってから外方へ開く。63~70は貼付高台をもつ底部。63の高台は外にしっかり踏ん張った台形状の断面で、64は横ナデにより細く高い。65~67は丸みをもった台形状で、68~69は丸みのある三角形状。70はかなり小型。断面丸い方形状の貼付高台である。

71・72は皿。71は口縁端部が上方で面をなし、ナデによりわずかに凹む。

73~74は鉢の口縁部。73は口縁部が内湾する鉢鉢形。74は口縁上端部が面をなし、端部に凹みをもつ。

75~76は高壺。75は脚裾部で、端部は肥厚し、段を有する。外面カキ目調整。古墳時代後期。76は低脚の脚柱部。

77~87は壺類。77は壺の口縁部。直線的にのびる頭部から緩やかに外反し、口縁部は水平気味にのびる。78は孔は残存しないが、大きさと調整から頭の体部と判断した。やや下膨れの体部で、外面カキ目調整、内面回転ナデ調整。79は壺の底部で、底部は内面から押し出され、丸底を呈する。80は壺胴部で、肩部で強く屈曲し、体部は玉葱形を呈するとみられる。81・82は球形をなす体部で、前者が上胴部、後者が下胴部。両者とも部分的にカキ目を施す。83~87は古代の長頸壺。83・84は屈曲部で、84は肩部に1条の凹線をめぐらし、肩部がほぼ水平方向にのびる。85・86は直線的な体部下半で、87は底部付近。いずれも外側に回転ナデを施すが、85の外側には左上がりのハケ目が残る。

88~95は甕。88~91は口縁部。88は口縁端部付近の外側を幅広に肥厚させるもので、肥厚部分に列点文、それより下方に列線文を施す。89はあまり開かず、直線的にのびる口縁部で、口縁端部は面を上に向ける。外側に2条の沈線を施す。90は口縁端部を内面側につまみ出す。外側はカキ目調整の後、口縁端部直下に突起及び凹線、破片下端近くに凹線、その間に9本1単位のクシ書き波状文を施す。91は無文で、口縁端部を

外方へつまみ出し、内面に段を有する。92は肩部で、焼成不良のため赤焼け。内面に青海波文のあて具痕を残す。93~95は胴部片。いずれもタキ目が外面に、あて具痕が内面に残る。タキ目は、93は擬格子目状、94は格子目状、95は平行。内面のあて具痕は94のみ平行線状で、他は青海波文。

[灰釉陶器]

96は灰釉陶器の皿。口縁部は小さく外反し、端部を丸く收める。灰白色の胎土で焼成硬質。内外面に薄い緑色の釉がわずかに認められる(図版17-3)。9世紀後半。

[奈良二彩]

97は壺類の高台部。磨滅のため剥落が目立つが、外面、及び高台内面に緑色と白色の2種の釉が残り、奈良二彩とみられる。胎土は淡黄色で、石英・長石・チャートの砂粒をわずかに含む。焼成は軟質。8世紀後半(巻頭図版4-1)。

[瓦]

98~99は瓦。98は丸瓦で、凸面を横方向に板ナデし、凹面には細かな布目を残す。側端面は凸面側をわずかに面取りする。焼成は須恵質で灰白色。99は平瓦で、凸面にやや深めの格子状タキを残す。焼成は軟質で浅黄橙色を呈する。

[古墳時代の土師器]

100~108は古墳時代の土師器。100は高環脚部。脚部が脚から屈曲して大きく広がるとみられる。内面に

はシボリ痕が残る。101は壺肩部。頭部は直線的で、肩部はあまり張らないなで肩。102~104は壺の口縁部。105は瓶または壺の把手部と考えられる。106は瓶の底部片か。現存で3つの小円孔を三角形状に配置している。器台の可能性も考えられたが、円孔の位置が不規則で、破片の上下左右に湾曲が見られることから、瓶底部と判断した。107は外面縦ハケ目、内面は横ハケ目で、ハケ目は粗い。108は外面粗い縦ハケ目、内面ナデ。自重により端部はややつぶれ、内面調整がやや粗いことから底部とした。対して107は端部が丁寧に仕上げられ、やや凹む。口縁部側とみられる。このような特徴から、移動式窯の可能性が高い。ただし、被熱はあまりみられない(図版17-4)。

[弥生土器]

109~142は弥生土器。

109~122は壺で、109~112は口縁部。109は口唇部内側に連続した刻み目を施す。110はやや開きの狭い口縁部で、端部を丸く收める。111はやや拡張した口縁部の端面が横ナデによりやや凹む。伊予中部V-1様式か。112はやや拡張した端部に1条の凹線文を施す。113~117は頭部。113は内面に突帯をもち、114は頭部にヘラ描きの多条沈線を施す。ともに伊予中部I・4様式。115は頭部周辺に断面三角形状の突帯を、116は幅広の刻目突帯を貼り付ける。117は口頭部と肩部の境に上下2段に粘土帯を貼り付ける。まず上方に粘土帯を貼り付けた後、連続して刻み目を施す。その

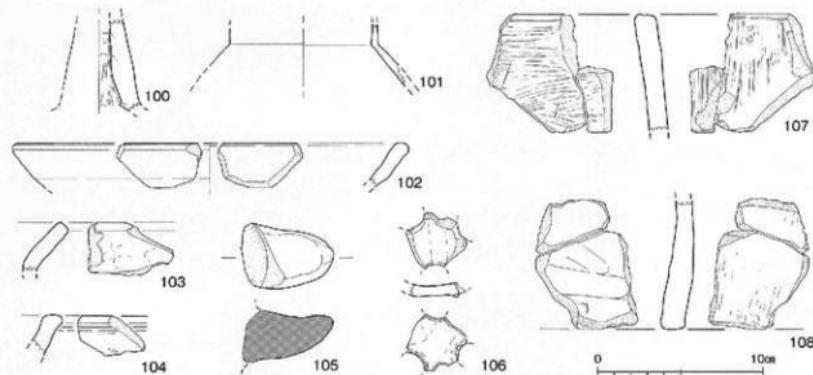


図70 SR-301-①層出土遺物(7) -古墳時代土師器- (縮尺1/3)

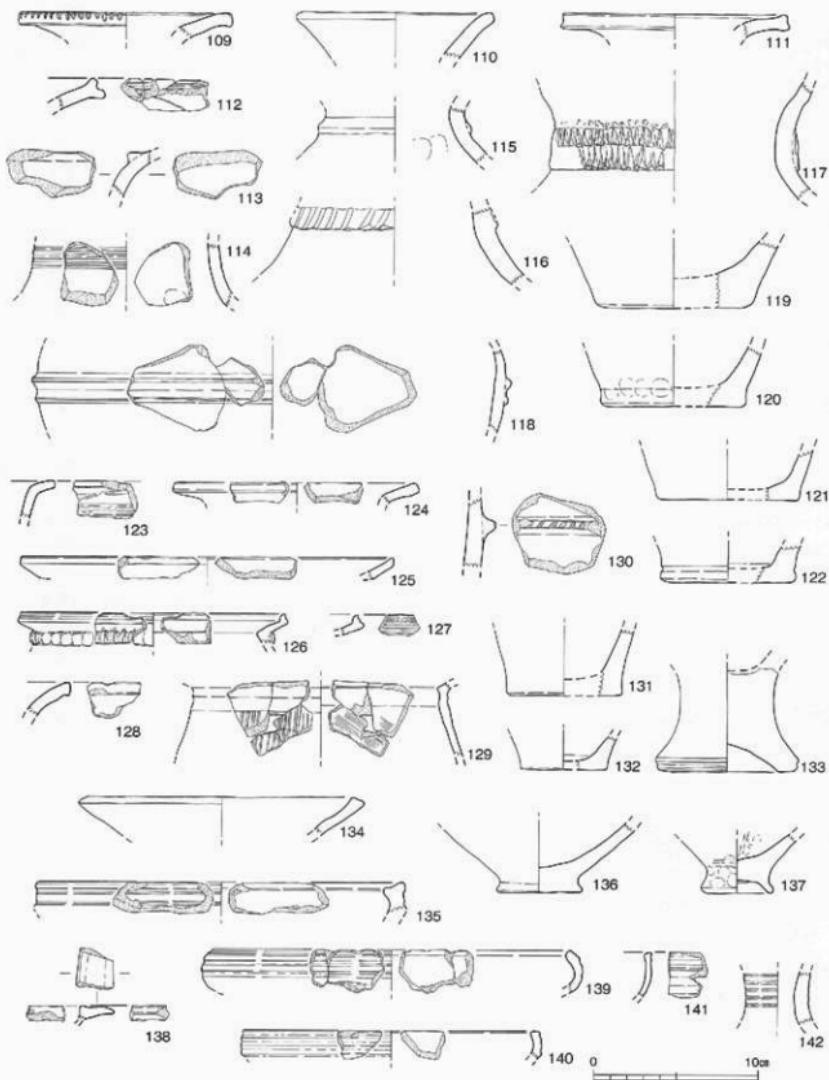


図71 SR-301-①層出土遺物(8) 一赤生土器一 (縮尺1/3)

後、上方の粘土帯に接するように下方の粘土帯を貼り付けて連続した刻み目を施し、下方の粘土帯の上部を軽く横ナデする。伊予中部IV様式。118は胴部最大径に断面三角形状の突帯を2条貼り付けM字状。119～122は底部。119はやや大型で厚い。他はや立ち上がりが急ながら、底部径から窓の底部と考えた。

123～133は窓。123～128は口縁部。123は折り曲げ口縁で、胴部外面に多条沈線を施す。伊予中部I-4様式。124は口縁端部が面をなす口縁部。伊予中部III様式。125はやや内済する口縁部。伊予中部IV様式か。126・127は口縁端部をつまみ上げ、拡張した端部に1～2条の凹線文を施す口縁部。126は頸部に押圧突帯を貼り付ける。伊予中部IV様式。128は外反する口縁部で、端面は横ナデにより面をなし、やや下方に巻き込み気

味。伊予中部V様式。129は肩部である。口縁部は「く」の字状と推定され、境には突帯を貼り付けない。伊予中部IV～V-1様式。130は口縁部直下と考えられる胴部片で、1条の刻目突帯を巡らす。伊予中部I-4～II様式。131～133は底部。131・132いずれも平底。133は中実の脚台部で上げ底。端部に凹線状の凹みが1条巡る。胎土も要素を多く含み、南九州地域山ノ口式土器の搬入品である（図版17-5）。中期後半。

134・135は鉢口縁部。135は口縁上端部が面をなし、外面が凹線状に凹む。台付きの可能性が高い。136・137は底部。ともに体部は大きく開き、前者は円盤高台状、後者は上げ底状を呈する。

138～142は高坏。138は端部を外方水平に拡張し、内端部はわずかに上方に突出する。伊予中部III様式。

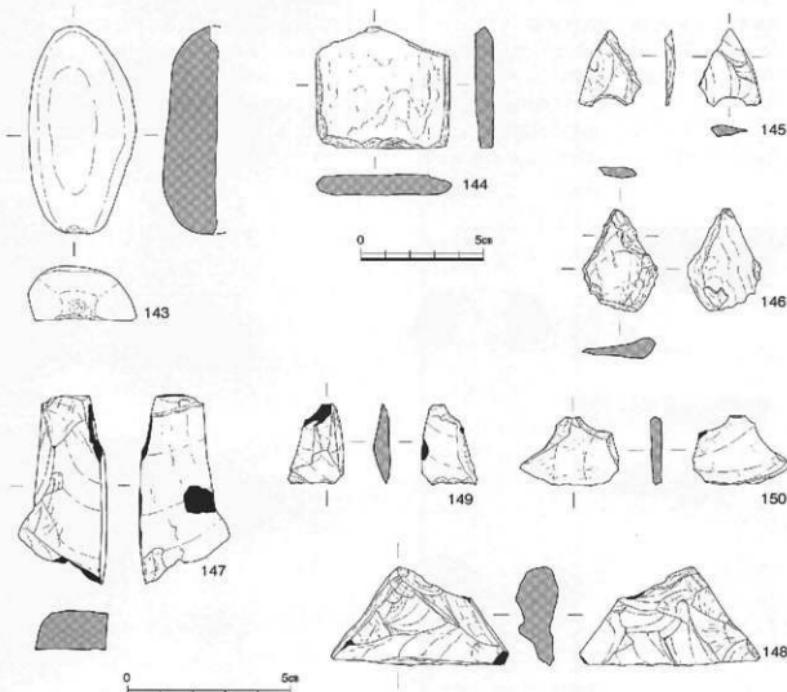


図72 SR-301-①層出土遺物(9) 一石器一 (縮尺1/2・2/3)

139~141は内湾から直立する端部に数条の凹線文を施す口縁部。141は器壁が薄く、凹線も浅い。142は脚柱部で、外面に数条の沈線文を施す。いずれも伊予中部IV様式。

[石器]

143~150は石器。143は敲石で、砂岩の円礫が素材である。縱方向に半切されているが、端部に敲き痕が残る。144は結晶片岩の未製品。扁平な方形に整形され、扁平片刃石斧未製品の可能性がある(図版17-6)。

145・146は石礫未製品。145はサスカイト製で、基部にわずかな調整剥離が認められるが、刃部加工はまだ施されていない。146は赤色頁岩製で、縱長剥離片を素材とし、刃部を含めて3方を調整剥離するが、基部加工はされてなく、厚みがある。磨滅が著しい(図版17-7)。147~148はサスカイトの石核(図版17-8・9)、149・150はサスカイトの剥片である。

② SR-301-②層(e1層)の出土遺物

SR-301-②層(取り上げ時にはe1層)出土遺物には、古代以降の土師器供膳具(赤彩含む)、黒色土器、古墳時代から古代の須恵器、瓦、古墳時代の土師器、弦生土器、繩文土器、土製品、石器、鉄器がある。

SR-301-①層に比べて、古墳時代以前の遺物が増

え、最新相の遺物としては、黒色土器が數点存在する程度となる。その黒色土器も、下層のSR-301-③層ではみられなくなり、SR-301-②層出土の黒色土器も、SR-301-①層の黒色土器に比べて、やや古相を示す。

この他、SR-301-②層出土遺物とした中に、時期の下がる遺物が若干ある。まず、DQ49区の調査区東壁から近現代陶器片が、DU50区の調査区北壁からは、龍泉窯系の可能性のある青磁片といぶし瓦が出土している。これらは、上部層の掘り残し出土の可能性が高い。一方で、調査区周囲の土層観察用畦以外からも、時期の下がる遺物が出土している。DR49区からの、口縁から下がった位置に断面三角形の突帯を貼り付ける土師質土器羽釜口縁部であり、DU49区の亀山焼体部片である。いずれも、圧倒的多数の黒色土器以前の出土遺物に対し、かなり時間差がある。これまで指摘してきた調査区周辺の土層観察用畦の掘り残しとは異なるが、練兵場時代の埴塼等の擾乱が一部なりとも及んでいる地点であり、これらも紹れ込みと判断した。

以上のようなSR-301-②層出土遺物から、140点を報告する(図73~82、図版18、表11)。

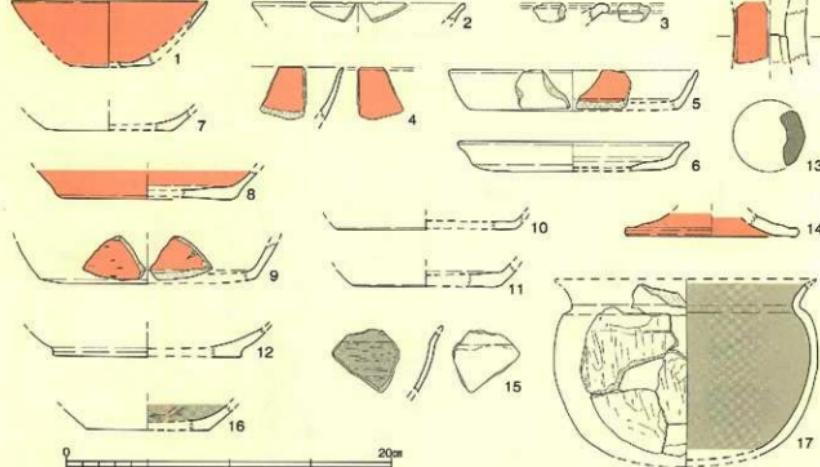


図73 SR-301-②層出土遺物(1) -古代土師器- (縮尺1/3)

表10 SR-301-①層出土遺物観察表

図面番号	実測	直上位置	遺物名	特徴	測定	部位	文様、調整、色調、出土などの特徴	反映 番号
1	RS0146	r5067	d 磁	DW46	土器部(赤茶)	环	上部内側面断面アーチ、外側朱褐色(赤茶)、裏面灰白色、微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
2	RS0152	r5069	d 磁	DW47	土器部	环	上部内側面丸み、赤テグスか。外光面へラフ切り跡なし。白色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
3	RS0009	r5003	d 磁	D246灰浮	土器部	环	全表面灰、赤テグスか。外光面へラフ切り跡なし。白色。微細な石英・長石をすこし含む。	17
4	RS0223	r5023	d 磁	DR46	上加部	环 or 瓶	外光面灰、赤テグスか。外光面へラフ切り跡なし。白色。微細な石英・長石をすこし含む。	17
5	RS0214	r5051	d 磁	DU49	上加部	环	外光面灰、赤テグスか。外光面へラフ切り跡なし。白色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
6	RS0342	r5050	d 磁	DS46	土器部	环	全表面灰、外側朱褐色、裏面灰白色、内側灰白色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
7	RS0005	r5032	d 磁	DT45F	土器部	环	外光面灰、赤テグスか。外光面へラフ切り跡なし。灰青・黄褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
8	RS0107	r5048	d 磁	DU48	土器部	环	外光面灰、赤テグスか。外光面灰、白・暗褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
9	RS0221	r5033	d 磁	DV46	土器部	环	全表面灰、外側朱褐色(赤茶)、内側灰白色。微細灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
10	RS0177	r5091	d 磁	DS26灰浮	土器部	环	全表面灰、外側灰・白・灰茶、内側灰白色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
11	RS0029	r5005	d 磁	DR17	土器部	环	全表面灰、外側朱褐色、内側灰白色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
12	RS0139	r5061	d 磁	DT45	上加部	环	外表面灰ナガ、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色、内側灰白色。微細な石英・灰青・灰白地。	17
13	RS0072	r5034	d 磁	DT46	上加部	环	全表面灰、赤テグスか。外光面灰、白・暗褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
14	RS0231	r5011	d 磁	DR46	土器部	环	外光面灰、赤テグスか。外光面灰、白・暗褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
15	RS0179	r5062	d 磁	DY47	上加部	环	外表面ナガ、内側灰白色。外側灰白地へラフ切り跡なし。外側灰青褐色、内側灰白色。微細な石英・長石をすこし含む。	17
16	RS0178	r5065	d 磁	DX50灰	土器部	环	全表面灰、外側灰白地へラフ切り跡なし。外側灰青褐色、内側灰白色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
17	RS0140	r5066	d 磁	DV49	土器部	环	外表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
18	RS0032	r5022	d 磁	DS47	土器部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
19	RS0134	r5003	d 磁	DV48	土器部	环	外表面灰ナガ、外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
20	RS0103	r5034	d 磁	DU47	上加部	环	外表面灰ナガ、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
21	RS0064	r5031	d 磁	DT45F	土器部	环	全表面灰、外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
22	RS0145	r5008	d 磁	DW45F	土器部	环	全表面灰、外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
23	RS0147	r5065	d 磁	DV46	土器部	环	外表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
24	RS0163	r5065	d 磁	DW49	土器部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
25	RS0118	r5054	d 磁	DV45	上加部	环	外表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
26	RS0181	r5007	d 磁	DY47	土器部	环	外表面ナガ、内側灰白色。外側灰白地へラフ切り跡なし。外側灰青褐色、内側灰白色。微細な石英・長石をすこし含む。	17
27	RS0168	r5085	d 磁	DX48	土器部	环	全表面灰、外側灰白地へラフ切り跡なし。外側灰青褐色、内側灰白色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
28	RS0047	r5021	d 磁	DS46	土器部	环	全表面灰、外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
29	RS0067	r5066	d 磁	DY49F	土器部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
30	RS0078	r5038	d 磁	DU48	上加部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
31	RS0022	r5012	d 磁	DW46	土器部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
32	RS0173	r5087	d 磁	DX49	土器部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
33	RS0021	r5058	d 磁	DV47	土器部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
34	RS0044	r5041	d 磁	DS47	土器部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
35	RS0122	r5055	d 磁	DV46	土器部(赤茶)	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
36	RS0075	r5038	d 磁	DT47	土器部(赤茶)	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
37	RS0048	r5021	d 磁	DS46	土器部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
38	RS0066	r5021	d 磁	DS47	土器部(赤茶)	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
39	RS0068	r5033	d 磁	DT46	上加部(赤茶)	环	外表面灰、内側灰白色。外側灰白地へラフ切り跡なし。外側灰青褐色、内側灰白色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
40	RS0026	r5026	d 磁	DI47	土器部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
41	RS0132	r5059	d 磁	DW48	土器部(赤茶)	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
42	RS0159	r5071	d 磁	DW48	黑鳥土器部(内)	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
43	RS2167	r5083	d 磁	DX47	黑鳥土器部(内)	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
44	RS0186	r5033	d 磁	DY49	黑鳥土器部(内)	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
45	RS0102	r5048	d 磁	DU48	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
46	RS0128	r5068	d 磁	DU47	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
47	RS0213	r5048	d 磁	DU48	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
48	RS0300	r5015	d 磁	DR48	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
49	RS0329	r5039	d 磁	DR45	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
50	RS0115	r5052	d 磁	DU50F	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
51	RS0136	r5031	d 磁	DV49	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
52	RS0097	r5038	d 磁	DT48	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
53	RS0055	r5024	d 磁	DS47	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
54	RS0082	r5009	d 磁	DT48	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
55	RS0113	r5001	d 磁	DU48	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
56	RS0254	r5034	d 磁	DS47	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17
57	RS1160	r5062	d 磁	DW48	黑鳥部	环	全表面灰、内側灰白色。外側灰白地・黒帯アーチ、外光面灰褐色。微細な石英・長石、赤色粒ごくわずかに含む。	17

遺物番号	出土位置	遺物名	性質	表面内容	文様・調整・色調・動物などの特徴	枚数 番号
110 R50389 r5045	d層	DU46	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。内部に赤い褐色、表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を多く、鐵錆色を含む。	20
111 R50319 r5022	d層	DS46	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。外側に赤い褐色、内側に赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
112 R50333 r5002	d層	DQ46	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。外側に赤い褐色、表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
113 R50333 r5003	d層	DV46	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。内側部に細かな砂粒分布。外側に赤い褐色、内側に赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
114 R50332 r5017	d層	DR49	麻生土器	壺	口縁部 表面外側に多量の砂粒。内外面黒褐色。内側部に赤い褐色。表面灰黒褐色（黒化層）。石英、長石の砂粒を含む。	20
115 R50060 r5048	d層	DU48	麻生土器	壺	口縁部 表面外側に多量の砂粒。外表面は粗粒イサメ。外側面および黒変部は擦痕層。内側面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
116 R50060 r5027	d層	DS48	麻生土器	壺	口縁部 底部は鉢形。底部は鉢形。内外面黒褐色。表面は灰褐色。石英、長石の砂粒を含む。表面は赤色を含む。	20
117 R50092 r5046	c層	DU47	麻生土器	壺	口縁部 底部は鉢形。内外面黒褐色。内側部は細かな砂粒を含む。外外面黒褐色。内側面に赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
118 R50031 r5001	d層	DQ45	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
119 R50017 r5006	d層	DQ50	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
120 R50111 r5051	d層	DU49	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
121 R50371 r5031	d層	DT46	麻生土器	壺	内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
122 R50164 r5083	d層	DX47	強化土器	壺	内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
123 R50165 r5083	d層	DX47	強化土器	壺	口縁部 外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
124 R50117 r5053	d層	DV45#	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
125 R50161 r5033	d層	DY45#	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
126 R50018 r5010	d層	DR45	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
127 R50124 r5006	d層	DV46	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
128 R50115 r5001	d層	DW48	麻生土器	壺	口縁部 外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
129 R50182 r5003	d層	DY45#	麻生土器	壺	内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
130 R50096 r5046	d層	DU47	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
131 R50126 r5057	d層	DV47	麻生土器	壺	内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
132 R50061 r5030	d層	DS50	麻生土器	壺	内外面黒褐色。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
133 R50183 r5005	d層	DY49#	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
134 R50015 r5005	d層	DQ48	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
135 R50034 r5002	d層	DQ45	麻生土器	壺	口縁部 内外面黒褐色。外表面は粗粒の目立つ砂粒。内側面は赤い褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
136 R50033 r5057	d層	DR49	強生土器	壺	内外面黒褐色。内側面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
137 R50163 r5081	d層	DX46	強生土器	壺	内外面黒褐色。内側面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
138 R50008 r5010	d層	DS46#	強生土器	高杯	口縁部 内外面黒褐色。外表面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
139 R50006 r5002	d層	DK46	強生土器	高杯	口縁部 内外面黒褐色。外表面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
140 R50196 r5057	d層	DU47	強生土器	高杯	口縁部 内外面黒褐色。外表面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
141 R50156 r5051	d層	DW48	強生土器	高杯	口縁部 内外面黒褐色。外表面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
142 R50119 r5050	d層	DR45	強生土器	高杯	内外面黒褐色。外表面は赤い褐色。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
143 R50171 r5065	d層	DX48	石器	砾石	内外面黒褐色。内側面は赤い褐色。表面灰黒褐色（黒化層）。石英、長石の砂粒を含む。	20
144 R50044 r5030	d層	DS46	石器	石材	結晶片岩。表面灰黒褐色。3片を直角的に加工している可能性あり。全曲輪底。	20
145 R50162 r5080	d層	DX46	石器	石器	石器表面は粗粒の目立つ砂粒。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
146 R50174 r5087	d層	DX49	石器	石器	表面灰黒褐色。表面は粗粒の目立つ砂粒。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
147 R50170 r5095	d層	DX48	石器	石器	表面灰黒褐色。表面は粗粒の目立つ砂粒。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
148 R50154 r5009	d層	DW47	石器	石器	表面灰黒褐色。表面は粗粒の目立つ砂粒。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
149 R50144 r5064	d層	DW45#	石器	石器	表面灰黒褐色。表面は粗粒の目立つ砂粒。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20
150 R50109 r5048	d層	DU48	石器	石器	表面灰黒褐色。表面は粗粒の目立つ砂粒。表面灰黒褐色。石英、長石の砂粒を含む。	20

[古代の土器・黒色土器]

1~14は古代の土器部品で、赤彩が多い。1は小型ながら深みのある壺。灰白色の胎土に明赤褐色の赤彩を行く。2・3は壺口縁部。3は小片ながら特徴的につまみ出した壺部である。4は罐反りの壺口縁部。やや黄色みを帯びた胎土に内外面に明赤褐色の赤彩を行う。5は浅い壺。胎土自体も赤みがあり、明赤褐色の赤彩が内面に残る。6は皿で、口縁端部が外反する。底部はヘラ切り未調整。7~13は底部。7・9・

10・11は平底から直線的に立ち上がり、8・12は一度立ち上がってから外に開く。8は底部回転ヘラ切りで、灰白色の胎土に橙色の赤彩を行う。9は全体外面をケズリ後ナデ調整。やや黄色みを帯びた灰白色の胎土に明赤褐色の赤彩を行う。12の底部はヘラ切り未調整か。

13は面取りにより多角形状を呈する高壺脚部。灰白色の胎土に赤褐色の赤彩を行う。14は小型の高壺等の脚端部か。橙色の胎土に明赤褐色の赤彩を行う。

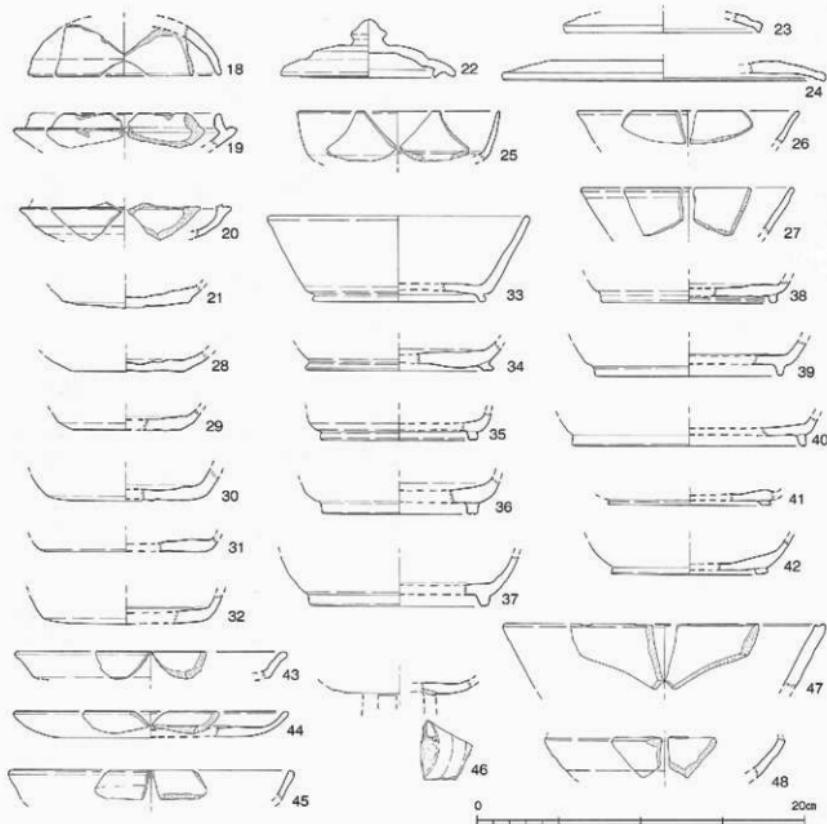


図74 SR-301・②層出土遺物(2) 一須恵器①一 (縮尺1/3)

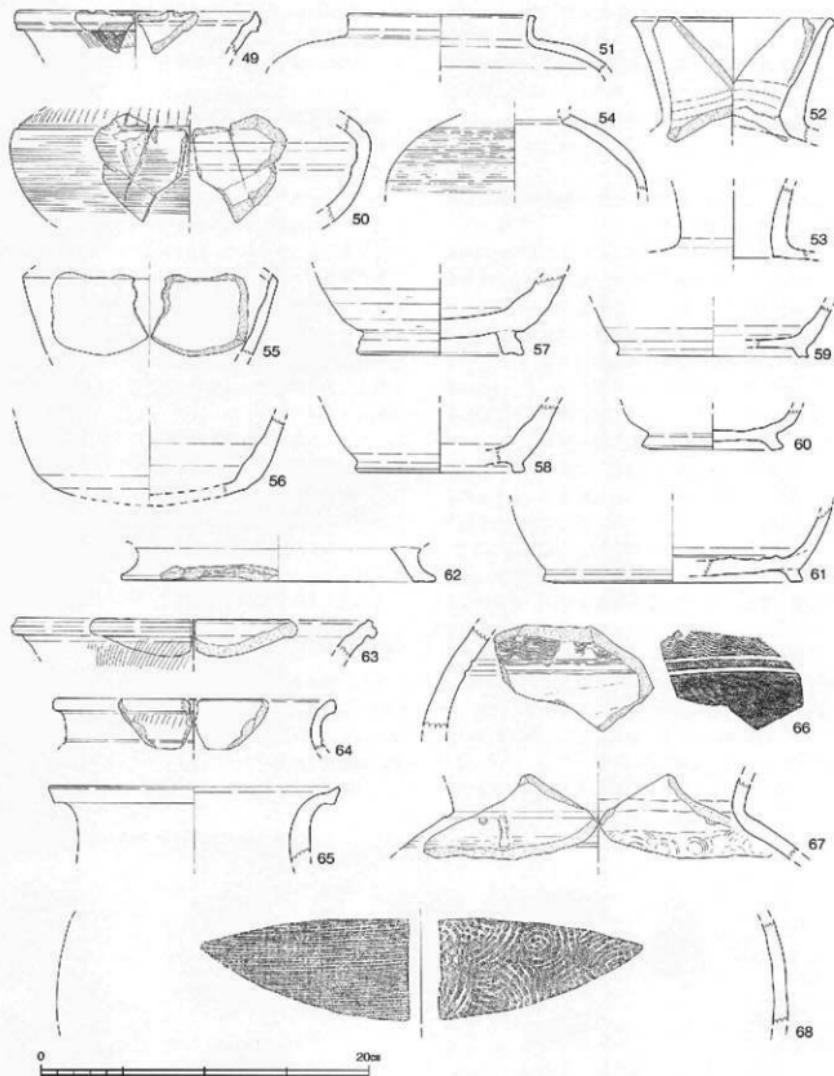


図75 SR-301-②層出土遺物(3) -須恵器②-

15~17は内黒の黒色土器。15は端部が端反りする塊口縁部。内面は横方向のミガキ仕上げをし、外面は口縁部が帯状に黒変する。16は平底ながら、内面黒色で丁寧にミガキを行っており、黒色土器とした。17は小型の甕。内面黒色処理がなされ、外面は体部にケズリを施し、頭部は横ナデ仕上げする（図版18-1）。

【須恵器】

18~68は須恵器（図版18-2）。古墳時代から古代まで、一括して報告する。

18は小型ながらやや天井の高い坏蓋。6世紀中頃から後半。19~21は坏身。19はやや厚い立ち上がりをもち、6世紀後半。20は立ち上がりを欠くが、回転ヘラケズリの範囲がやや広く、6世紀中頃まで遡る可能性が高い。21は回転ヘラ切り未調整の底部。

22~24は甕。22は小型で、内面にかえり、頭部に高い擬宝珠つまみをもつ。23・24は口縁端部を下方に肥厚させるのみで、前者が小型、後者は大型。

25~42は坏。25~27は口縁部。25はわずかに内済気味に直線的に立ち上がり、26は回転ナデにより端部の外反が明瞭。27はわずかに外反。28~32は高台をもたない底部で、回転ヘラ切り未調整か。31は外面黒色で、胎土は土師器に近い。32も軟質の焼き上がり。33~42は高台をもつ坏。33は全形が復元でき、直線的な深みのある坏。他は底部。33~35は高台断面が台形状で外に踏ん張る。36は方形で、接合部が凹線状に凹む。37~40は台形から長方形状に高くなるが、端部が丸い高台。41は低いながら外に踏ん張る高台で、焼きは良くない。42も薄い台形状で端部が丸い。外面黒色に炭素が吸着し、胎土は灰白色の瓦質。

43~45は皿。43は口縁部が外反する。44は体部が内

済し、外面黒色に炭素が吸着し、胎土は灰白色の瓦質。瓦器に近似する。底部外面はケズリ調整か。45はわずかに内済し、端部が丸く肥厚する。口縁部外面は帯状に黒変する。

46は高坏坏部。長方形透の上端が一部残る。

47は直口の鉢。端部は凹線状に凹む。48は体部の屈曲部に浅い沈線をもつ。

49~62は壺類。49・50は甕。49は頭部にクシ描き波状文をもつ口縁部。50は体部中位にカキ目、肩部にクシ彫刻突文をもつ体部片。51は短頭壺口縁部で、肩部に蓋の重ね焼き痕がある。52は口縁部と頭部の調整が斜交し、大型の平瓶口縁部とみられる。53も壺口頭部。肩部は水平に近い。54は壺肩部で、外面カキ目調整、内面の頭部との接合部に段を残す。55はそろばん玉状に張る長頭壺体部。56は体部下半片で、丸底底部には回転ヘラケズリがみられる。57~61は高台を有する底部。62はより高さのある脚台部。

63~68は甕。63・64は外反する頭部に、やや肥厚する口縁部をもつもので、頭部に連続する刺突文状の凹凸がある。65は頭部がまっすぐ立ち上がり、口縁端部を上方につまみ上げる。66は大型の壺頭部で、クシ描き波状文をもつ。67は壺胸部で、外面にカキ目、内面に青海波文がみえる。68は体部片。やはり外面にカキ目、内面に青海波文である。

【瓦】

古代に廻る瓦として、4点を図化した。69は軒平瓦の瓦当接合部。凸面側に接合用の粘土を貼り足し、凹面には粗い布目が残る。内外面に炭素を吸着させ、胎土は瓦質で精良。70・71はともに隅部を残す平瓦で、凸面繩タキ・凹面布目が見られる。72は凸面に

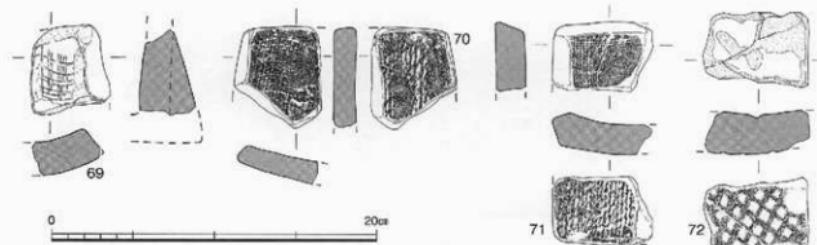


図 76 SR-301-②層出土遺物(4) 一瓦一 (縮尺 1/3)

深い格子目タタキをもつ平瓦。

[古墳時代の土師器]

73は長く延びる壺口縁部。雲母をやや多く含み、嵌入品とみられる。74・75は、ともに小型丸底壺の頸部から体部上半。前者はやや縱長、後者は横長。76は小型鉢の口縁部。

77は大型壺の口縁部で、端部を強く横ナデし、内面側が段をなす。78は小型の布留系壺。口縁部は若干内湾し、端部を外側に軽くつまみ出す。79は小型壺。口縁部は内外面とも横ナデで内湾し、体部は粗いハケ目調整。80は長胴の壺。体部外面は粗いハケ目調整し、内面上半にオサエ痕をよく残す。口縁部は2段に横ナデし、内湾する。煮炊具として古墳時代に一括したが、古代に降るものである（図版18-3）。81は把手剥落部で、瓶片か。

82・83は坏高。いずれも坏底部に接合していた脚が剥落している。82は脚部上端が中実で、83は管状。

[弥生土器]

84-131は弥生土器で、84-102が壺類。

84は外反する口縁部に1条のヘラ描き沈線と刻み目を施す。85はやや直立気味に外反する口縁部で、端部に斜格子文。86は外反する口縁端部に、2条1単位の山形文を有する。87は口縁部内面に1条の貼付突帯、頸部に2条以上のヘラ描き沈線をもつ。88は幅広の削出突帯上にヘラ描き沈線2条以上と刻みをもつ。89は1条のヘラ描き沈線が認められる上胴部片。90は円管刺突文をもつ体部片。91は幅広の突帯を貼り付け、それを3条突帯状に強く横ナデする頭部。以上が前期から中期中葉の範疇に収まる。

92-95は端部に凹線文をもつ口縁部で、中期後葉。92は内傾する頸部から短く外反する口縁部に4条の凹線文をもち、頸部縦ミガキの後、「ノ」字刺突文を施す。93も同様の形態の口縁部で、3条の凹線文をもつ。94は大型。口縁部だけでなく頸部にも凹線文をも

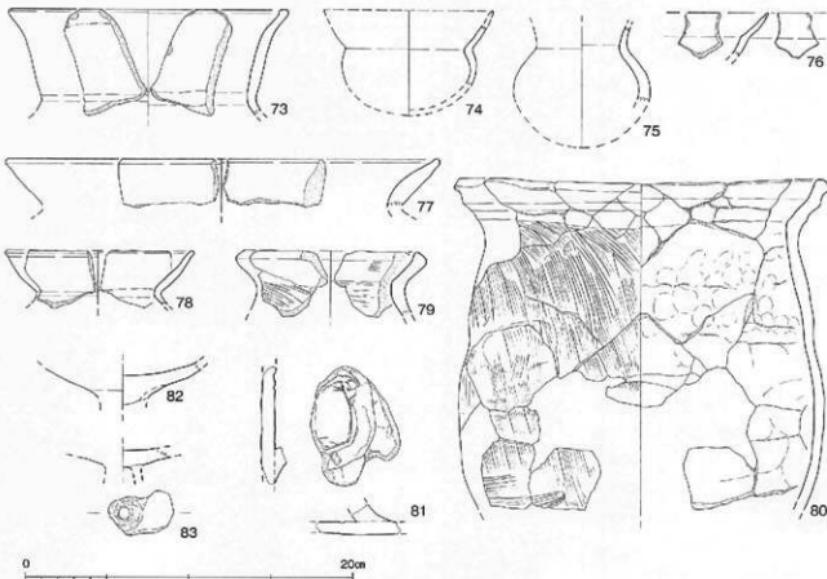


図77 SR-301-②層出土遺物(5) -古墳時代土師器- (縮尺1/3)

ち、内面にケズリが認められる（図版18-4）。やや大型の95は、4条の凹線文をもつ。

96は短く外反する口縁部で、端部に幅広の凹線をもつ。雲母を多く含み、攝入品の可能性が高い。97は内外面縦ハケ目調整を主とする体部上半。内面最大径部は横方向のケズリ痕が残る。

98~102は底部。98は3cm程の厚い底部。100には縦方向のミガキが外面に、内面にはケズリの痕跡があ

る。101は底部付近外面に横方向のミガキが残る。102は小さく厚い。

103~119は甕。103は如意形口縁で5条以上のヘラ描き沈線をもつ。前期末葉。104~106は「く」の字状口縁。104は内面に明確な後があり、屈曲は直角に近い。口縁端部はやや丸く収める。105は屈曲が2段状で体部が張る。口縁端部は面をなす。106は体部があまり張らず、口縁部もやや立ち気味。胴下半内面に横方向

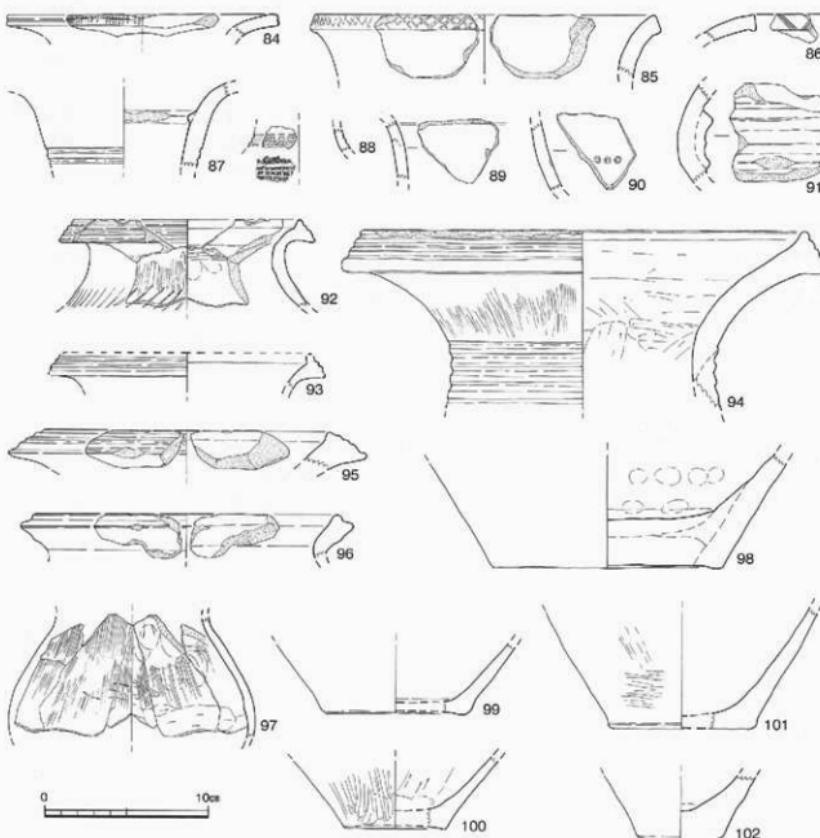


図78 SR-301-2層出土遺物(6) - 甕生土器①- (縮尺1/3)

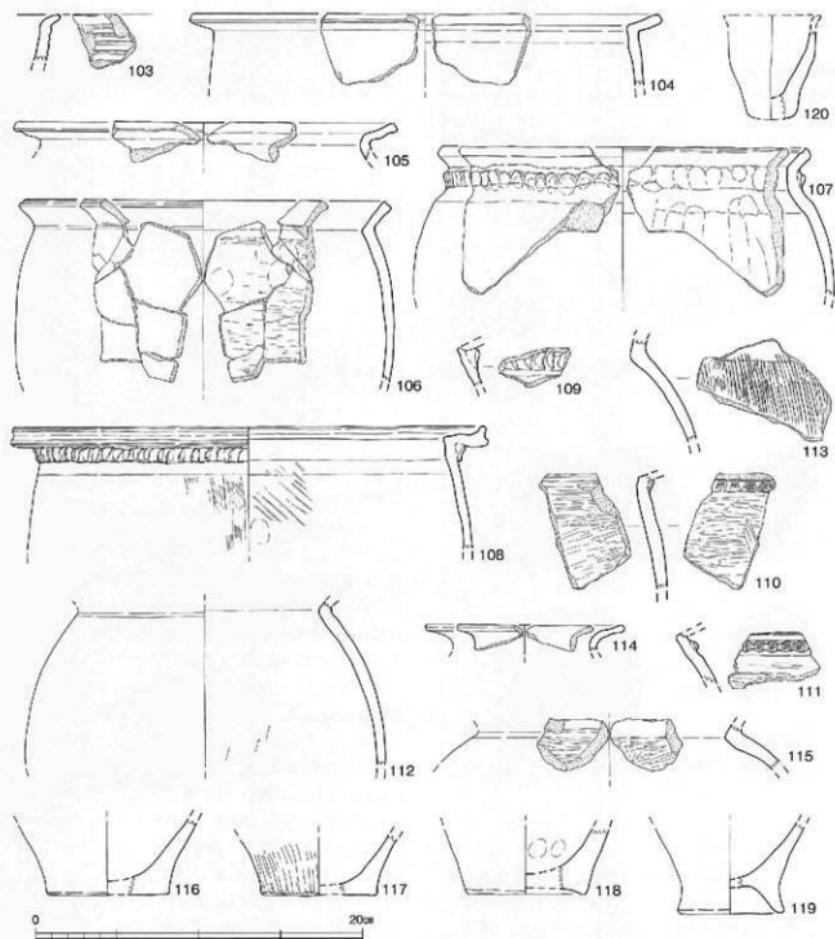


図79 SR-301-②層出土遺物(7) 一弥生土器②- (縮尺1/3)

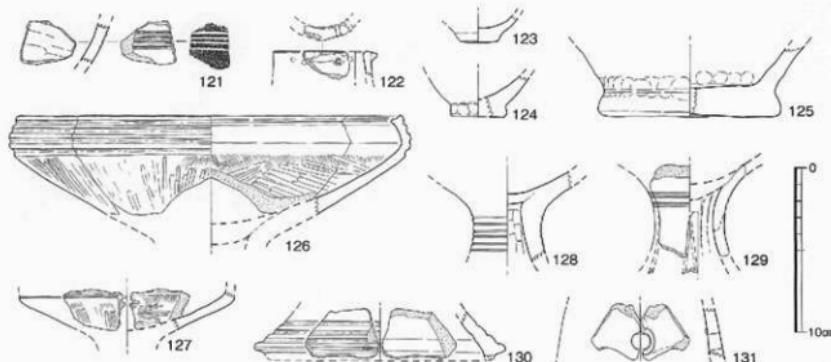


図80 SR-301-②層出土遺物(8) 一弥生土器③一 (縮尺1/3)

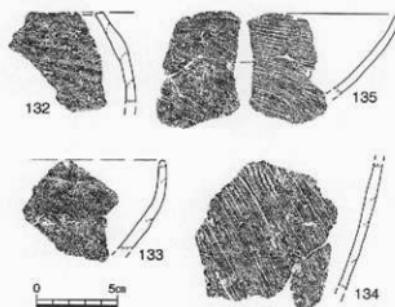


図81 SR-301-②層出土遺物(9)一縄文土器一 (縮尺1/3)

のケズリがなされている。

107～111は頭部の屈曲部に押圧突帯を貼り付ける。107はやや幅広の突帯で、これに対応して頭部内面も面をなす。口縁部は短く、体部はやや張る。108は、あまり張らない体部からほぼ直角に屈曲して水平方向に口縁部がのびる。端部を上方に拡張し、やや幅の広い凹線1条を施す。頭部の突帯は、板状工具により連續押圧が施されている。109は同様の突帯部。110・111は布目押圧貼付突帯である。110は外面横方向のミガキ仕上げ、内面は縦方向のケズリ後、横方向のミガキ仕上げ。

112・113は張りのある体部上半で、頭部に突帯はない。112下部にはケズリ、113は外面に粗い縦ハケ目調整が残る。

114は曲線的に外反する口縁部で、径はやや小さい。

115は丸く張る肩部で、外面は横方向のミガキ仕上げ、内面はケズリ後横方向のミガキ仕上げである。

116～119は底部。116～118は平底で、117の外面には幅広の縦ミガキがみられる。119は高台状の上げ底。

120は如意形口縁壺のミニチュアか。

121～125は鉢。121は体部に4条のヘラ描き沈線をもつ。前期末葉。122は直口の口縁部に耳状の突起を貼り足し、その下部に小孔を穿つ。123は凸状の底部で小型。124は高台状に突出する底部で、やはり小型。125は厚く外に張り出した底部。

126～131は高环。126は口縁部に4条の凹線文をもつ坏部。外面ハケ目後、4方向の弧線状の横ミガキ(図版18-5)。127は小型の坏部で、外面立ち上がり部に凹線の一端が残る。内外面ミガキ仕上げ。128は脚部から坏下部。坏底部は円盤充填により、脚上部に6条のヘラ描き沈線がみられる。129は脚部で、上部に4条のヘラ描き沈線、下部に矢羽根状透の一端が残る。130は脚裾部。外面に3条、端部に1条の凹線文をもつ。131は小円孔を有する小片。高坏あるいは器台の脚部の可能性が高い。

[縄文土器]

132～135は縄文土器（図版18-6）。132は内傾する深鉢口縁部、内外面は条痕調整後ナデ。133は深鉢体部の屈曲部、内外面ナデ仕上げ。134は深鉢下部で、外側に粗い条痕を残し、破片上端部に縄文が認められる。135は椀状の浅鉢口縁部、細く鋭い口縁端部は横ナデし、内外面細かい条痕調整後、外面ナデ。

[土製品]

土製品として2点を示す。いずれも管状土錘。136はほぼ完形。長さ約5.5cm、最大幅1.6cmと、身の中位が太い。孔径は約0.5cm。137は半身で両端も欠く。復元孔径から、136より若干大型（図版18-7）。

[石器]

138は砂岩製砥石。断面五角形状を呈する（図版18-8）。139はサヌカイト調片である。

[鐵器]

140は断面方柱状の鉄器で、釘とみられる。

③ SR-301-③層（e2層）の出土遺物

SR-301-③層（取り上げ時にはe2層）出土遺物は、本調査出土遺物の過半数を占め、出土時にはコンテナ30箱余を数えた。しかも、破片の大きなものを多く含む。内容的には、古代以降の土師器供膳具（赤彩含む）、煮炊具、古墳時代から古代の須恵器、瓦、古墳時代の土師器、弥生土器、縄文土器、土製品、石器、鉄器がある。特に弥生・古代の土器が多く、黒色土器が含まれないことから、古代後半までは降らない。

SR-301-③層出土遺物から、810点を以下に提示する（図83～126、図版19-1～24）。

[古代の土師器]

土師器のうち、供膳具を中心とした古代と考えられる土師器を提示する。点数は75点。このうち、供膳具が1-65の65点で、残り10点は土師器煮炊具でも古墳時代に適らないと判断したものである。なお、供膳具には赤彩を施したものが少なくなく、これらは一括して図示した（図83～85、図版19-1～3）。

1-37は、古代土師器の供膳具でも、赤彩の確認で

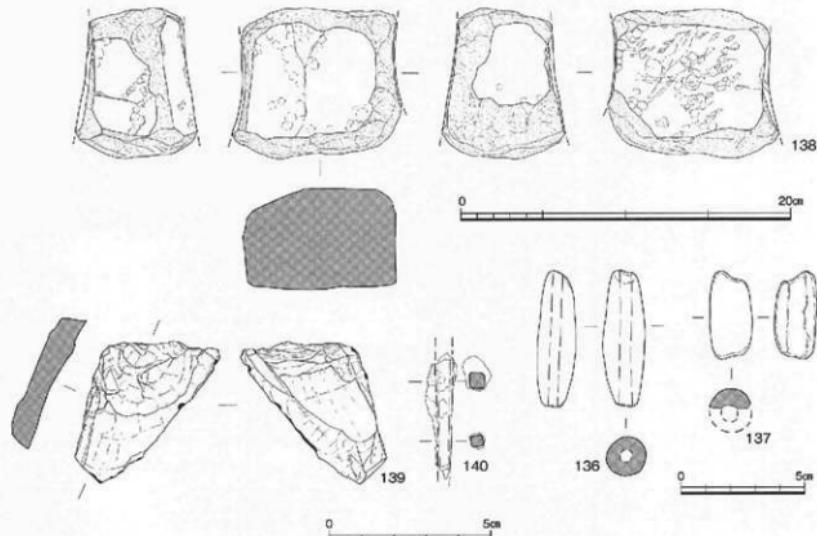


図82 SR-301-③層出土遺物10 一土製品・石器・鐵器一 (縮尺1/3・1/2・2/3)

表11 SR-301-②層出土遺物観察表

測定番号	実測	取上	層位	測量・地区	種別	個性	形状	遺物内容		文様・調葉・色調・騎士などの特徴	取扱 登録
								出土位置	遺物内容		
1	R61123	#053	e1層	DW49	土師器(卓形)	杯	全形	内側面刷毛ナメ。底底ナメ。赤褐色赤褐色。灰白色の粉子に1mm以下の石英・長石・黄鉄少含む。		21	
2	R61128	#054	e1層	DX49	土師器	杯	口縁部	内側面刷毛。石英・長石・赤色の繊維少含む。		21	
3	R61141	#055	e1層	DX50#	土師器	杯	口縁部	内側面刷毛ナメ。内側面刷毛。赤色の繊維少含む。		21	
4	R61114	#055	e1層	DX49	土師器(卓形)	碗	口縁部	内側面刷毛ナメ。赤褐色明るい色。透青釉色の地上に繊維少含む。		21	
5	R61027	#055	e1層	DQ49	土師器(卓形)	瓶	底部	内側面刷毛ナメ。瓶面滑らか。赤褐色明るい色。石英・長石・滑面の繊維少含む。		21	
6	R61159	#057	e1層	DY49	土師器	瓶	全形	赤褐色。内側面刷毛ナメ。底部朱紫色。内側面刷毛ナメ。		21	
7	R61134	#059	e1層	DX47	土師器	瓶	底部	内側面刷毛ナメ。内側面刷毛。内側面刷毛。石英・長石・芸苔の繊維少含む。		21	
8	R61116	#060	e1層	DV50	土師器(卓形)	瓶	底部	内側面刷毛ナメ。底部朱紫色。内側面刷毛。赤褐色明るい色。石英・長石・赤色の繊維少含む。		21	
9	R61005	#055	e1層	DQ49	土師器(卓形)	瓶	底部	外側面刷毛ナメ。内側面刷毛ナメ。内側面刷毛。赤褐色明るい色。赤褐色少含む。		21	
10	R61161	#070	e1層	DV47	土師器	瓶	底部	赤褐色。赤褐色。内側面刷毛ナメ。内側面刷毛。赤褐色明るい色。石英・長石・赤色の繊維少含む。		21	
11	R61124	#053	e1層	DW49	土師器	瓶	底部	内側面刷毛ナメ。内側面刷毛。内側面刷毛。石英・長石・赤色の繊維少含む。		21	
12	R61008	#028	e1層	DS48	土師器	瓶	底部	赤褐色ナメ。内側面刷毛ナメ。内側面刷毛。赤褐色少含む。		21	
13	R61008	#033	e1層	DT45#	土師器(卓形)	瓶	底部	外側面刷毛ナメ。内側面刷毛。赤褐色明るい色。石英・長石・赤色の繊維少含む。		21	
14	R61068	#029	e1層	DS49	土師器(卓形)	高环?	瓶底	内側面刷毛。内側面刷毛。赤褐色明るい色。石英・長石・芸苔の繊維少含む。		21	
15	R61169	#071	e1層	DY49	泥色土器(中)	瓶	口縁部	内側面刷毛。内側面刷毛。内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。1mm以下の石英・長石・赤褐色・透青釉色の粉子に含む。		21	
16	R61069	#028	e1層	DS48	泥色土器(中)	杯	口縁部	内側面刷毛。内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。石英・長石・赤色の繊維少含む。		21	
17	R61133	#062	e1層	DX48	泥色土器(中)	瓶	全形	内側面刷毛ナメ。底部朱紫色ナメ。底部朱紫色ナメ。下手縁へ斜めカケリ。下手縁へ斜めカケリ朱ナメ。内側面刷毛。外側面刷毛。朱色。		21	
18	R61054	#028	e1層	DS48	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。内側面刷毛。透青釉色。断面灰褐色。石英・長石の繊維少含む。		22	
19	R61031	#018	e1層	DC50#	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛。内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。3mm以上の石英・長石や含む。		22	
20	R61041	#022	e1層	DR49	瓦器	瓶	受皿	内側面刷毛ナメ。底部外側面刷毛ナメ。内側面刷毛。石英・長石の繊維少含む。		22	
21	R61138	#056	e1層	DW50#	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。底部へ切り妻。内側面刷毛。内側面刷毛。1mm以下の石英・長石・赤色の繊維少含む。		22	
22	R61064	#029	e1層	DS49	瓦器	瓶	全形	支えつまみ。内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。内側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
23	R61065	#029	e1層	DS49	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
24	R61113	#015	e1層	DV49	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
25	R61096	#035	e1層	DT47	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
26	R61062	#029	e1層	DS49	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
27	R61022	#015	e1層	DX49	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。		22	
28	R61169	#011	e1層	DU50	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。底部外側面刷毛ナメ。内側面刷毛。石英・長石の繊維少含む。		22	
29	R61125	#055	e1層	DW50#	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。底部外側面刷毛ナメ。内側面刷毛。石英・長石の繊維少含む。		22	
30	R61023	#015	e1層	DD49	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。底部外側面刷毛ナメ。内側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
31	R61103	#014	e1層	DX48	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
32	R61024	#015	e1層	DQ49	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。底部外側面刷毛ナメ。内側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
33	R61069	#027	e1層	DD50	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
34	R61009	#014	e1層	DD48	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
35	R61103	#015	e1層	DT47	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
36	R61129	#056	e1層	DW50#	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
37	R61099	#033	e1層	DT47	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
38	R61119	#049	e1層	DW48	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。底部外側面刷毛ナメ。内側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
39	R61055	#028	e1層	DS48	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
40	R61146	#006	(目)金	DY46	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。内側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
41	R61105	#035	e1層	DT47	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石・芸苔や含む。		22	
42	R61040	#021	e1層	DR48	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石・芸苔や含む。		22	
43	R61107	#036	e1層	DT48	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石・芸苔や含む。		22	
44	R61117	#045	e1層	DV50	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。底部外側面刷毛ナメ。内側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
45	R61063	#029	e1層	DS49	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。内側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
46	R61120	#029	e1層	DW48	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
47	R61136	#064	e1層	DX49	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
48	R61097	#035	e1層	DT47	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
49	R61121	#025	e1層	DW49	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
50	R61040	#014	e1層	DQ48	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
51	R61127	#047	e1層	DX49	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
52	R61117	#047	e1層	DV50	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛。内側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
53	R61111	#044	e1層	DV48	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
54	R61162	#035	e1層	DT47	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
55	R61161	#035	e1層	DT47	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛ナメ。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
56	R61047	#023	e1層	DR49	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。底部外側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
57	R61037	#030	e1層	DT47	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。底部外側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	
58	R61140	#005	e1層	DX50#	瓦器	瓶	口縁部	内側面刷毛ナメ。外側面刷毛。朱色。1mm以下の石英・長石少含む。		22	

遺物番号	出土位置	遺物内容	文様・調査・色調・出土などの特徴	収集番号
59 R61110 r6004 e1層 DT50	東蔵 壁上	遺傳・地質 種類 器種 記載	内側面刷毛ナメ。内側面刷毛白色。石英・長石の細粒少し含む。	23
60 R61042 r6002 e1層 DR19	東蔵	遺傳 種類 器種 記載	内側面刷毛ナメ。内側面刷毛白色。石英・長石の細粒少し含む。	23
61 R61611 r6014 e1層 DQ48	底蔵	遺傳 種類 器種 記載	内側面刷毛ナメ。底部内側面凸凹刷毛。高級墨玉と自然釉。内側面底白～灰白。外側灰白色の自然釉。	23
62 R61056 r6028 e1層 DS48	底蔵	遺傳 種類 器種 記載	内側面刷毛ナメ。内側面刷毛白色。石英・長石の細粒少し含む。	23
63 R61045 r6015 e1層 DQ49	底蔵	遺傳 種類 器種 記載	内側面刷毛ナメ。内側面刷毛灰白色。内側面底白。灰青色の自然釉。石英・長石の細粒少し含む。	23
64 R61062 r6028 e1層 DS48	底蔵	遺傳 種類 器種 記載	内側面刷毛ナメ。内側面刷毛灰白色。底部内側面灰白色。1mm以下の石英・長石少し含む。底蔵底に泥灰。	23
65 R61062 r6014 e1層 DQ48	底蔵	遺傳 種類 器種 記載	内側面刷毛ナメ。外側灰白色。内側面底白。1mm以下の石英・長石少し含む。やや赤焼け。	23
66 R61010 r6010 (Ⅲ・Ⅳ層)	底蔵	遺傳 種類 器種 記載	泥灰。泥灰2層の上の土層を隔て泥灰。内側面刷毛ナメ。内側面底白。2mm以下の石英・長石含む。	23
67 R61112 r6014 e1層 DV48	底蔵	遺傳 種類 器種 記載	泥灰。内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石含む。3mmの石英少し含む。	23
68 R61104 r6005 e1層 DT47	底蔵	遺傳 種類 器種 記載	余部。陶器タマゴ巻き底。内側面刷毛灰白色。1mm以下の石英・長石含む。	23
69 R61126 r6005 e1層 DW50#	瓦	軒瓦	内側面刷毛ナメ。内側面底白。内側面底灰白。2mm以下の石英・長石含む。	23
70 R61048 r6013 e1層 DQ49	瓦	平瓦	底部。内側面刷毛ナメ。内側面底白。石英・長石の細粒少し含む。	24
71 R61056 r6014 e1層 DQ48	瓦	平瓦	底部。内側面刷毛ナメ。内側面底白。石英・長石の細粒少し含む。	24
72 R61055 r6014 e1層 DQ48	瓦	平瓦	内側面刷毛ナメ。内側面底白。石英・長石の細粒少し含む。	24
73 R61017 r6021 e1層 DR48	土蔵	壁	内側面刷毛ナメ。内側面底白。内側面底灰白。1mm以下の石英・長石・砂粒や多く含む。	24
74 R61006 r6029 e1層 DS49	土蔵	壁	内側面刷毛ナメ。内側面底白。内側面底灰白。1mm以下の石英・長石少し含む。	24
75 R61033 r6019 e1層 DR45	土蔵	小火炎灰釉	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石少し含む。	24
76 R61009 r6023 e1層 DR49	土蔵	小火炎灰釉	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石少し含む。	24
77 R61067 r6029 e1層 DS49	土蔵	壁	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒含む。	24
78 R61006 r6010 (Ⅲ・Ⅳ層)	土蔵	壁	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒・赤鉄鉱や含む。	24
79 R61014 r6014 e1層 DQ48	土蔵	壁	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒・赤鉄鉱や含む。	24
80 R61115 r6028 ラメなし	土蔵	DV49	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒・赤鉄鉱や含む。	24
81 R61106 r6025 e1層 DT47	土蔵	底	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒・赤鉄鉱や含む。	24
82 R61142 r6005 DZ50#	土蔵	高杯	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や多く含む。	24
83 R61003 r6027 e1層 DQ47	土蔵	高杯	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や多く含む。	24
84 R61035 r6021 e1層 DR48	佛生土器	壁	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や多く含む。	24
85 R61039 r6015 e1層 DQ49	佛生土器	底	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒・赤鉄鉱や含む。	24
86 R61118 r6048 e1層 DW50#	佛生土器	底	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や多く含む。	24
87 R61127 r6066 e1層 DW50#	佛生土器	底	内側面刷毛ナメ。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や多く含む。	24
88 R61096 r6003 e1層 DT47	佛生土器	底	泥灰。泥灰に深い湖面状の模様。その上にハラモヒニカ式3条式と刻み。内側面刷毛。内側面底白。	24
89 R61156 r6070 e1層 DY47	佛生土器	底	泥灰。泥灰に深い湖面状の模様。一部に斜面状。内側面刷毛。内側面底白。	24
90 R61029 r6030 e1層 DS49	佛生土器	底	泥灰。泥灰に深い湖面状の模様。内側面刷毛。内側面底白。	24
91 R61008 r6014 e1層 DQ48	佛生土器	底	泥灰。泥灰に深い湖面状の模様。内側面刷毛。内側面底白。	24
92 R61131 r6007 e1層 DX46	佛生土器	底	泥灰。泥灰に深い湖面状の模様。内側面刷毛。内側面底白。	24
93 R61144 r6066 (Ⅲ・Ⅳ層)	佛生土器	DY46	泥灰。泥灰に深い湖面状の模様。内側面刷毛。内側面底白。	24
94 R61151 r6008 (Ⅲ・Ⅳ層)	佛生土器	DY46	泥灰。泥灰に深い湖面状の模様。内側面刷毛。内側面底白。	24
95 R61032 r6009 e1層 DQ48	佛生土器	底	泥灰。泥灰に深い湖面状の模様。内側面刷毛。内側面底白。	24
96 R61039 r6022 e1層 DR49	佛生土器	底	泥灰。泥灰に深い湖面状の模様。内側面刷毛。内側面底白。	24
97 R61152 r6063 e1層 DY46	佛生土器	底	内側面刷毛。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や含む。	24
98 R61098 r6003 e1層 DT47	佛生土器	底	内側面刷毛。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や含む。	24
99 R61153 r6006 (Ⅲ・Ⅳ層)	佛生土器	DY46	内側面刷毛。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や含む。	24
100 R61151 r6008 (Ⅲ・Ⅳ層)	佛生土器	DY46	内側面刷毛。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や含む。	24
101 R61020 r6005 e1層 DT47	佛生土器	底	内側面刷毛。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や含む。	24
102 R61044 r6003 e1層 DR49	佛生土器	底	内側面刷毛。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や含む。	24
103 R61051 r6025 e1層 DS45#	佛生土器	底	内側面刷毛。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や含む。	24
104 R61071 r6003 e1層 DR49	佛生土器	底	内側面刷毛。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や含む。	24
105 R61092 r6005 e1層 DT47	佛生土器	底	内側面刷毛。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や含む。	24
106 R61142 r6007 (Ⅲ・Ⅳ層)	佛生土器	DY47#	内側面刷毛。内側面底白。1mm以下の石英・長石・砂粒や含む。	24
107 R61009 r6005 e1層 DT47	佛生土器	底	内側面刷毛。内側面底白。	24
108 R61030 r6006 (Ⅲ・Ⅳ層)	佛生土器	DY46	内側面刷毛。内側面底白。	24
	r6003	d5#	内側面刷毛。内側面底白。	24

遺物番号	出土位置	出土状況	遺物内容	取扱番号			
埋蔵	深度	層位	種別	器物	部位		
109	RG1157 r6070	e1層	DY47	陶生土器	甕	底部 赤褐色や含む。	27
110	RG1145 r6066	e1層 (Ⅲ・Ⅳ)	DY46	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。体部内外黒褐色。底部内面黒いガラ。	27
111	RG1148 r6067	e1層	DY45	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。体部内外黒褐色。底部内面黒いガラ。	27
112	RG1104 r6010	e1層 (Ⅲ・Ⅳ)	DQ46	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面黒褐色。底部内面黒いガラ。	27
113	RG1133 r6009	e1層	DQ46	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面黒褐色。底部内面黒いガラ。	27
114	RG1172 r6030	e1層	DS49	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面黒褐色。底部内面黒いガラ。	27
115	RG1132 r6058	e1層	DX47	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面黒褐色。底部内面黒いガラ。	27
116	RG1194 r6035	e1層	DT47	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面黒褐色。底部内面黒いガラ。	27
117	RG1128 r6021	e1層	DR48	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。底部外側明治褐色。内面浅紅褐色。3mm以下の石英・長石・雲母や多く含む。	27
118	RG1139 r6035	e1層	DT47	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面浅紅褐色。3mm以下の石英・長石・雲母や多く含む。	27
119	RG1173 r6030	e1層	DS49	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面浅紅褐色。3mm以下の石英・長石・雲母や多く含む。	27
120	RG1195 r6035	e1層	DT47	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面浅紅褐色。3mm以下の石英・長石・雲母や多く含む。	27
121	RG1150 r6066	e1層 (Ⅲ・Ⅳ)	DY46	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面浅紅褐色。3mm以下の石英・長石・雲母や多く含む。	27
122	RG1156 r6023	e1層	DR46	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面浅紅褐色。3mm以下の石英・長石・雲母や多く含む。	27
123	RG1129 r6021	e1層	DR48	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面浅紅褐色。3mm以下の石英・長石・雲母や多く含む。	27
124	RG1155 r6023	e1層	DR46	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面浅紅褐色。3mm以下の石英・長石・雲母や多く含む。	27
125	RG1180 r6035	e1層	DT47	陶生土器	甕	上部部 底部布目柄の直角付。外縁斜め。内面浅紅褐色。3mm以下の石英・長石・雲母や多く含む。	27
126	RG1115 r6098	e1層 (Ⅲ・Ⅳ)	DY46	陶生土器	高杯	上部部 口縁部4条、口部以下1条の単位の門型紋。外縁斜めハケ目地続1ヶタ。内面斜めハケ目地。内面黒褐色。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
127	RG1156 r6070	e1層	DY47	陶生土器	高杯	上部部 内面斜めハケ目地続1ヶタ。外縁斜め。内面黒褐色。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
128	RG1100 r6018	e1層	DQ45	陶生土器	高杯	上部部 内面斜めハケ目地。外縁斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
129	RG1100 r6018	e1層	DQ46(断面)	陶生土器	高杯	上部部 内面斜めハケ目地。外縁斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
130	RG1147 r6067	e1層	DY46	陶生土器	高杯	上部部 内面斜めハケ目地。外縁斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
131	RG1102 r6026	e1層	DS47	陶生土器	高杯?	上部部 内面斜めハケ目地。外縁斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
132	RG1104 r6035	e1層	DT47	陶生土器	高杯	上部部 内面斜めハケ目地。外縁斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
133	RG1163 r6035	e1層	DT47	陶生土器	高杯	上部部 内面斜めハケ目地。外縁斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
134	RG1162 r6034	e1層	DT46	陶生土器	高杯	上部部 内面斜めハケ目地。外縁斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
135	RG1105 r6035	e1層	DT47	陶生土器	高杯	上部部 内面斜めハケ目地。外縁斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
136	RG1158 r6000	e1層	DS49	陶生土器	高杯	上部部 内面斜めハケ目地。外縁斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
137	RG1159 r6000	e1層	DS49	陶生土器	高杯	上部部 内面斜めハケ目地。外縁斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
138	RG1107 r6035	e1層 (Ⅲ・Ⅳ)	DQ46	石器	甕	上部部 内面斜めハケ目地。外縁斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
139	RG1164 r6072	e1層	DY48	石器	甕片	上部部 内面斜めハケ目地。外縊斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28
140	RG1130 r6056	e1層	DW50(断面)	鉄器	甕片?	上部部 内面斜めハケ目地。外縊斜め。4mm以下の石英・長石・雲母や赤色を含む。	28

きないものである。それでも、胎土自体が赤みをもつものが多い（図版19-1・2）。

1~10は壺口縁部。1は外反する口縁部で、口唇内面が凹線状を呈する。2も口唇内面に浅い凹みをもつ。3は、横ナデにより口縁部外面に浅い凹線2条が巡る。4は底部まで残り、高台が付かないタイプとなる。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部はやや外反する。5・6も同様に内湾しながら立ち上がり、5は口縁部の外反が強く、6は小型。7は口縁部横ナデにより外反するがやや大型。8~10は内湾気味に開く口縁部で、9・10は端部がやや尖り気味。

11~15は、高台をもたない壺底部。11・12は深みのある底部で、底は薄く、立ち上がり部分が厚い。11は

内面回転ナデの後、横方向の散發的なミガキを施す。13もやや深みのある底部であるが、体部は一度内溝して立ち上がった後、外反してのびる。14・15はやや大型で、皿底部の可能性もある。14は底部から直線的に外傾してのびる体部で、15の底部から立ち上がりはり、やや急である。

16~21は高台をもつ壺底部。16は小型ながら外にしっかり踏ん張る高台で、胎土はにぶい黄橙色で多くの砂粒を含む。17~20はやや丸みをもつものの、断面台形状の高台を有する。21は幅広ながら、三角形状に近い高台である。なお、18~19は赤い胎土が多い中で、白い胎土をもつ。

22~24は小型の皿。22は内湾する体部に、端部が外

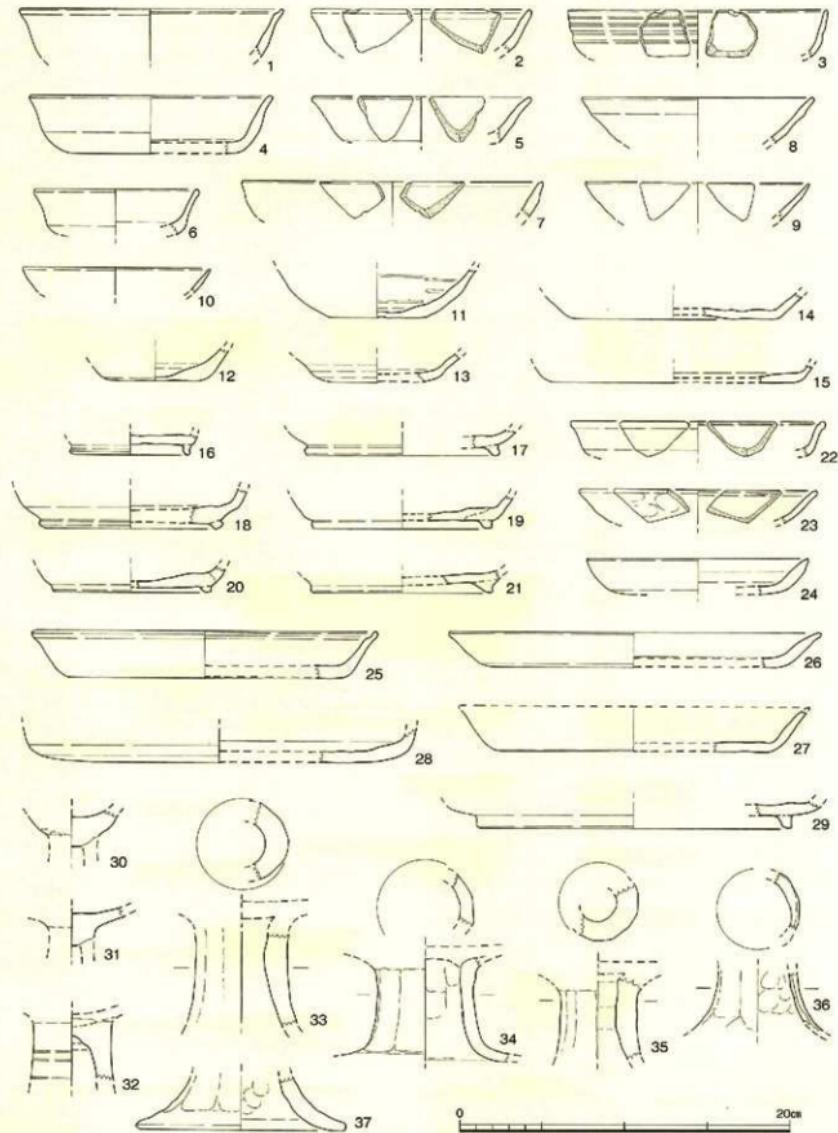


図83 SR-301-③層出土遺物(1) -古代土器①-

反して内面に浅い沈線をもつ。23は直線的に開く体部で、口唇内外面に炭素が吸着する。24は横ナデにより口縁部をやや尖り気味に収める。25~27は大型の皿。25は内湾する体部に、端部が外反して内面に浅い凹線をもつ。26~27は外反する口縁部で、端部は丸く収める。

28~29は盤の底部。28は高台をもたず、内湾気味ながら、底部かららほば垂直近くに体部が立ち上がる。29は体部の立ち上がりよりやや内側に、断面細長い方形の高台を貼り付ける。内面立ち上がり部は、横ナデによりやや凹む。

30~37は、古代に降ると判断した高坏である。30・31は坏部と脚部の接合部である。ともに、ヘソ状に坏部軸が突出し、辛うじて残る脚上端部は多角形形状を呈していた可能性が高い。32は円柱状の脚上端部で、細い沈線2条がみられる。胎土から古代に位置づけた。33~37は、脚部をヘラケズリにより多角形状に面取りする脚部。34は上部が坏部との接合用に外方に開き、下部も据部への広がりがみられ、脚がまっすぐ立ち上るのは6cm程度と低脚であることがわかる。35~36も裾への広がりがみられ、37の脚裾部も径約13cmと大

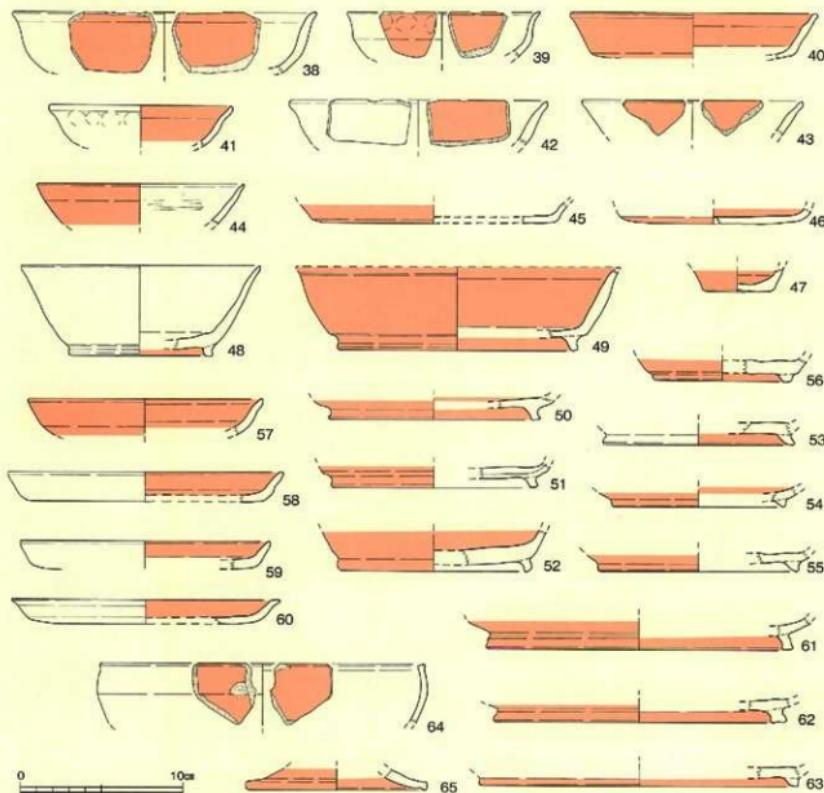


図 84 SR-301-③層出土遺物(2) —古代土器②— (縮尺 1/3)

型ではない。33がやや大型高脚の可能性を残すものの、他は小型低脚とみられる。なお、36は赤彩ではないが、内側とは異なる赤い胎土を、外面側に用いている（図版19-2）。

38~65は赤彩の確認できた土師器を一括した（巻頭図版4-2）。

38~44は壺口縁部。38は深みのある内湾する体部に、

ナデで口縁部が外反する。赤褐色の赤彩が内外面に施される。39も深みのある内湾する体部に、強く外反する口縁部を有する、やや小型の壺。橙色の赤彩がみられる。40は口縁部が外方へ緩く屈曲し、口縁端部は丸く形作られる。明赤褐色の赤彩を内外面に施す。41は丸みのある内湾する体部から口縁部が外反する。黃色みの強い黄褐色の胎土に、橙色の赤彩が内面下半に残

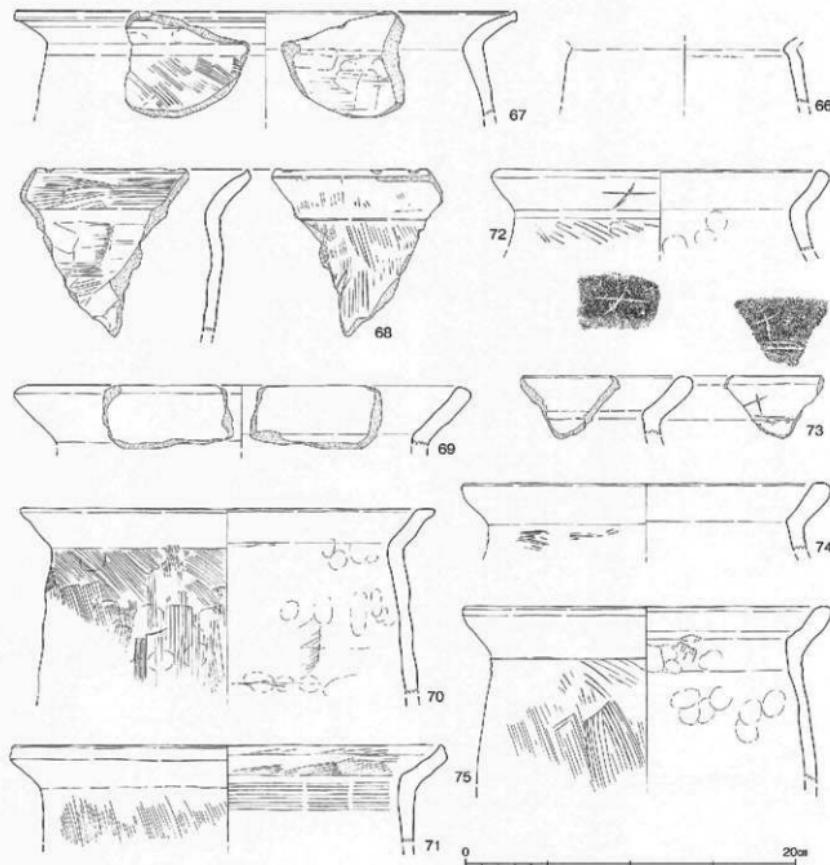


図85 SR-301-③層出土遺物(3) -古代土師器(3)- (縮尺1/3)

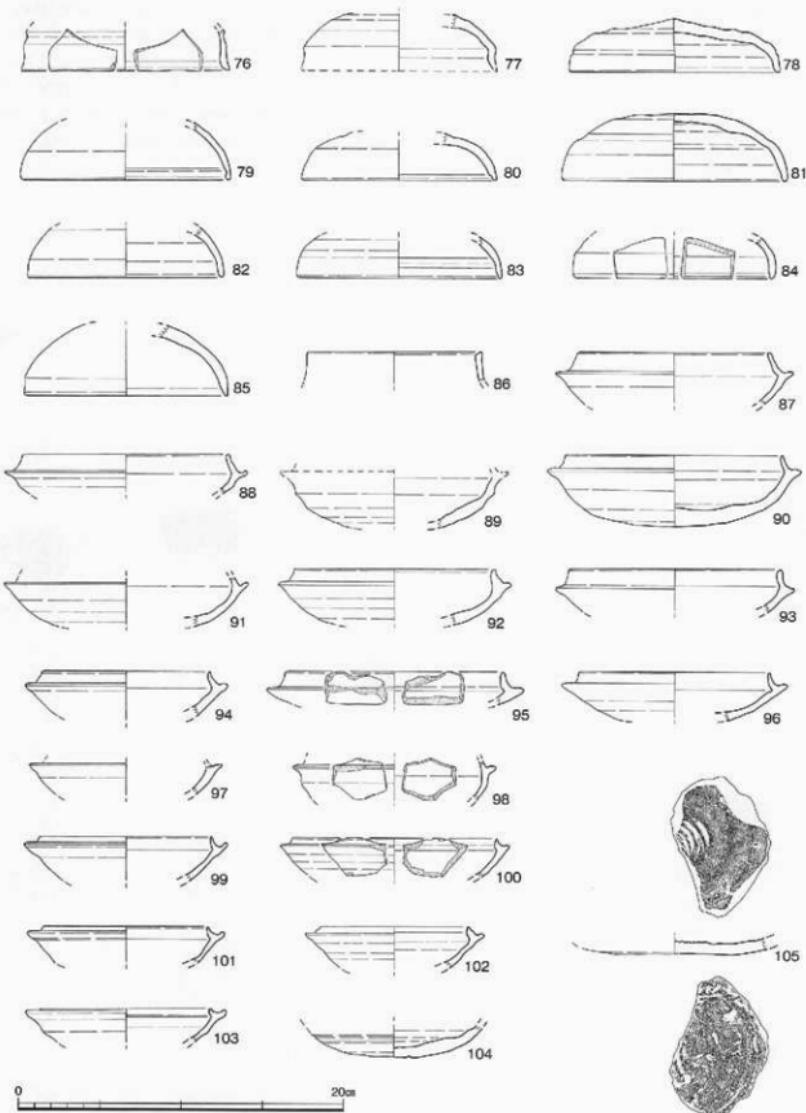


図86 SR-301-③層出土遺物(4) 一須恵器①ー (縮尺1/3)

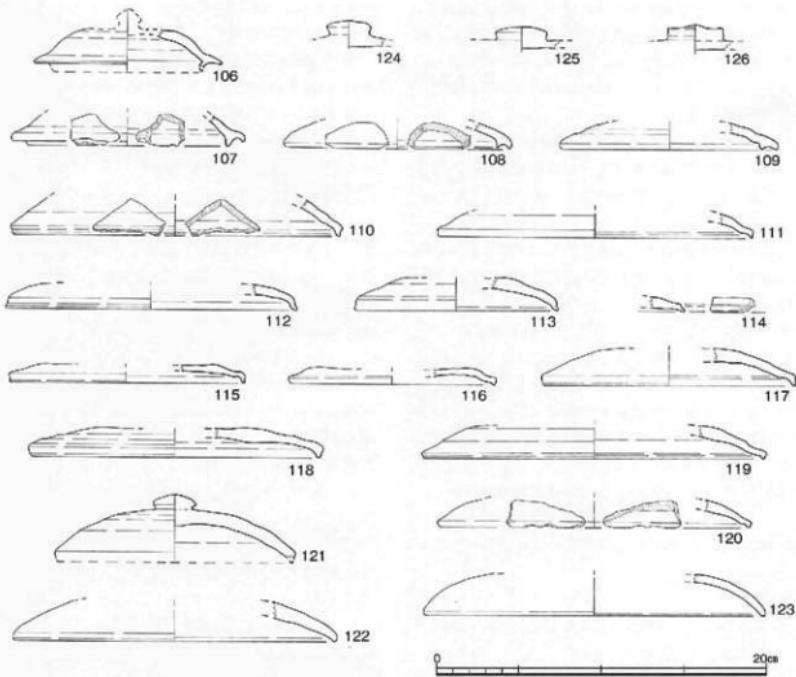


図87 SR-301-③層出土遺物(5) 一須恵器②ー (縮尺1/3)

る。42・43は口縁部が回転ナデによりやや外反し、端部をつまみ上げて丸く收める。42は明赤褐色の赤彩が内面に残り、43は橙色の赤彩が内外面に残る。44はやや内湾してのび、端部を尖り気味に收める口縁部。回転ナデ調整の後、内面に散発的な横方向のミガキを行う。橙色の赤彩が外面に残る。

45~47は高台をもたない坏底部。45はやや大型で、明赤褐色の赤彩が外面に残存する。46は内面に明赤褐色の赤彩が残る。47は小型で、橙色の赤彩が内外面にわずかに残る。

48は深みのある坏で、断面方形で外に踏ん張る高台をもつ。49は口径約20cmと大型で、やや深みのある坏。外にしっかりと踏ん張る断面台形状の高台をもつ。明赤褐色の赤彩が体部内外面と底部外面に残る。

50~56は高台をもつ坏底部。50・51は外に踏ん張る断面台形状の高台、52は内側に湾曲した細い台形状、53は外にのびた台形状、54・55は三角形状、そして56は低平な台形状。50・52は明赤褐色、53・56は橙色、54・55は赤褐色の赤彩を施す。51は外面に淡黄色、内面に橙色の胎土を用い、体部および高台部の外面に橙色の赤彩を施す。

57~60は皿。57は口縁部が回転ナデによりやや外反し、端部をつまみ上げて丸く收める。赤褐色の赤彩が内外面に残る。58・59は体部が短く直線的にのび、口縁端部は尖り気味に丸く收める。両者とも明赤褐色の赤彩が内面にわずかに残る。60は口縁端部を外方へつまみ出し、内面端部に浅い沈線が一条めぐる。橙色の赤彩が内面に残存する。

61～63は高台付の盤。61は高い断面台形状の高台で、明赤褐色の赤彩が体部外面と高台部内外面に残る。62も断面台形状の外に踏ん張る高台で、橙色の赤彩。63は断面三角形状の高台で、橙色の赤彩が内外面全面に認められる。

64は高盤の口縁部か。体部から内湾してのび、口縁端部はやや内側に面を向ける。断面は浅黄橙色。赤彩というよりも、器表を橙色の胎土で薄く覆っている状況である。

65は高坏の脚縫部で、端部を下方につまみ出す。径約11cmと小型で、橙色の胎土に赤褐色の赤彩がわずかに残る。

66～75は、古代に降ると判断した土師器型である(図版19-3)。66は口縁部を欠く上胴部。67・68は外反する口縁部と膨らみをもたない胴部をもつ。口縁端部は面をなす。67は口縁部横ナデ調整で、68はハケ目調整、胴部はいずれもハケ目調整である。69～75は口縁部がやや内湾気味にのびる口縁部と、あまり張らない胴部をもつ。ほとんどのものが口縁部内外面横ナデ、胴部外面左上がりのハケ目、胴部内面指オサエ・ナデ調整である。72・73の口縁部外面には×印のヘラ記号が認められる。

[須恵器]

須恵器は、76～389の314点を提示する(図版86～100、図版19-4～図版20-6)。

まず、76～105は古墳時代に通る供膳具で、76～86が壺蓋、87～105が蓋坏である。76は天井部と口縁部の境に段を有し、口縁端部は内傾して面をなす。77は口縁部が屈曲し、口縁端部は内傾し、面をなす。78は天井部と口縁部の境に浅い沈線を巡らす。79・80は口縁部内面に段を有する。81は天井部と口縁部の境に弱い段を設けるが(図版19-4)、82～85は天井部から口縁部へ緩やかに移行する。85は高さがあり、土師器坏の可能性も考えたが、砂粒の含み具合から赤焼け品と判断した。

87は高くのびる口縁部で、口縁端部内面に段をもつ。口径から6世紀前葉頃か。87・88はやや高めの口縁部と短く突出する受け部をもち、口縁部を欠失する。89も同様とみられ、底部の1/3程度に回転ヘラケズリを施す。6世紀中葉頃に位置づけられる。90～103は、口縁部・受け部とも脆弱で、底部回転ヘラケズリも1/3以下の範囲となる(図版19-5)。中でも、97～103は口径の小型化が進んでいる。6世紀後葉から7

世紀初め頃。104・105は底部。105は内面中央に青海波文のあて具痕を残す。

106～123は7世紀以降の蓋(図版19-6)。106～109は口縁部内面にかえりをもつ。106・107はかえりが口縁部よりも下方に突出し、天井が比較的高い。やや高い擬宝珠つまみをもつと推定する。108・109はかえりが短い。

110～123は口縁部内面にかえりをもたない蓋(図版19-6)。110・111は大型で、口縁端部を強く回転ナデし、下方に突出する。112～114も同様の回転ナデで、端部が外下方に突出する。115は端部を下方に折り曲げ、内面に凹みをもつ。116～118は端部が断面三角形状に突出する。117は赤焼け。119は皿とも考えたが、蓋とした。端部を内面側に巻き込み、焼きはやや軟質。120～122は端部をわずかに下方に肥厚させる。121は天井部が高く、丸い擬宝珠つまみがつく。123は天井部から緩やかに口縁部にいたり、端部は丸く収める。赤焼け。124～126は擬宝珠つまみ部。124・125は丸みをもったボタン形で、126は中央部がわずかに突出する程度で扁平。いずれも赤焼け。

127～245は供膳具の坏。坏には、底部に高台をもたないものとものとの2者があるが、口縁部形態のみでは判別できない。そのため、高台をもつことが明らかなものを除いた口縁部をまず提示し、続いて高台をもたない底部、そして高台をもつ底部を示す。

127～175が口縁部(図版19-7・8)。127～132は体部が内湾する。小型の127・128は口縁端部を丸く收め、他はやや尖り気味に収める。130の外面上には回転ナデにより浅い沈線状の凹みが数条みられる。131は口縁端部が少し外反し、底部は回転ヘラ切り未調整。胎土はやや黄色みのある白色で、焼きがやや軟質である。132は口縁端部をわずかに欠失する。

133～171は、底部から直線的あるいは若干外反して立ち上がる口縁部で、端部は丸く収めるものと、やや尖り気味に丸く収めるものがある。口径の小さいものから配列している。138の体部内面に×印のヘラ記号が施されている。137・147は瓦器様に体部外画あるいは口縁端部内外面が黒色を呈する。この他にも、白みの強い精良な胎土で、焼き上がりが軟質のものが少なくなっている。

172～175は、外反気味に立ち上がる体部から、端部でさらに強く外反して、口縁端部を小さくつまみ上げる。172・173は軟質で、172は外表面と口縁端部内面が

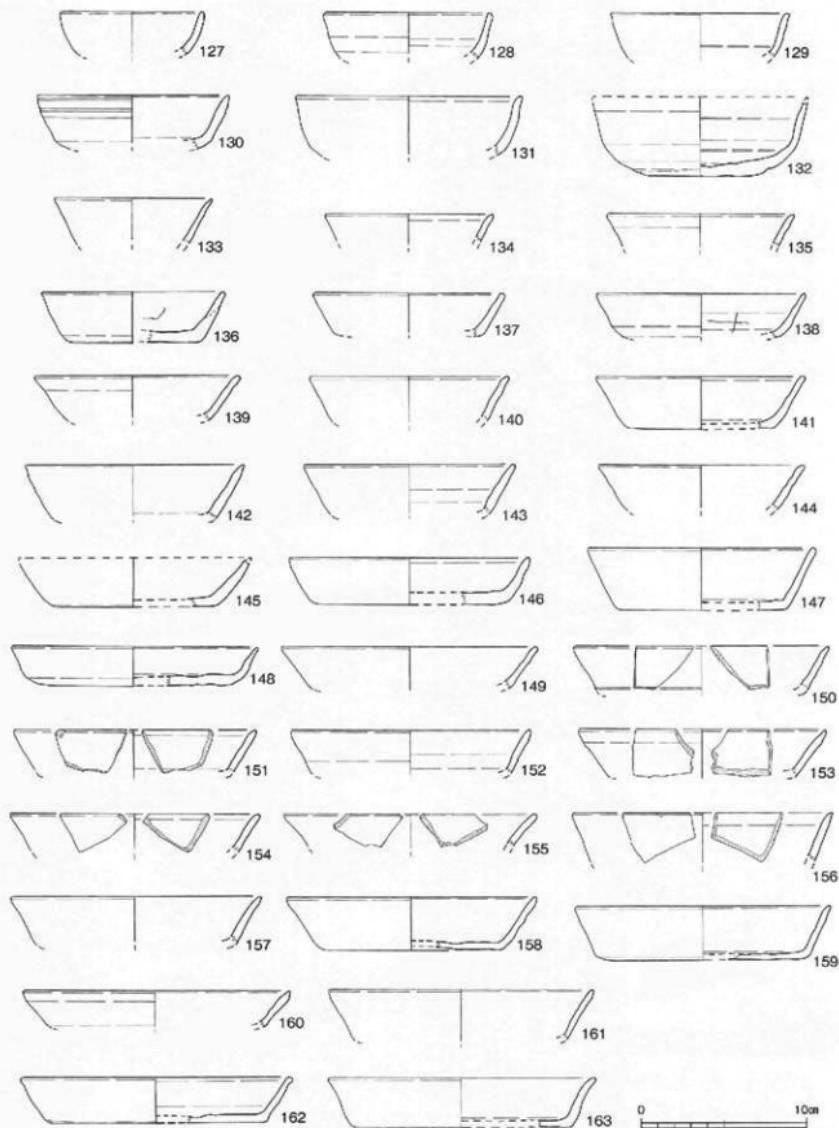


図88 SR-301-③層出土遺物(6) -須恵器③- (縮尺1/3)

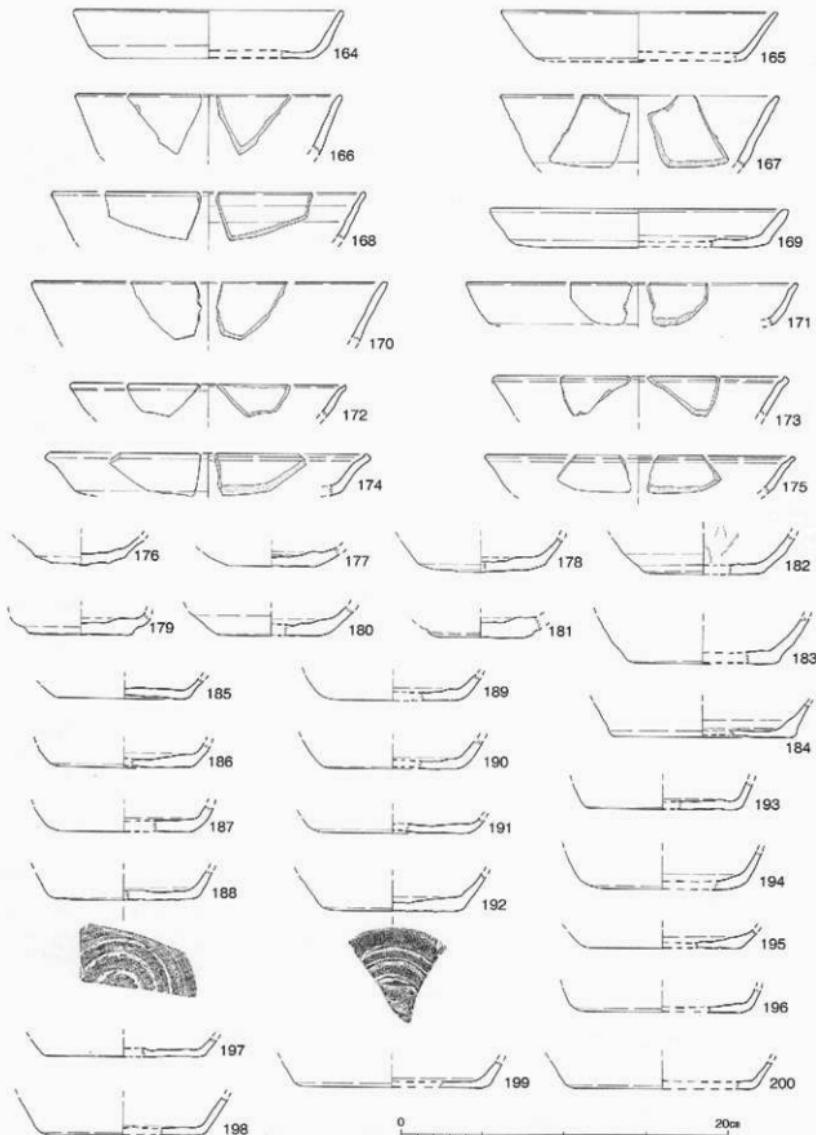


図89 SR-301-③層出土遺物(7) 一須恵器④ー (縮尺1/3)

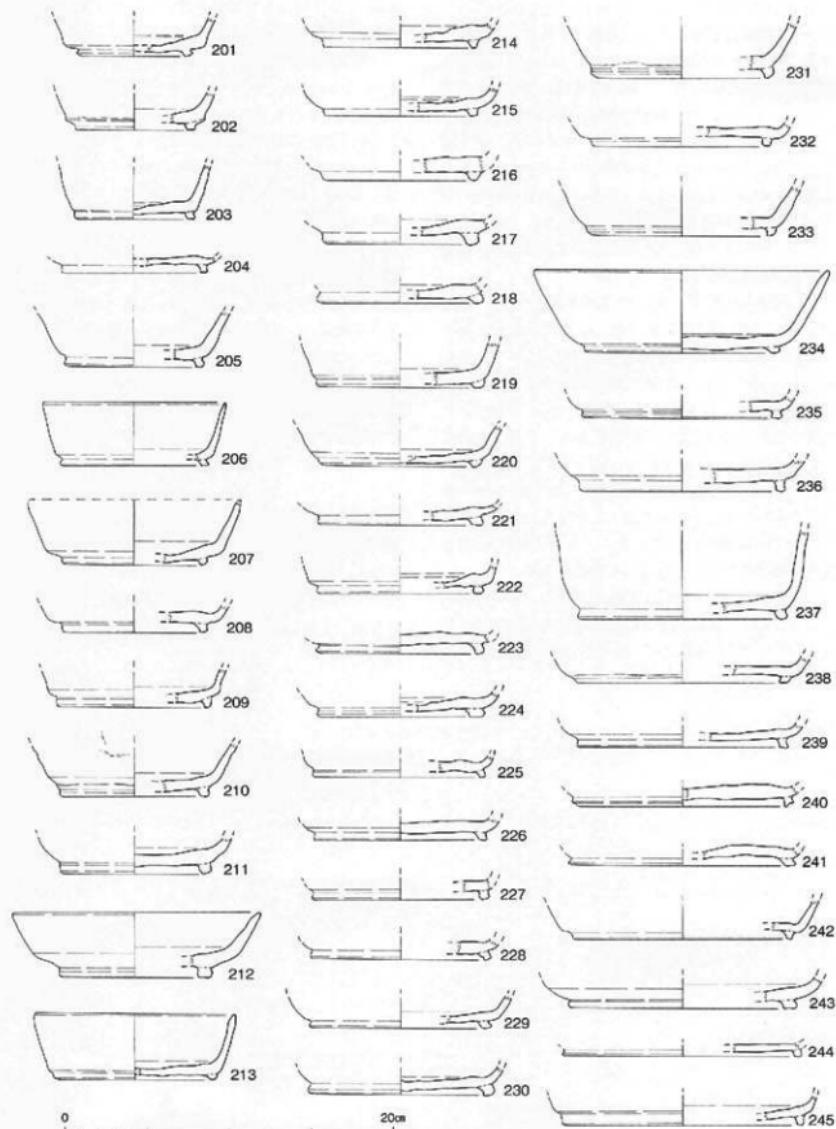


図90 SR-301-③層出土遺物(8) -須恵器(5)- (縮尺1/3)

黒色化している。

176~200は高台をもたない底部で、基本的に回転ヘラ切り未調整（図版19-9）。176~181は若干凸気味を呈し、179・181は厚い。182~184はほぼ平坦な底部から軽く立ち上がり、内湾気味の体部となる。182の内面には火拂痕がよく残る。180・183の焼き上がりは軟質。185~200はほぼ平坦な底部からやや丸みをもって外傾して立ち上がる底部。体部は内湾気味のものが多いが、直線的なものもある。195は立ち上がりが緩やかで、内外面を黒色化している。この他にも、軟質の焼き上がりが目立つ。

201~245は高台を有する底部（図版20-1）。高台径の小さい順に配列している。高台は断面が丸みをもった台形ないし平行四辺形で、外方にしっかりと踏ん張ったものが多い。底部から体部の立ち上がりは、212・234のように大きく聞くものから、立ち上がりの急な206・213・237等、多様である。また、高台に接した部分から体部が立ち上がるもの、201・202・207・208・209・212・222のように、高台貼り付け部からさらに外方で屈曲して立ち上がるものがある。焼きは、やはり軟質のものが多い。なお、244等、径が大きく器壁の薄いものは皿の可能性もある。

246~251は全形の窓える皿（図版20-2）。246~248は口径13~15cm。246は口縁の端部を内面側につまみ上げる。247は回転ナデにより、口縁端部内面が凹

線状。248は外反して端部をやや尖り気味に收める。

249~251は口径19cm前後。249は口縁端部をつまみ上げ、端部内面が凹線状となる。250の口縁端部は面をもち、251は外反して端部をやや尖り気味に收める。252・253は高台をもたないが、底径および厚さから皿とした。251・253の焼きは軟質。

254~257はさらに大型となり、盤とした（図版20-2）。254は口縁端部が内面側に肥厚し、段をもつ。255は外反する口縁の端部を上方につまみ上げる。焼きは軟質。256は、底部から緩やかに少し立ち上がる程度と非常に浅い。焼きはやはり軟質。257は、高さ1cm前後の外にしっかりと踏ん張った高い高台をもつ。焼きは軟質で、外面は瓦器様に灰色を呈する。

258~270は塊（図版20-3）。258・259は小型の口縁部で、丸みのある体部からわずかに外反して、口縁端部はやや尖り気味に收める。260は体部片で、外面に沈線を2条施し、内外面に灰オリーブ色の自然釉が厚く付着する。261~264は小型の底部。261は回転ナデによる外面の凹凸が激しい。264は底部外面がやや凸状。265は台付塊の塊部で、脚台の接合痕が残る。体部はほぼ直立から内傾気味。266・267は底部付近の体部片。266には1条の沈線がある。268は塊と脚台の接合部。269・270は脚台部だが、小型壺類の脚台部片の可能性もある。269は接合部を内側につまみ出し、270は外側にしっかりと踏ん張る。

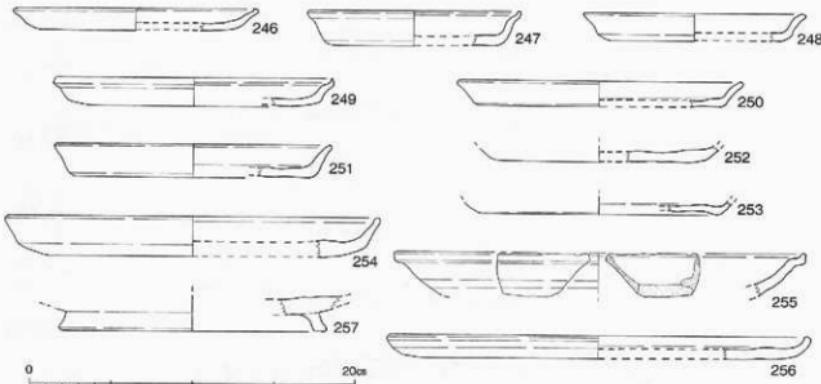


図91 SR-301-3層出土遺物(9) 一須恵器⑧一 (縮尺1/3)

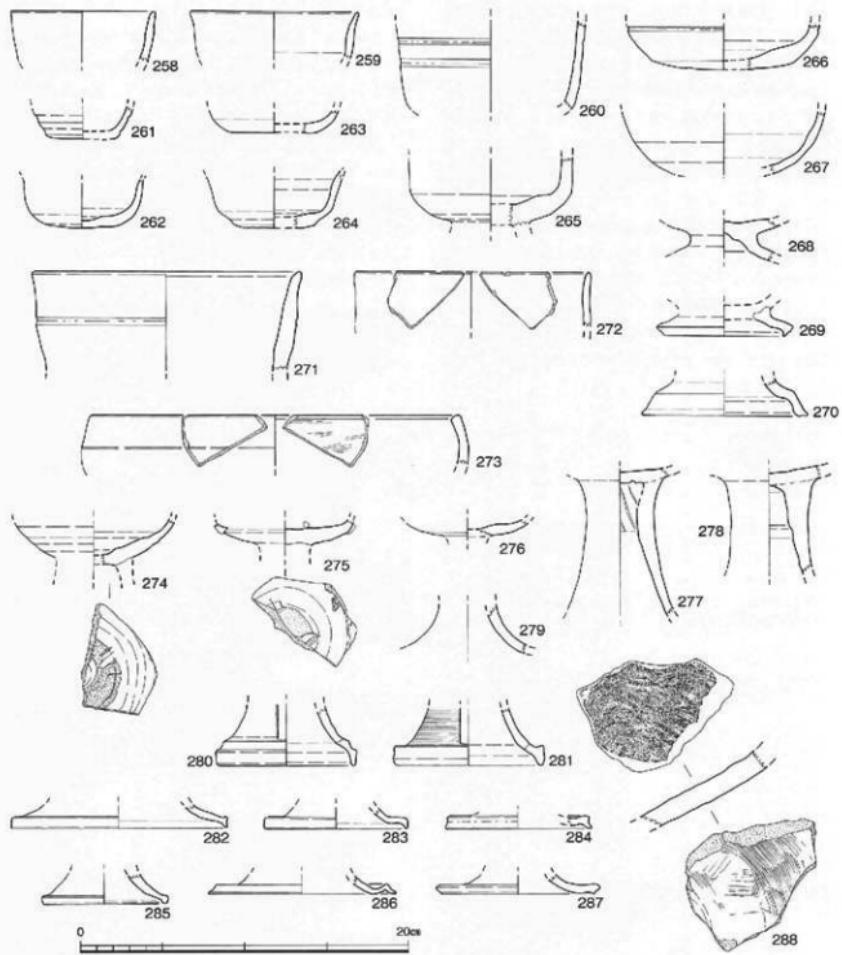


図92 SR-301-③層出土遺物(10) 一須恵器①- (縮尺1/3)

271・272は鉢の口縁部。271の体部外面には凹線が1条ある。273は鉢の可能性も考えたが、径の大きさと内湾の程度から高盤と推定した。焼成は軟質。

274～287は高坏(図版20-3)。274～276は坏部で、274・275には透穿孔に伴うヘラ痕が残り、275はその残存状況から3方向透と推定される。体部外面に1条の沈線がみられ、坏内面にはオリーブ灰色の自然釉が付着し、窯壁片を巻き込んでいる。276は軟質。277・278は脚柱部で、文様・透はみられない。277の内面上半横方向のヘラケズリを施し、278は内面にナデによる段がある。279は据近くの脚部片。280～287は脚裾部。280・281は脚端部を上下に拡張して段をなす。ともに長方形透で、281は4方向に復元できる。282～287は端部を下方に若干拡張させる程度。282は軟質の

焼き上がり。

288は焼け重みが激しいが、高坏形器台の坏部片。外面は約1.5cmの幅狭の工具による平行タタキの後、部分的にカキ目、内面は青海波文をナデ消す。市場窯系とみられる(図版20-4)。

289～360は瓶、瓶類を含んだ壺類。289～292は瓶。289・290は内湾する口縁部片で、289の外面には波状文がある。291は胴部上半から頸部で、体部外面カキ目調整で、頸部に波状文を施す。292の上胴部は外面カキ目調整。291・292とも孔は残らない。

293～303は瓶類。293は提瓶の口縁部、端部を外面に巻き込み、丸く收める。294・295は提瓶または平瓶の口縁部。294は外反して口縁端部を丸く收める。295は端部内側に面をもち、尖り気味に收める。296は提

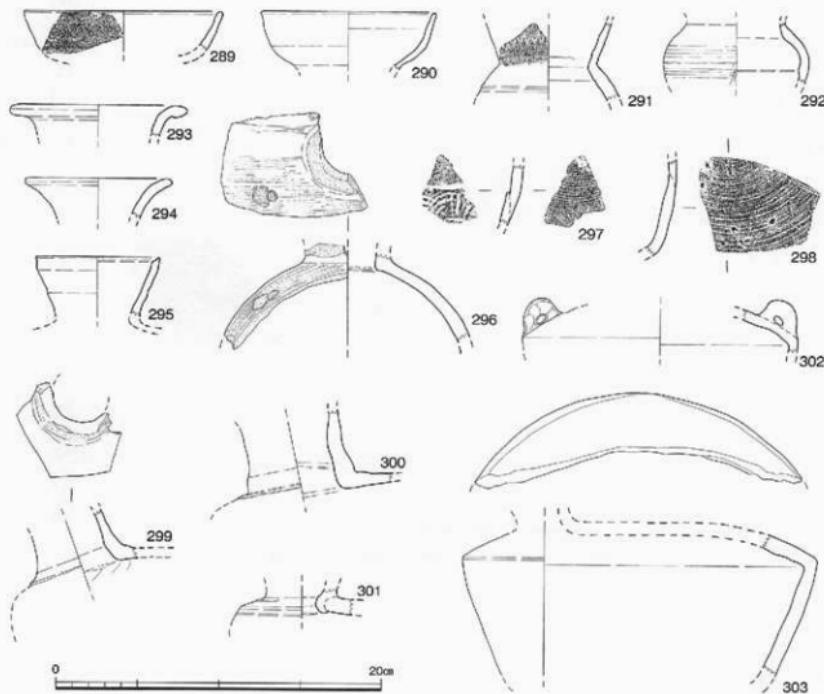


図93 SR-301-⑤層出土遺物(1) 一須恵器⑧- (縮尺1/3)

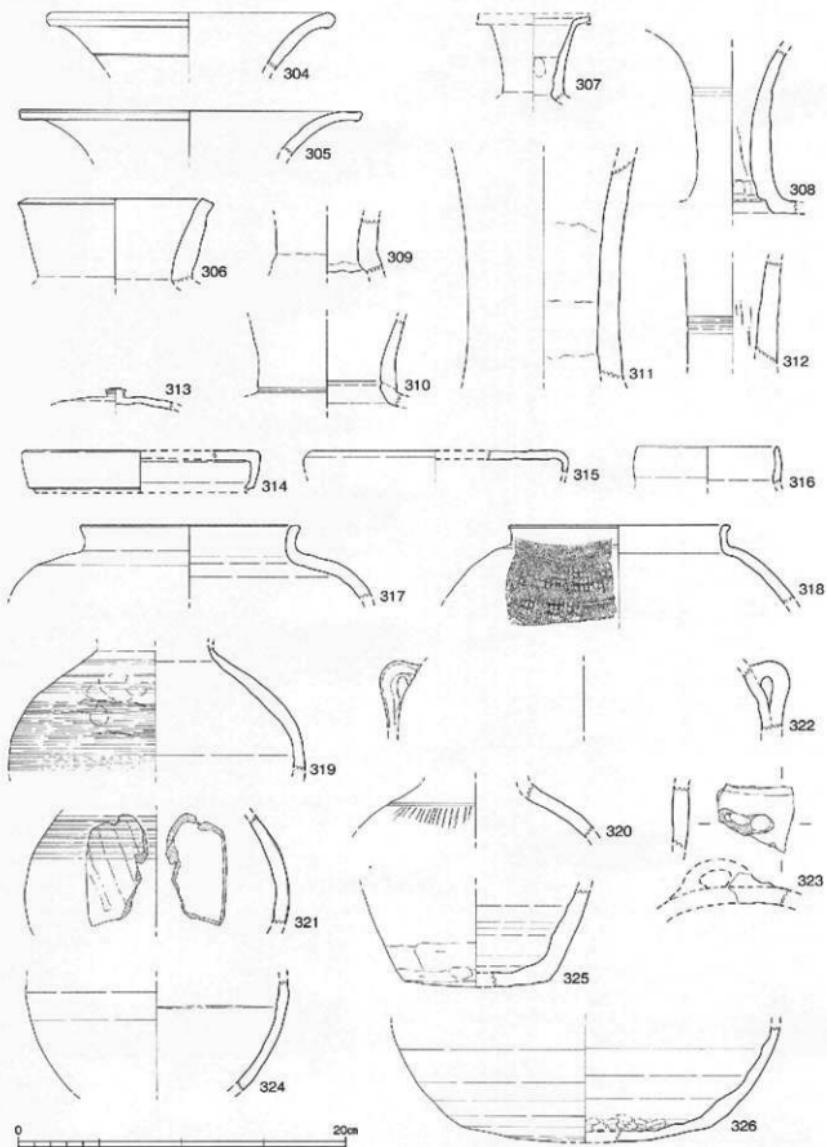
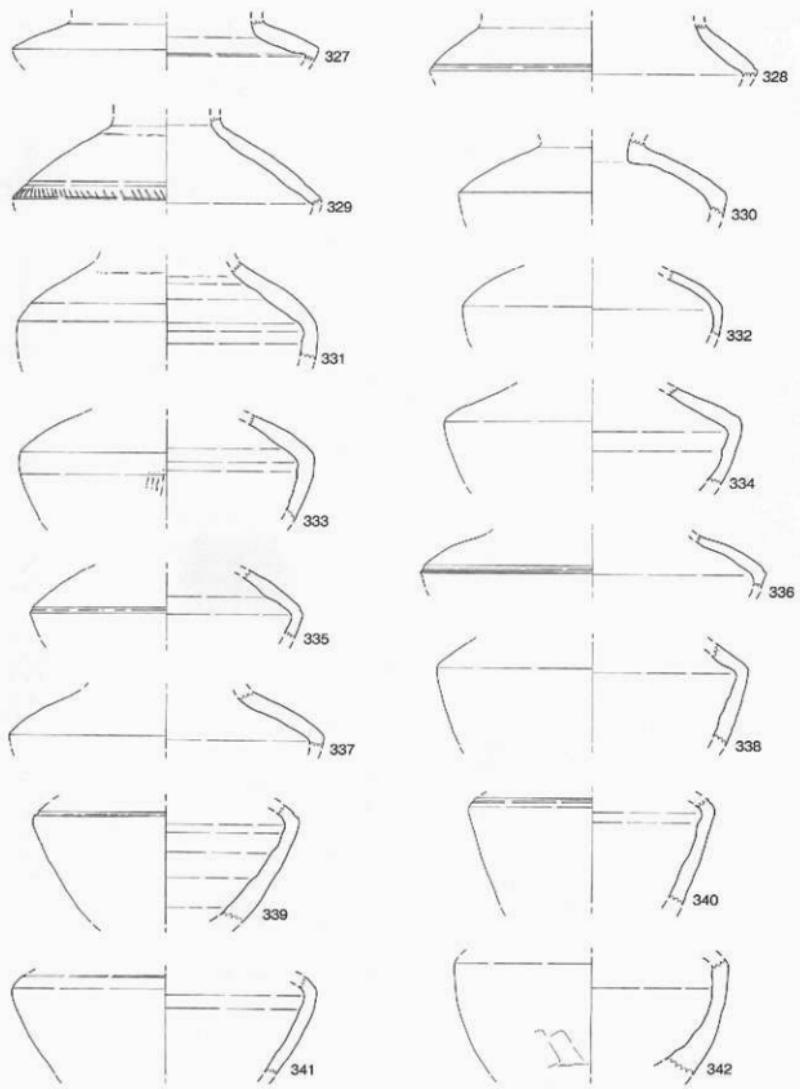


図94 SR-301-③層出土遺物(2) -須恵器③- (縮尺1/3)



0 20cm

図95 SR-301-③層出土遺物13 一須恵器⑩— (縮尺1/3)

瓶の肩部。外腹面をカキ目調整、背面を回転ヘラケズリする。やや腹面側に寄った位置に把手部の接合痕が残る。297・298は提瓶の体部片で、ともに円盤閉塞の際の接合痕が残る腹面側の体部片。外面はカキ目調整を施し、内面は297にて具痕の青海波文が残り、298は回転ナデ調整と閉塞部周辺に指オサエの痕跡がよく残る。

299~301は平瓶の頸部。内外面回転ナデ調整で、頸部と胴部で回転軸が異なる。302・303は肩部に稜をもつ体部で、302は高い耳がつくことから、303は大きさ

から平瓶体部片と判断した。

304・305は広口壺の口縁部片。306は直口壺の口縁部片で、口縁端部は面をなす。307~312は長頸壺の口縁部から頸部。307は小型ながら口縁部を上下に拡張し、体部は長削を呈するとみられる。308・312には頸部に凹線が施されている(図版20-5)。

313~315は短頸壺の壺蓋。313は小さいボタン形のつまみが付く。314は口縁端部を内側につまみだす。316~318は短頸壺口縁部。316は小型で、若干外側へ膨らんで直立し、端部は尖り気味に丸く取める。317

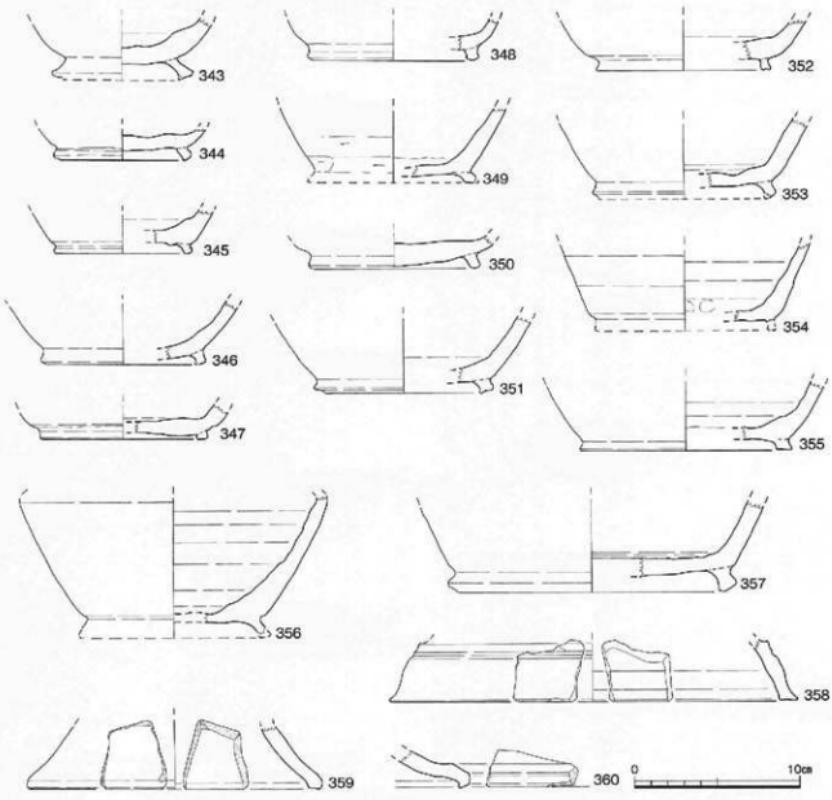


図96 SR-301-③層出土遺物(1/3) -須恵器(1)- (縮尺1/3)

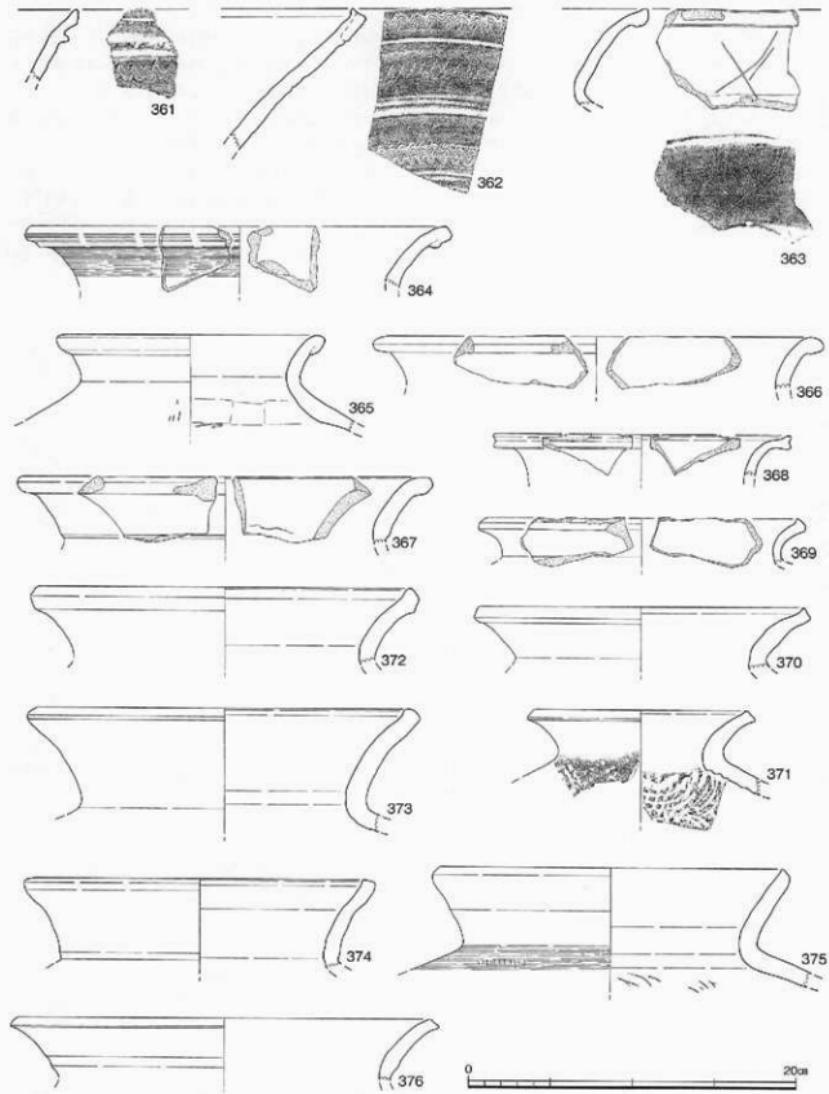


圖97 SR-301-③層出土遺物(15) —須惠器⑫— (縮尺1/3)

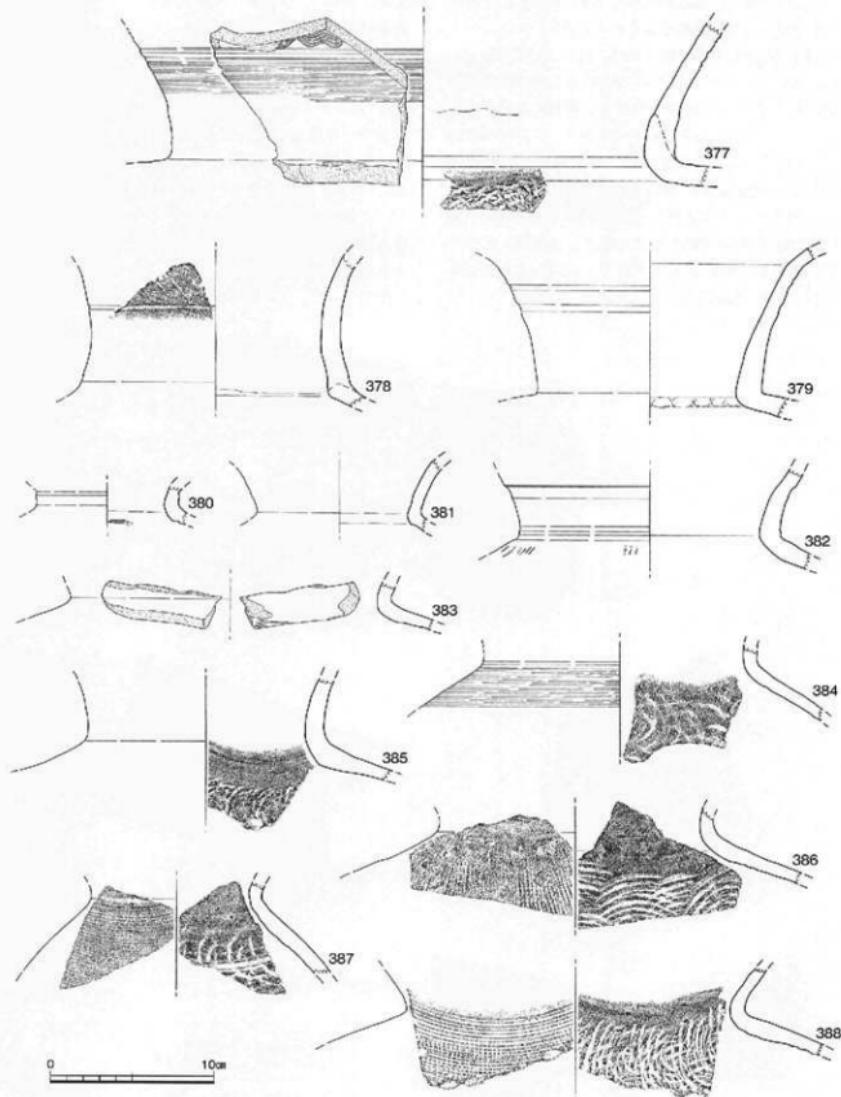


図98 SR-301-③層出土遺物(6) 一須恵器⑩一 (縮尺1/3)

は若干肩が張る（図版20-5）。318は外面に格子目タタキが残り、内面は青海波文をナデ消す。

319・322は丸く張る壺の肩部。319・321は外面をカキ目調整し、321の外面上には緑色の自然釉が数条滴っている。320は肩部外面に凹線を1条巡らし、その下にヘラ状工具による連続刻目文を施す。工具は幅約2.2 cmの先の尖ったヘラ状工具で、木目が明瞭。323は耳部を有し、壺肩部の可能性がある破片。頗るは任意。324は丸底とみられる壺下半部で、内外面回転ナデ調整。325はやや凸気味の平底底部で、外側面にヘラケズリを施す。326は丸底の底部で、底部内面から指オサエにより、丸底を作り出している。

327～342は、肩部から胴部へ後をもって屈曲する壺の体部である。327・328は頸部径が大きく、広口壺ないし短頸壺の肩部。肩部から胴部の屈曲は鋭い。328は肩部と体部の境の上側に凹線1条を巡らす。329・330は頸部径が小さく、長頸壺とみられる。肩部から体部へは鋭角に屈曲する。329は肩部下端に左上がりの刻み目を施し、その上方に凹線を巡らす。331～334は肩部に稜をもつ上半部だが、体部自体丸みをもつ。下半部も342のように、丸みをもつと推定される。対して、同じ上半部でも335・336は肩部に1条の凹線を巡らし、稜が明瞭。339・340がそれらの胴下半部に相当する。そして、稜をもつものの凹線をもたないの

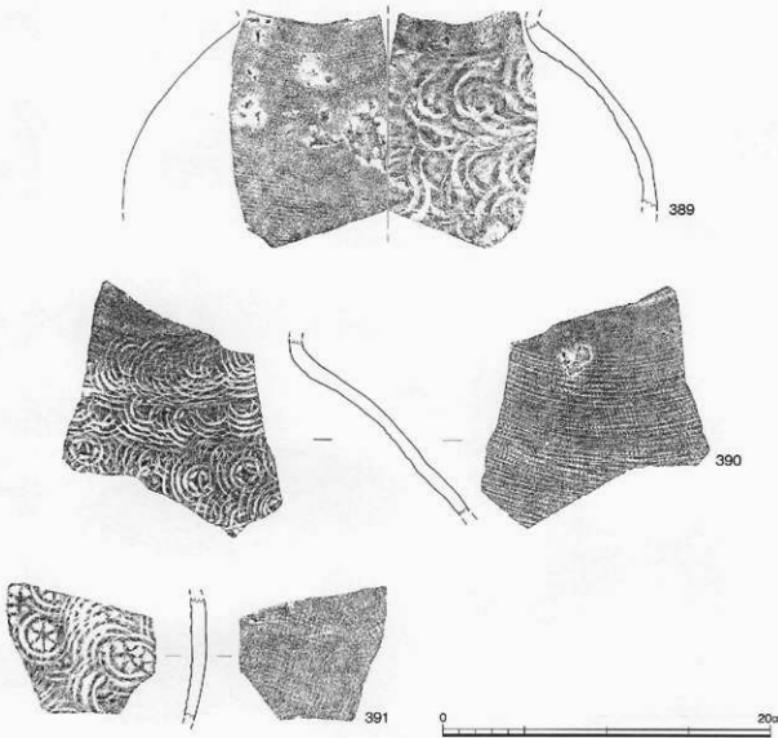


図99 SR-301-③層出土遺物⑦ -須恵器①-

が337・338、そして下半部での341である。

343～357は貼付高台を有する壺の底部。高台径や内面回転ナデの状況などから壺と区別した。343は丸い胴下半に、高く外に踏ん張り内端部で接地する高台を有する。同様に、外にしっかり踏ん張り内端部で接地する高台は、346・351・353・357等でも認められる。356は細く高い高台であるが、欠損部付近に体部の屈曲部が辛うじて残る。

358～360は脚台部。358は径約27cmと大型で、接地面は平坦。359は「ハ」の字状に聞く裾部で、端部を内側に突出させる。外面には暗灰色の自然釉が付着する。360は大きく聞く脚台部。端部は内側に巻き込む。

361～391は壺類。361～376が口縁部。361・362は文様を施す大型壺の口縁部。361は端部付近を外方に屈曲させ、端部を上方へ拡張し、端面に凹線を巡らす。屈曲部には断面三角形状の突帯を貼り付け、その下方に7条1單位のクシ描き波状文を施文する。362は外傾してのび、口縁端部内面を若干拡張し、外面は幅広に薄く折り曲げる。口縁部外面はナデによって形成された3～4条の凸線で区画され、その間を5条1單位の工具を用いて施文する。まず口縁外面上端部にクシ描き波状文、その下段にクシ歯列点文、さらにその下段にクシ描き波状文である（図版20-6）。

363～365は口縁端部を外側に折り曲げて肥厚させる口縁部。363・364は大型品。363の頸部外面には×印のヘラ記号が認められる。ただし線は微弱（図版20-6）。364は口縁外端部がナデにより段状となり、頸部外面はカキ目調整。365は中型品で、口縁部が短く外反する。外面タタキ調整、内面青海波文が残る。

366・367は短く外反してのび、端部を外方へ屈曲させ丸くやや肥厚させて収める（図版20-6）。368は口縁端部を上下に拡張し、端面に凹線を1条巡らす。369は短く外反し、口縁端部を上方にややつまみあげる。370～375は、口縁端部をナデ調整して面を作り、内面側を尖り気味につまみ上げる口縁部。370は中型品。371は小型品で、肩部外面は格子タタキをナデ消し、内面は青海波文。372～375は大型品で、口縁部は立ち気味に聞く。肩部まで残るものは、外面にタタキ後カキ目、内面に青海波文が残る。376は短く外反してのび、端部が面をなす。

377～381は頸部。377は大型品。377・378は口縁部外面に凹線による区画とクシ描き波状文がみられ、377の波状文下部にはカキ目調整がみられる。379はナ

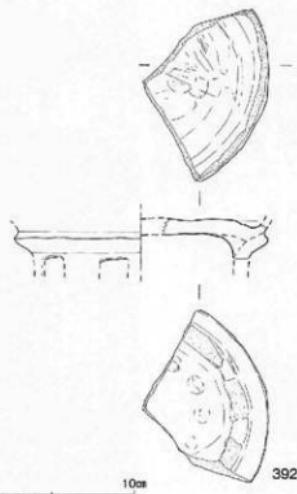


図100 SR-301-③層出土遺物 - 須恵器⑤- (縮尺1/3)

デによる凹線が認められる。380・381は頸部と胴部の屈曲部で、やや小型。382～390は頸部から肩部。基本的に外面タタキの後カキ目調整で、内面にあて具痕の青海波文が残る。387はやや小型で肩、391は外面のタタキが不定方向で、底部付近と推定される体部片。内面のあて具痕が車輪文である。

392は円面鏡の観部。残存状況から連続した長方形透を持つ圓足鏡で、透は9前後と復元される。観面には整形時のナデ痕が残り磨滅はみられず、ほとんど使用されていない（卷頭図版4-3）。

[瓦]

出土遺物中には瓦片も少なくない。ここでは393～408の16点を提示する（図101・102、図版20-7）。

393～404の12点は平瓦。393～397は凸面に繩タタキ痕、凹面に布目痕を残し、いずれも須恵質の焼き上がりである。393は兩部で、側端面は凹面側を面取りする。396は側端部に調整時の沈線が深く残り、布目痕をもつ凹面には、桶巻き作りの模骨に伴う凸凹がみられる。397は凸面繩タタキの後、一部を格子目タタキとナデ調整がなされ、凹面は布目をナデ消そうとして

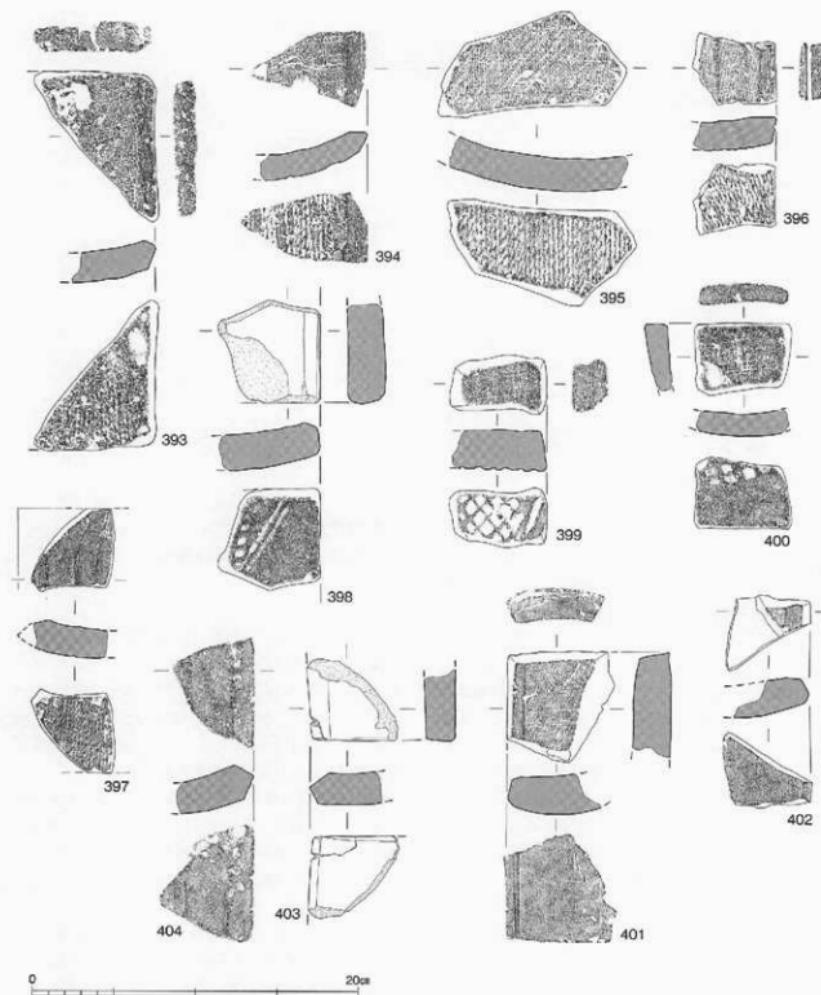


圖101 SR-301-③層出土遺物19 一瓦①— (縮尺1/3)

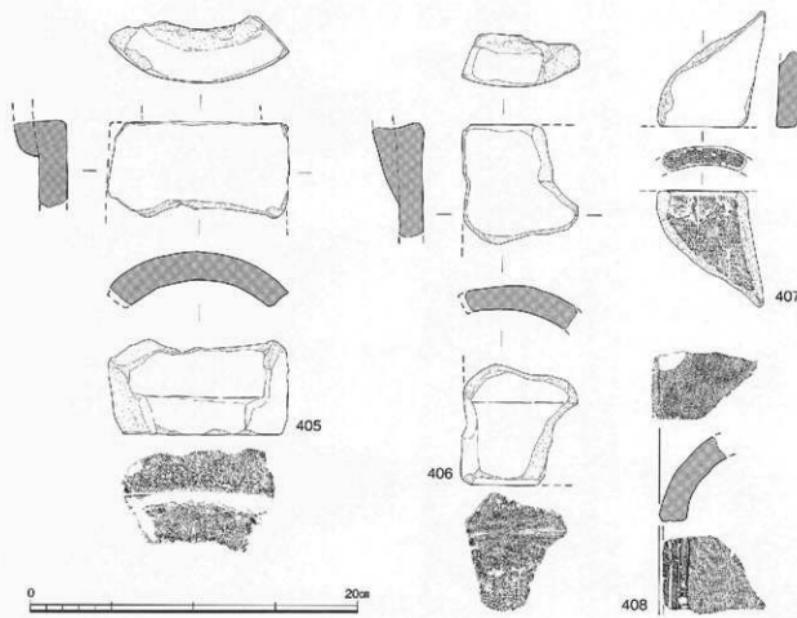


図102 SR-301-③層出土遺物20 一瓦.②一 (縮尺1/3)

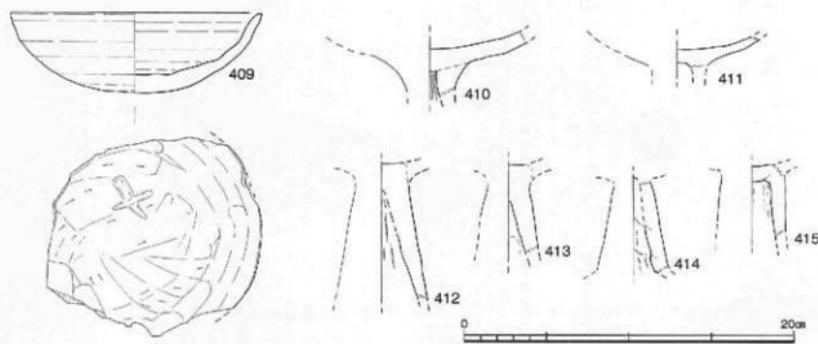


図103 SR-301-③層出土遺物21 一古墳土器①一 (縮尺1/3)

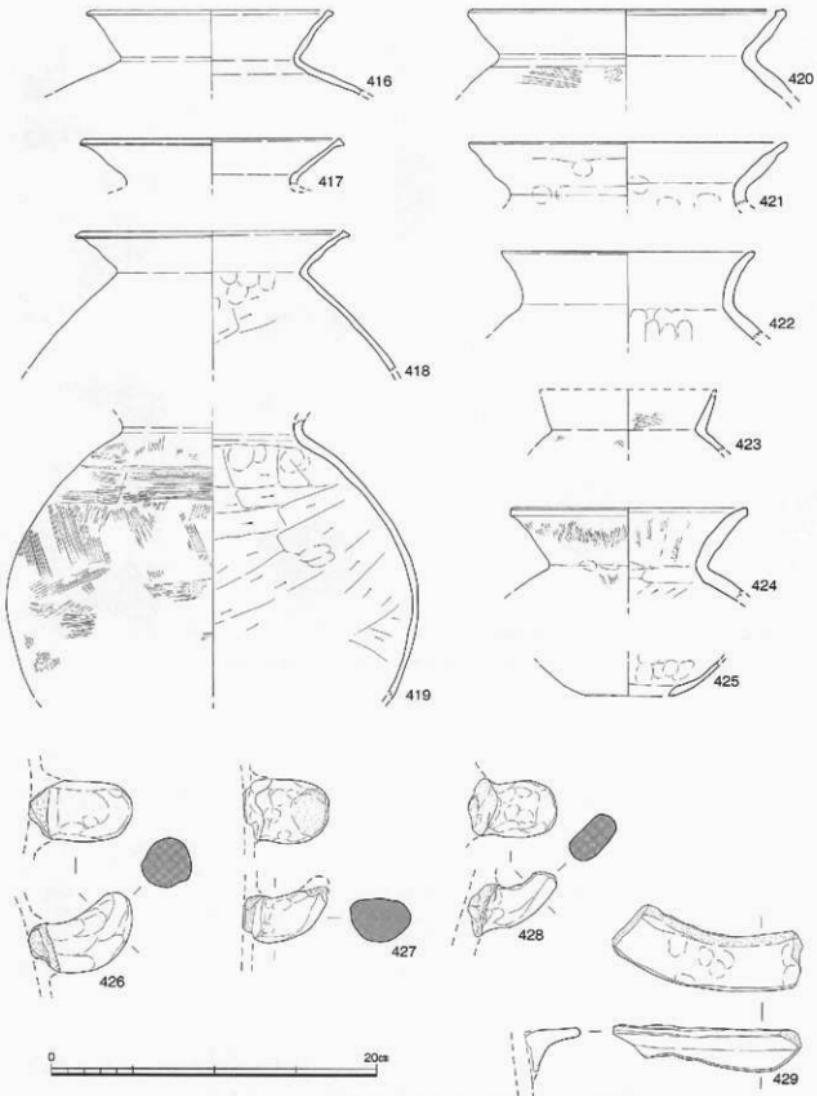


図104 SR-301-③層出土遺物22 —古墳土師器②— (縮尺1/3)

いる。398~400は凸面に格子目タタキ痕、凹面に布目痕を残す。焼成は軟質である。格子目はいずれも1辺6mm前後の菱形に近く、凹凸は深い。401・402は凸面ナデ仕上げ、凹面布目痕で、須恵質の緻密な焼き上がり。側端面を両側から面取りすること、細密な布目、そして焼成・色調から、同一個体の可能性がある。403・404は凸凹両面をナデ仕上げしている。

405~408は丸瓦。405・406は玉縁接合部であるが、ともに玉縁部は欠損している。405の接合部は、本体との接合幅が短く段差が高い。対して、406は接合部が幅広で、緩やかに本体部へと移行している。いずれも凹面には、一枚布の布目痕が残るが、405の段部は布がうまく密着せず布目が残らない。ともに表面に炭素を吸着させている。407・408は丸瓦片。凸面は磨滅しているが、ナデ調整とみられ、凹面には細かい布目がある。

[古墳時代の土師器]

先に、供器具を中心とした古代の土師器を提示したが、以下では土師器でも古墳時代に属する可能性が高いものを報告する。提示する資料は409~429の21点（図103・104、図版20~8）。

409は壺。回転により口縁部まで成形した後、底部外面を時計回りにヘラケズリし、口縁部外面を横ナデ仕上げする。底部外面に×印のヘラ記号がある。

410~415は高壺。410・411は壺部で、ともに壺部外底面に脚部を接合して成形する。410の脚部内面には絞り痕がよく残る。412~415は脚部で、前3者が円錐形、415は円柱形をなす。いずれも内面に絞り痕を残す。412・413は脚部上端側面に壺部を接合し、414は壺部外底面に脚部を接合するタイプ。なお、414は内面に輪積み痕を残し、脚部が屈曲し大きく広がる。415は円板充填を行っている可能性が高い。

416~423は壺。416~419は薄手に成形されており、古墳時代前期の布留式壺とみられる。416~417の口縁部は、横ナデにより内湾気味にのび、口縁端部は若干肥厚させる。419の脚部は球形をなし、外面は右上がりハケ目の後、左上がりハケ目を施し、肩部と脚部中位に横ハケ目を施す。内面は口縁部と脚部の境よりやや下がった位置までヘラケズリを施す。下半は左上がり、上半は右上がりから横方向。420は口縁端部を内側にやや肥厚させ、面は内側を向き、布留式の特徴を残しているが、全体的に器壁が厚く、脚部内面にケズリは施さない。421は外傾して直線的にのびる口縁部。

端部は丸く取めるが薄い。422は立ち気味に外反する口縁部で、端部を尖り気味に丸く取める。423は直線的に短くのびる口縁部に球形の削部をもつ。

424・425は壺。424は口縁部で、器壁がやや厚く、端部は面をなす。口縁部内外面ハケ目調整で、体部内面にはヘラケズリが行われている。425は焼成前穿孔をもつ底部片。全面磨滅のため不明瞭であるが、穿孔のない底部を形成した後、倒立状態で、何らかの工具を用いて底を切り開き、端部をつまみ上げるようにナデで整形したと推定される。底部内面には指頭圧痕がよく残る。

426~428は要または瓶の把手。426・427は厚みがあり、横断面が円形または梢円形をなす。428は扁平で横断面扁梢円形。

429は円弧を描く鉢状部。中世羽釜鉢部の可能性も考慮したが、上面が水平になる点と破片下部の湾曲から、移動式壺の脚部と判断した。

[弥生土器]

弥生土器は430~736の307点を、器種別に示す（図105~119、図版21~23-1）。

430~438は前期前半の壺、壺蓋。430・431は大型壺の口縁部で、ともに粘土帶接合部を利用して段を形成する。431は段部に刻み目を施し、口縁端部に接合部の段が残る。432・433は段を有する頸胴部焼片。前者の段は明瞭だが、後者は微弱（図版21-1）。434~438は胴部片。434は外面横方向のミガキを密に施した大きく張る胴部から、凹線状の凹みを形成して頸部に移行する。夜白系。胎土に角閃石を含み、搬入品とみられる（図版21-2）。435~437は、頸胴部境にヘラ描き沈線を3条ないし4条施す。438は特に段・沈線が認められない。

439~440は壺蓋。439は頂部が二山となると推測でき、内面はハケ目を残す（図版21-3）。440は扁平な円盤状で、壺蓋以外の可能性もある。

441~461は前期後半から中期初頭の壺（図版21-4）。441~449は口縁部。441は口縁下端部に刻み目を施し、規則外反する頸部から下がった位置に、上下を刺突文列で画す2条のヘラ描き沈線をもつ。442も同様に、頸部に刺突文列で画した4条以上のヘラ描き沈線がある。443はや立ち気味の口縁部で、口縁端部に1条のヘラ描き沈線、破片下端の頸胴部境に1条以上のヘラ描き沈線を施す。内外面、丁寧な横方向のミガキ仕上げである。444~448は大きく外反する口縁部。

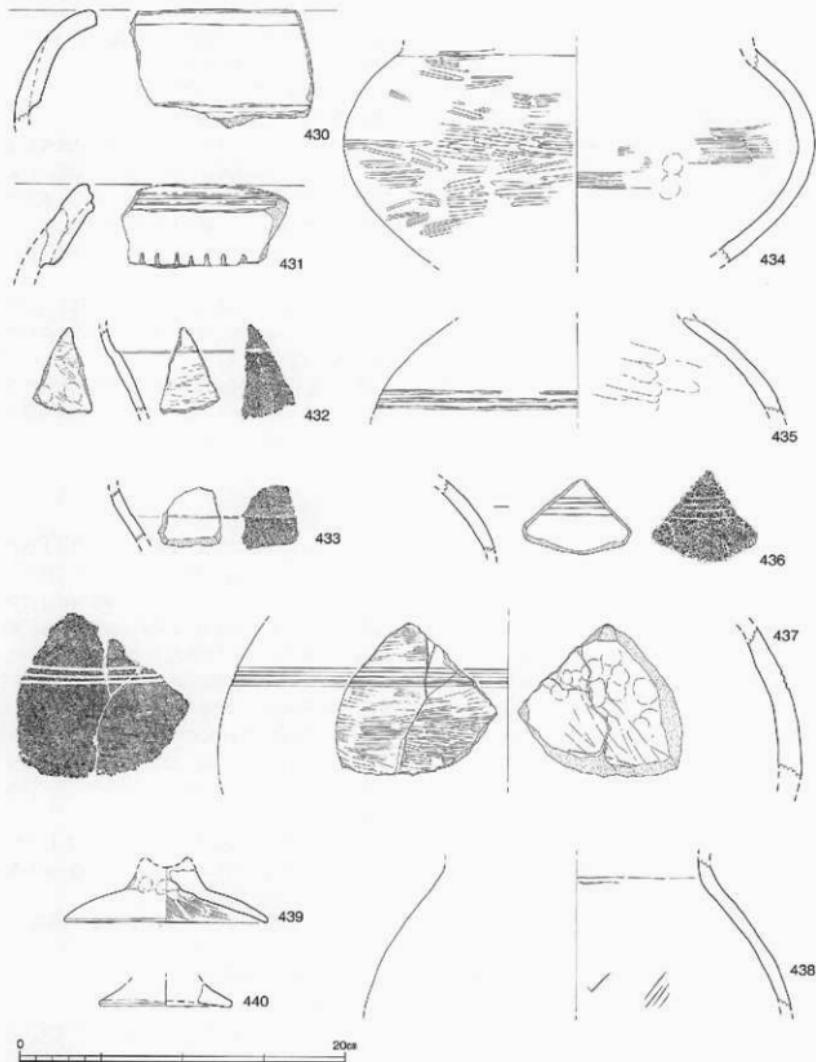


図105 SR-301-③層出土遺物23 -弥生土器①-

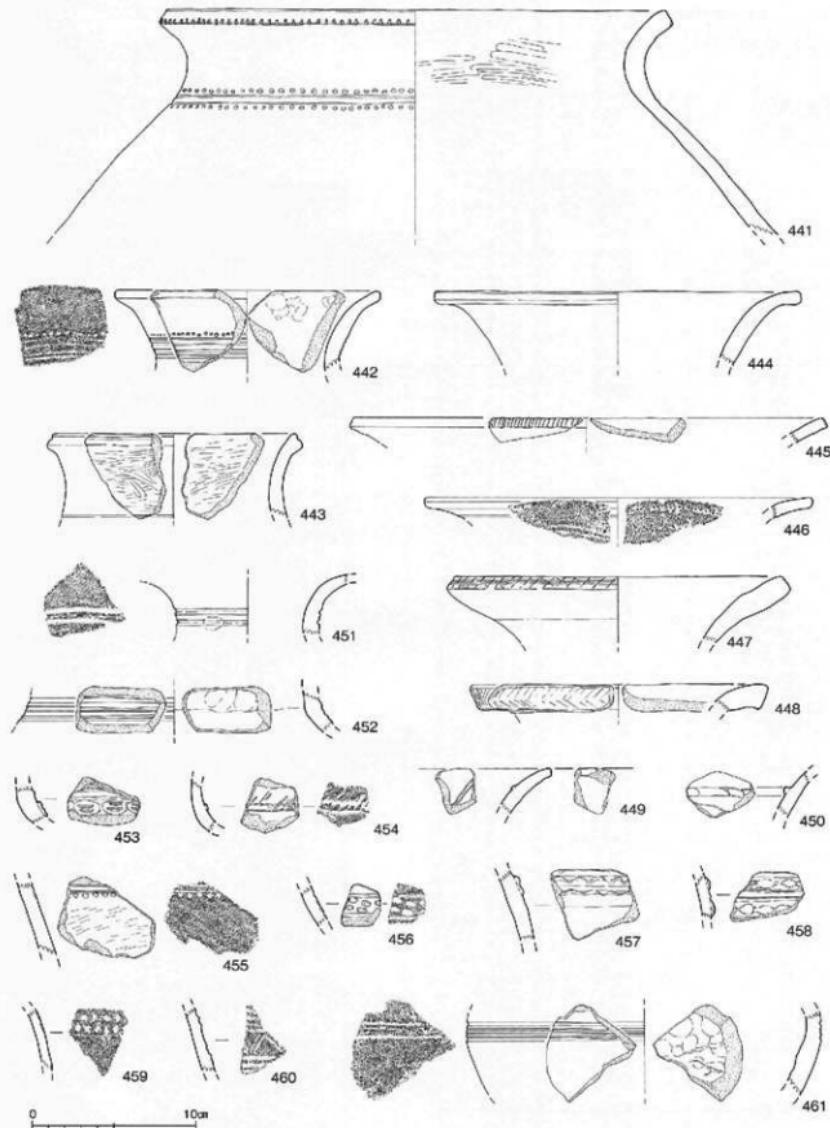


図106 SR-301-③層出土遺物24 -弥生土器②- (縮尺1/3)

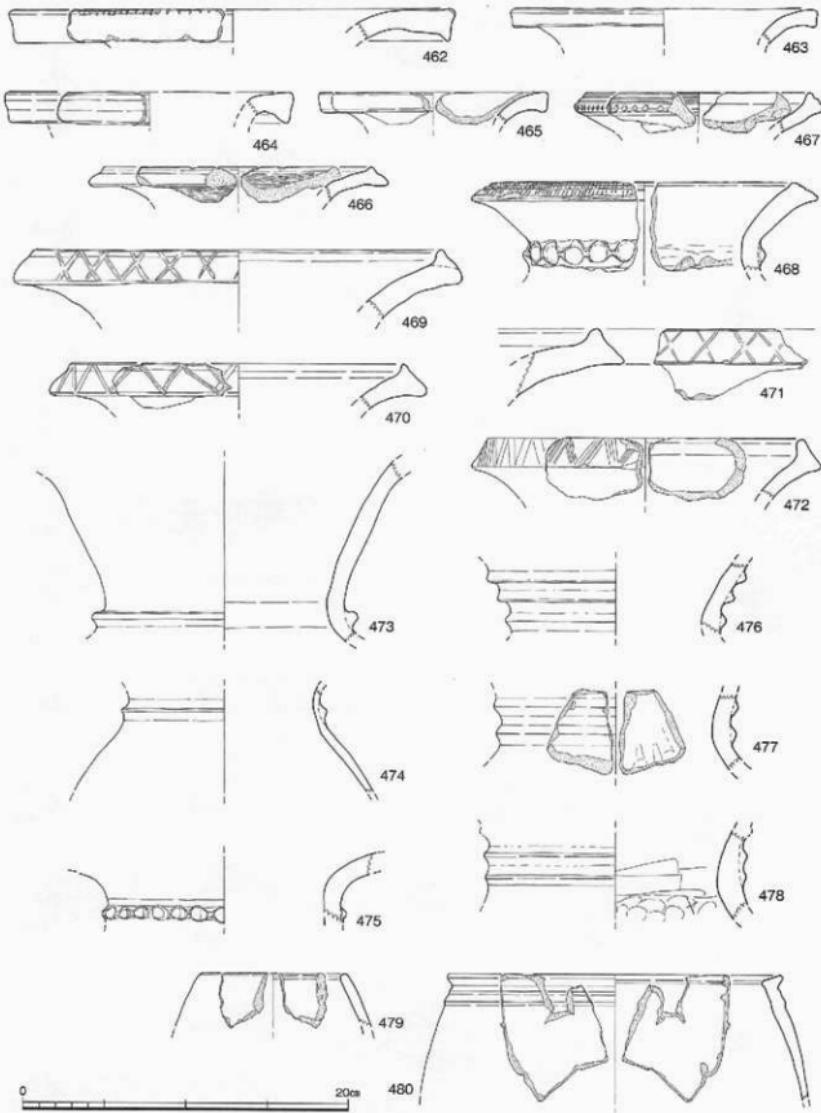


図107 SR-301-③層出土遺物26 一弥生土器③一 (縮尺1/3)

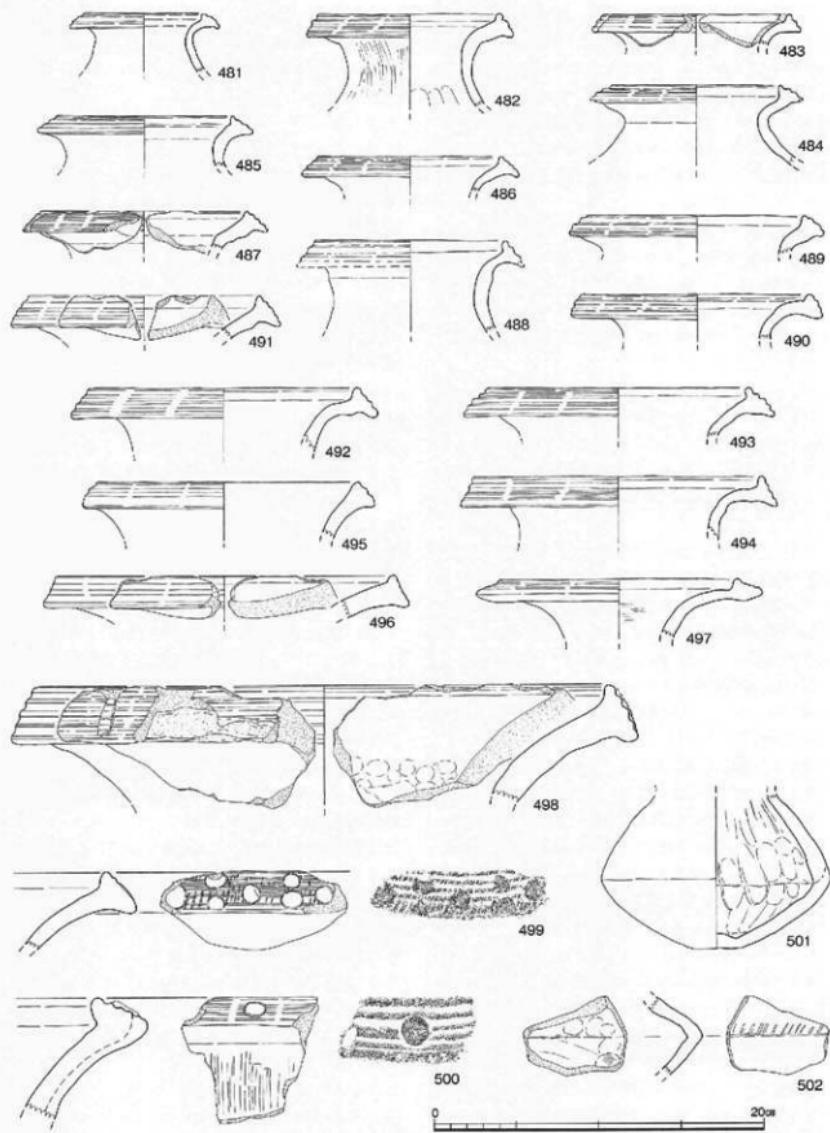


図108 SR-301-③層出土遺物29-弥生土器④- (縮尺1/3)

445は口縁端部全面を細かく刻み、壺口縁部とも考えたが、やや長いため壺と判断した。446は口縁部内面に円管刺突文が巡る。447は口縁部がやや肥厚し、端面にヘラ描き沈線1条を施した後、×の2方向に連続線文を断続的に加える。448は口縁端部が下方にやや肥厚し、端面には綾衫の單線文がみられる。449は内面斜め方向に突帯を貼り付けた口縁部片。突帯が注口状を呈する部位である。

450～454は頸部片。450は、内面に突帯が貼り付けられている。451は太いヘラ描き沈線を2条以上、452は4条以上のヘラ描き沈線が見られる。453はヘラ描き沈線2条と、連鎖状突帯1条が見られ、後者上面の刻みは2単位である。454は微弱な突帯を貼り付け、上部を刻む。

455～461は胴部片。455と456はヘラ描き沈線と刺突文の組み合わせ、457は貼付突帯、458は貼付突帯と沈線文の組み合わせ、459は円管刺突文のみ、460はヘラ描き沈線による、直線文と山形文の組み合わせである。461は胴最大幅部にクシ描き直線文1条を施す。クシ描き文は深い。

462～478は中期前葉から中葉の壺（図版21～5）。462～465は口縁部が大きく外反して、端部が断面三角形状に肥厚する。462は口縁上端部に刻み目を施す。464の肥厚は大きく下垂する。466も大きく外反し、端部がさらに外方へ突出し、上端部をつまみ上げる。467は外反する口縁部を上下にやや拡張し、沈線状の凹線2条を施し、下端部を刻む。468は、押圧を施す貼付突帯を有する頸部から口縁部が緩やかに外反し、端部にヘラ描き沈線3条の後、2条1単位の短線文を刻む。469～470は大きく外反する口縁部の端部を上につまみあげ、端面に短線文を刻む。469・471は連続×字文、470は山形文である。472はやや直線的に外反する口縁部で、端部を内側に突出させ、幅広の端面を形成する。その口縁外端面には、3条1単位のクシ描きによる連続山形文が施される。

473～478は頸部。473・474は頸部に1条の断面三角形突帯を貼り付けるもので、比較的張る体部から、頸部で明確に屈曲して直線的に開く頸部をもつ器形に復元できる。前期末葉まで遡る可能性もある。475は頸部に押圧を施す貼付突帯をもち、口縁部は頸部から一度立ち上がって、大きく外反する。476～478は簡状から外傾する頸部に、断面三角形の突帯を複数条貼り付ける。

479・480は無頭壺。479は口縁部小片で、時期の詳細は不明。480は、瀬戸内製壺様に、口縁端部に接して断面三角形の突帯を貼り付け、外面口縁下に横ナデを額若に施す。口縁部突帯が小さいこと、丁寧な仕上げであることから、無頭壺と判断し、時期も中期中葉を前後するとして、ここに提示した。

481～500は中期後葉の凹線文が卓越した壺（図版21～6）。481～494は、内傾しない直立する頸部から外反し、口縁端部を上下に拡張して四線文を3～4条施す。495～497は同様に口縁端部に凹線文をもつが、頸部からの開き具合がやや異なる。495はやや立ち気味に開き、496は大きく直線的に開く。497は大きく外反し、口縁端面はむしろ上方を向く。498～500は大型品で、やはり外反する口縁部を上下に拡張し、凹線文を4～5条施す。498では棒状浮文がさらに付され、499は凹線文上を短線文で刻み、円形浮文を2段1段2段と交互に密に貼り付ける。500もさらに大型の円形浮文が貼り付けられている。

501・502は、「く」の字状に屈曲する壺体部。501は残存部分から、筒状の頸部が立ち上がるると推測される。502は屈曲部上側に、「ノ」字状の刻み目を施す。時期の詳細は不明ながら、中期後葉を前後する時期の可能性が高いとして、ここに提示している。

503～521は後期から終末期の壺。503～506は凹線文をなお有するが、条数も少なく微弱。505・506は口縁部がやや内湾気味である。後期初頭に位置づけられよう。507～511は直立する頸部から外反する口縁部。凹線文をもたず、口縁端部は厚さの変化もなく、そのまま取める。507の頸部には、板小口によるとみられる「ノ」字状の刻み目が施されている。512はやや頸胴部の屈曲が明瞭。いずれも後期初頭から前葉。

513は外面の磨滅がとりわけ著しいが、直線的に外傾する口縁部に凹線文なし貼付突帯を連続的に施す。器台の可能性も考慮したが、口縁端部の形状や口径から壺口縁部と判断した。中期に遡る可能性もある。514は外反する口縁部から短く口縁端部が直立し、受け口状。頸部は縱方向のミガキ仕上げが丁寧になされている（図版21～7）。515・516は直立する口縁端部に凹線文を施す。515は小型で壺の可能性もあるが、ここで提示した。517はやや内傾であるが、やはり端部に多条の凹線文がみられる（図版21～8）。513～517は在地で器形の系譜が追えず、いずれも中部瀬戸内系と考えられる。

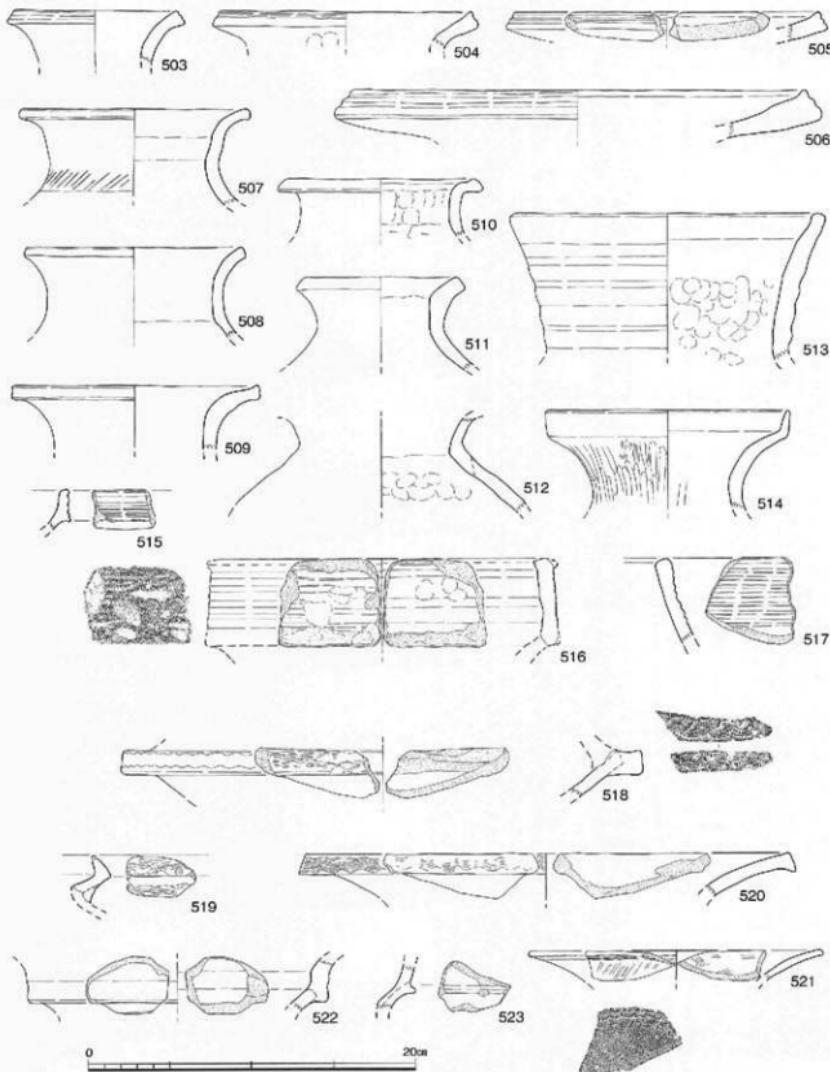


図109 SR-301-③層出土遺物27 -弥生土器⑤- (縮尺1/3)

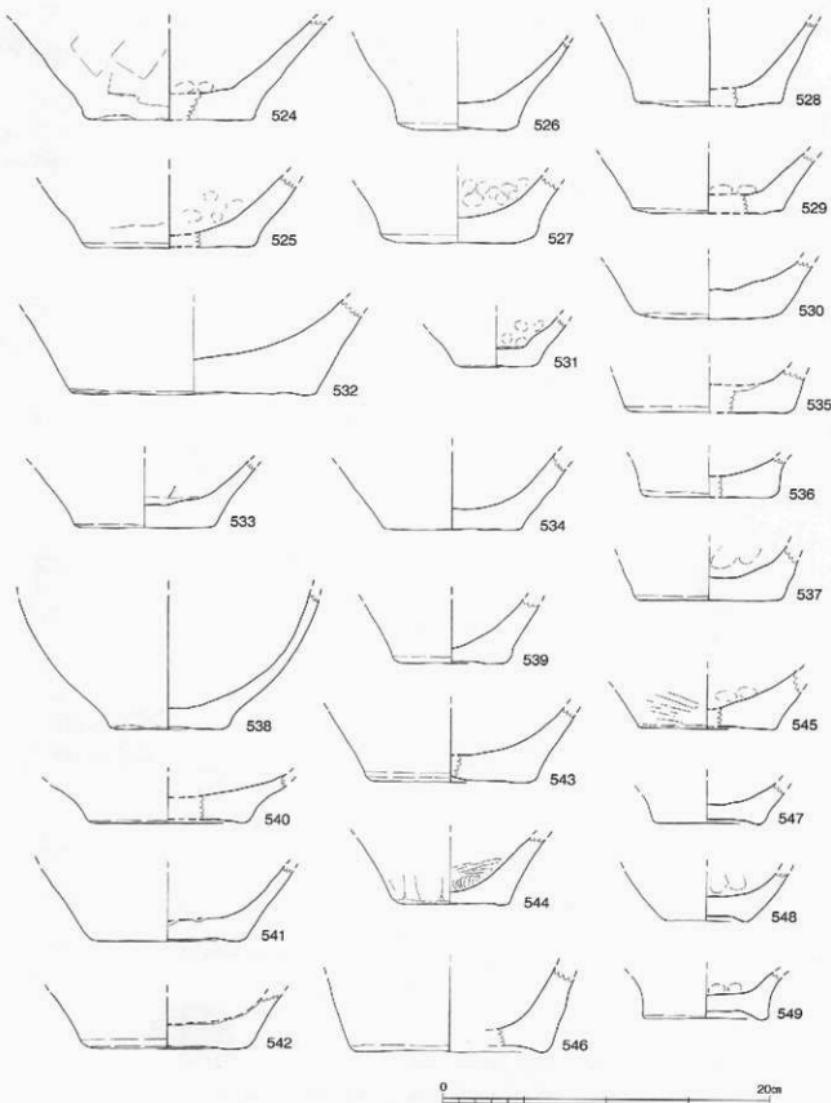


図110 SR-301-③層出土遺物26 一弦生土器⑥一 (縮尺1/3)

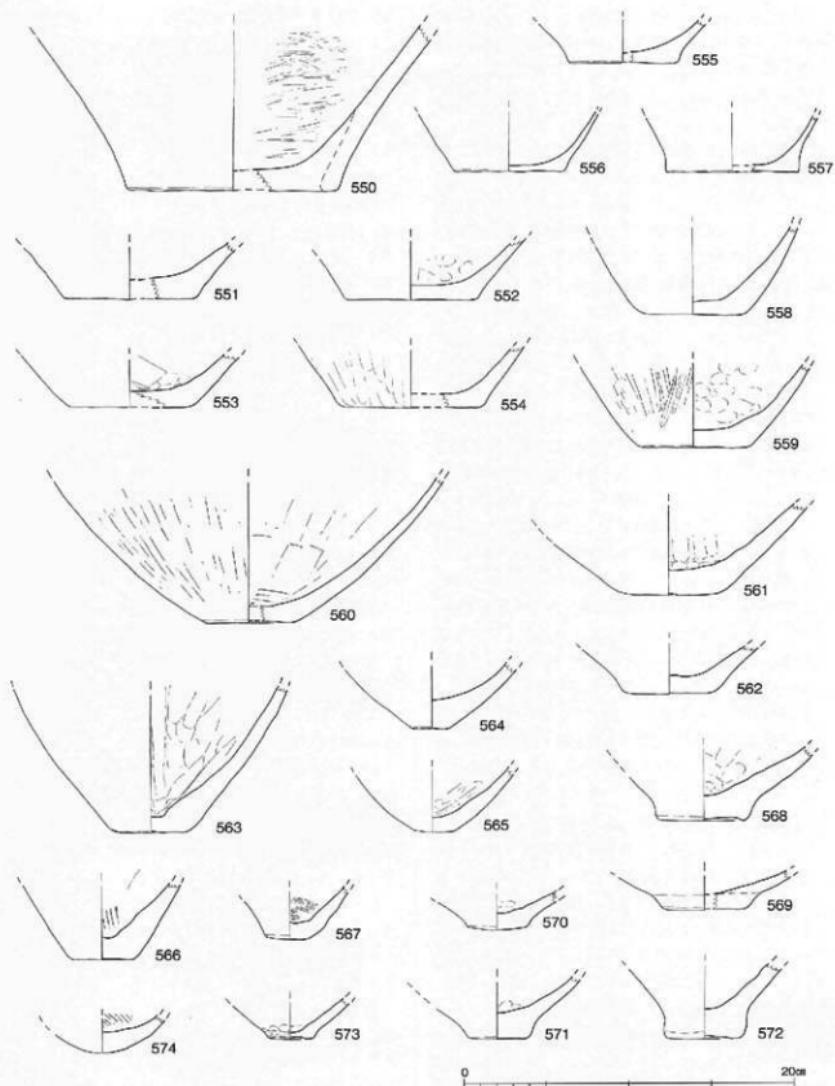


図111 SR-301-③層出土遺物29 -弥生土器①-